

平成13年度厚生科学研究費補助金（医薬安全総合研究事業）
分担研究報告書

薬物使用に関する全国住民調査

分担研究者 和田 清 国立精神・神経センタ - 精神保健研究所薬物依存研究部長
研究協力者 菊池安希子（同流動研究員）尾崎 茂（同心理社会研究室長）

研究要旨 わが国の飲酒・喫煙・医薬品をも含めた薬物乱用・依存状況を把握するために、層化二段無作為抽出法により選ばれた全国の15歳以上の住民5,000人に対して、戸別訪問留置法による「薬物使用に関する全国住民調査」を実施した。調査期間は2001年9月20日～10月5日である。回収数及び有効回答数は、ともに3,575（71.5%）であった。【飲酒】 飲酒生涯経験率は男性で96.8%、女性で90.8%、全体で93.7%であった。「ほとんど毎日飲酒している」者の割合は、男性では50歳代、女性では40歳代で最高となり、その後、低下していた。わが国の飲酒はライフ・サイクルと深く結びついており、飲酒問題を論じる際には、飲んだことがあるかないかを基準にしても、さほど意味がなく、機会、頻度、量等の質的要因を考慮する必要があることが示唆された。【喫煙】 喫煙の生涯経験率は男性で86.5%、女性で45.1%、全体で64.8%であった。この1年間に喫煙経験のあった者での1日の喫煙本数は、男性では11-20/日の者が39.5%と最も多く、次に1日21本以上の者が28.7%と多かった。女性では1-10/日の者が37.8%と最も多く、次に11-20/日の者が29.1%と多かった。年代別では、男性では1日に21本以上吸う者の割合は、年代とともに増加し、50歳代でピークを迎え、その後は低下していた。一方、女性では20歳代で一旦低下するが、その後増加し、同じく50歳代でピークを迎え、以後低下していた。【医薬品】 家庭の常備薬としては、風邪薬、胃腸薬、目薬、湿布薬、鎮痛薬の順に頻度が高く、この1年間に1回でも使用したことがある医薬品としては、風邪薬、目薬、鎮痛薬、胃腸薬、湿布薬の順で頻度が高かった。常用（週3回以上）している医薬品としては、鎮痛薬で男性2.3%、女性1.7%、全体で1.6%であり、精神安定薬では男性2.4%、女性2.5%、全体で2.4%、睡眠薬では男性0.8%、女性1.4%、全体で1.7%であった。鎮痛薬、精神安定薬、睡眠薬に関し、「遊び・快感目的」で使用している者は認められなかった。以上より、医薬品は、それなりに適切に使用されていることが示唆された。【違法薬物】 違法性薬物乱用の生涯被誘惑率は、有機溶剤（3.4%）、大麻（1.8%）、覚せい剤（1.0%）、コカイン（0.3%）、LSD（0.2%）、ヘロイン（0.2%）の順で高かった。違法薬物の生涯経験率は、有機溶剤（1.6%）、大麻（1.0%）、覚せい剤（0.3%）、コカイン（0.1%）、LSD（0.1%）、ヘロイン（0.06%）であった。また、これらのうちのいずれかの薬物に関する生涯経験率は2.3%（1999年：2.2%）で、有機溶剤を除いたいずれかの薬物の生涯経験率は1.2%（1999年：1.1%）と、いずれも過去最高であった。また、いずれかの薬物の生涯経験率と言う見方をすると、20歳代では5.8%、30歳代では4.9%と高く、特に男性に限れば、20歳代で7.4%、30歳代で9.5%にもものぼった。大麻の生涯経験率は1995年に本調査が始まって以来着実に増加していた。大麻はゲイト・ウェイ・ドラッグとなりやすい性質があり、今後のわが国の薬物乱用状況に影響しかねない問題である。覚せい剤のみに目を奪われることなく、今後、この大麻乱用の広がりを監視する必要がある。違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤のみで入手可能群（「簡単に手に入る」＋「少々苦労するが、なんとか手に入る」）（48.3%）が入手不可能群（「ほとんど不可能」＋「絶対不可能」）（44.1%）を上回っていた。ただし、年代別に見ると、有機溶剤以外の違法薬物では、若い年代ほど入手可能群の割合が多いことが明らかであった。これは、第3次覚せい剤乱用期における多様な乱用薬物の入手可能性の増加を示唆するものであり、注意が必要である。以上、2001年のわが国での違法薬物乱用状況は、多くの先進諸国に比べれば極めて良好ということになる。しかし、大麻の生涯経験率が着実に増加しており、また、青年層での各種薬物の入手可能性は高まっており、決して楽観できる状況とは言えない。薬物乱用状況の現状を維持し、できれば廃絶を目指すためにも、気の抜けない状況にあると推定できる。

A . 研究目的

今日、薬物乱用・依存問題はグローバルな問題として、各国にとって深刻な問題となっている。

戦後のわが国での歴史は、覚せい剤、有機溶剤の乱用・依存問題との戦いであり、特にその歴史は覚せい剤の乱用に特徴的である。終戦後という混乱した時代に発生した第一次覚せい剤乱用期、オイル・ショックに象徴される経済不況による第二次覚せい剤乱用期を経て、1990年頃からは、国際化の実質化としての乱用薬物の多様化が顕著となり、バブル経済の破綻後の1995年以降は、第三次覚せい剤乱用期となった(12)。

このように、薬物乱用・依存問題は時代・社会の変化と共に刻々と変化しており、その対策もその時々の実情に即したものでなければならない。そのためには、乱用・依存の実態を経年的に把握する多面的な疫学的調査が必要である。しかも、それらには、違法性薬物以外の医薬品をも含めた使用の実態把握が望ましい。

本調査は、薬物使用・乱用に関する幾つか存在する経年的全国調査の中の一つであるが、全国の一般住民を対象とした薬物乱用・依存の実態把握調査としては、わが国唯一のものである。

この住民調査は、厚生科学研究費補助金により実施されてきた。1992年には千葉県・市川市(対象：1,100人)2)で、1993年には東京圏、大阪圏(対象：3,000人)3)、1994年には東京圏、大阪圏、北九州圏(対象：3,300人)4)に対して実施され、その成果のもとで、1995年には、わが国初の「薬物使用に関する全国住民調査」(対象：5,000人)5)となった。その後、全国規模の調査は1997年6)、1999年15)と実施され、今回の2001年調査となった。

本調査研究の成果は、わが国における薬物乱用・依存の啓発、予防、介入対策の基礎資料となるものであることは言うまでもないが、常備薬をも含めた医薬品のあり方を考える際の基礎資料にもなり得るものである。

B . 研究方法

研究計画は下記の通りである。

- ・地域 全国
- ・対象 市区町村に住む満15歳以上の男女
標本数：5,000人

- ・抽出方法 層化2段無作為抽出
(調査地点数：350)
(社団法人 新情報センター に委託)
- ・調査方法 調査員による個別訪問留置法
(社団法人 新情報センター に委託)
- ・調査内容 巻末資料の通り
- ・調査期間 2001年9月20日～10月5日

層化2段無作為抽出について

この種の疫学的調査において最も大切なことは、全国の地区町村に住む15歳以上の男女5,000人を如何に適切に無作為抽出するかである。そのための方法として、一連の本調査では層化2段無作為抽出法を採用している。その概略は以下の通りである。

(1)全国の地区町村を都道府県を単位として、以下の11地区に分類した。

- 北海道地区 = 北海道
- 東北 地区 = 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 関東 地区 = 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- 北陸 地区 = 新潟県、富山県、石川県、福井県
- 東山 地区 = 山梨県、長野県、岐阜県
- 東海 地区 = 静岡県、愛知県、三重県
- 近畿 地区 = 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 中国 地区 = 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 四国 地区 = 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 北九州地区 = 福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
- 南九州地区 = 熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

(2)さらに各地区内を、都市規模によって以下のように16分類し、それぞれを第1次層として、下記のように計46層とした。

- ・大都市 = 東京都区部、札幌市、仙台市、千葉市、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市(計13層)
 - ・人口10万人以上の都市(計11層)
 - ・人口10万人未満の都市(計11層)
 - ・郡部(町村)(計11層)
- (注)：ここでいう都市とは、平成13年4月1日現在による市制施行の地域である。また、人口による都市規模の分類は、平成12年3月31日現在の住民基本台帳に基づく「住民基本台帳人口要覧」(自治省行政局編)によった(15歳以上の人口：107,518,013)。

(3)標本数5,000人を、上記46層の各層における人口密度に基づき、各層に比例配分し、各調査地点

の標本数が11～16になるように調査地点を決めた。

(4)第1次抽出単位となる調査地点には、平成7年国勢調査時に設定された調査地点を使用し、調査地点(調査区)の抽出は、以下の手順によった。

・層内での調査地点(調査区)数が1の場合には、乱数表により無作為に1地点を抽出した。

・調査地点(調査区)数が2以上の場合には、抽出間隔(= $\frac{\text{層における国勢調査時の15歳以上人口の(計)}}{\text{層で算出された調査地点数}}$)を算出し、等間隔抽出法によって、調査地点(調査区)を無作為抽出した。調査地点(調査区)を抽出する操作を1段という。

(5)抽出に際しての各層内市区町村の配列順序は、平成7年国勢調査時の市町村コードに従った。

(6)調査地点(調査区)における対象者の抽出は、抽出間隔(= $\frac{\text{調査区における国勢調査時の15歳以上の人口}}{\text{各層での調査区抽出標本数}}$)を算出し、住民基本台帳より等間隔抽出法により無作為抽出した。調査地点(調査区)から対象者を抽出する操作を2段という。

以上の操作によって得られた層別標本数と調査地点(調査区)数を表1に示した。

表1 地区・都市規模による調査票本数と地点数 - 標本数(地点数)

地区	大都市				人口10万 以上の市	人口10万 未満の市	郡部 (町村)	計
	東京都 区部	横浜 京都	川崎・大阪 北九州	その他 の市				
北海道				72(5)	67(5)	36(3)	52(4)	227(17)
東北				39(3)	117(8)	92(6)	141(10)	389(27)
関東	326(23)	135(9)	48(3)	36(3)	650(45)	209(14)	193(13)	1,597(110)
北陸					84(6)	65(5)	72(5)	221(16)
東山					70(5)	55(4)	80(6)	205(15)
東海				84(6)	217(15)	93(6)	100(7)	494(34)
近畿		56(4)	100(7)	58(4)	369(26)	123(9)	110(8)	816(58)
中国				43(3)	121(8)	61(4)	82(6)	307(21)
四国					65(5)	39(3)	63(4)	167(12)
北九州			40(3)	51(4)	73(5)	79(5)	96(7)	339(24)
南九州					92(6)	54(4)	92(6)	238(16)
計	326(23)	191(13)	188(13)	383(28)	1,925(134)	906(63)	1,081(76)	5,000(350)

表2 回答数(率)

調査対象数	5,000
有効回答数(率)	3,575 (71.5%)
調査不能数(率)	1,425 (28.5%)
不能内訳	
転居	163 (3.3%)
長期不在	78 (1.6%)
一時不在	386 (7.7%)
住居不明	43 (0.9%)
拒否	584 (11.7%)
その他	171 (3.4%)

表3 調査不能ケースの性別・年代別内訳(%)

	男性		女性	
	人数	率	人数	率
	756人	53.1%	669人	46.9%
15～19歳		2.7		3.6
20歳代		10.7		9.3
30歳代		10.0		7.3
40歳代		8.8		5.8
50歳代		10.7		8.4
60歳以上		10.0		12.4

表4 地区別標本数と回収数(率)

地区	標本数	回答数(率)
北海道	227	173 (76.2)
東北	389	291 (74.8)
関東	1597	1051 (65.8)
北陸	221	176 (79.6)
東山	205	162 (79.0)
東海	494	365 (73.9)
近畿	816	564 (69.1)
中国	307	239 (77.9)
四国	167	128 (76.6)
北九州	339	250 (73.7)
南九州	238	176 (73.9)
計	5,000	3,575 (71.5)

C. 研究結果

1. 回収結果(表2~表6)

回答数(率)は3,575 (71.5%)であり、調査不能ケースの内訳は表2、表3の通りである。地区別標本数と回答数(率)は表4の通りである。今回の回答数は、この種の調査としてはまずまず良好と考えられる。

対象の性・年齢・学歴は表5に示した。

対象の職業・身分は表6に示した。

2. 調査結果(表7~表135)

調査結果は男女別に表7~表135に示した。また、調査結果の中で重要と思われる項目については図1~図32、表136~140に示した。

D. 考察

1. 飲酒習慣について

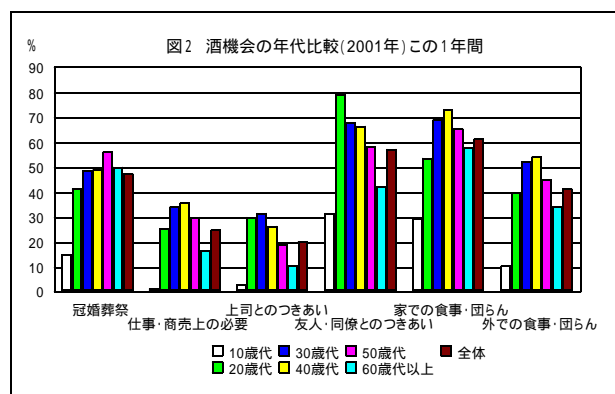
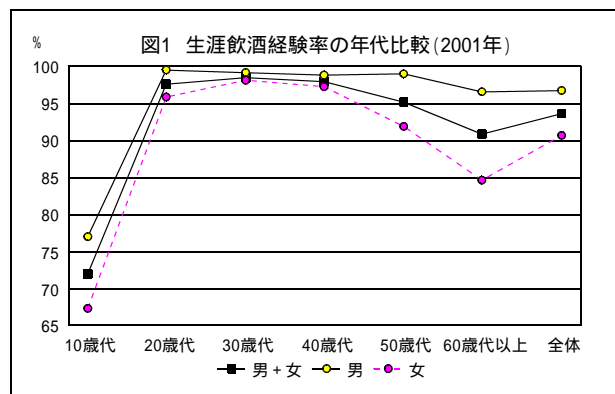
飲酒生涯経験率(これまでに1回でも飲酒したことのある者の割合)は、男性で96.8%、女性で90.8%、全体で93.7%であった(表7)。図1に飲酒経験率の年代別比較を示したが、10歳代を除けば、男性では年代に関わらず95%を越えており、女性でも50歳代までは90%を越えていた。このことは、わが国では、ほとんどの者に飲酒の生涯経験があり、「飲んだことがあるか、ないか」を基準に飲

酒関連問題を論じてもさほど意味がなく、機会、頻度、量等の質的因子を絡めて論じる必要があることを示唆している(10)13)16)。

これまでに飲酒したことのある機会(表8)では、男性では「友人・同僚と」(78.6%)、「家の食事・団らん」(74.6%)、「冠婚葬祭」(73.1%)が多く、女性では「冠婚葬祭」(71.1%)、「友人・同僚と」(70.1%)、「家の食事・団らん」(68.3%)が多かった。

初飲年齢(初めて飲酒した年齢)は表9の通りである。男性では「18~19歳」で始めた者が最も多く、女性では「20歳以降」に始めた者が最も多かった。

飲酒経験者が「それなりに飲酒するようになった時期」は表10の通りである。男女共に「20歳以降」の者が最も多く、次いで「18~19歳」が多かった。ただし、「それなりに飲酒」という聞き方は、わかりやすいようで不明確であり、人によっては「それなりに飲酒」するまでには至らなかった者も少なくなく、そのような者たちにとって、この設問には妥当な選択肢がなく、回答者に混乱を生じさせた。そこで、今回の集計では、そのような者たちの回答を探し出し、「無回答」として



集計した。この設問をどう改良するかは今後の課題の一つである。

飲酒1年経験率（この1年間で飲酒経験のある者の割合）は、男性で89.6%、女性で82.5%であった（表11）。

過去1年間で飲酒した機会（表12）は、男性では「家の食事・団らん」（74.7%）、「友人・同僚と」（74.0%）、「冠婚葬祭」（60.3%）が多く、女性では「家の食事・団らん」（67.7%）、「友人・同僚と」（59.8%）、「冠婚葬祭」（50.6%）が多かった。図2は、過去一年間に飲酒した機会の頻度を示しているが、「冠婚葬祭」での飲酒経験は50歳代で最も高く、「仕事・商売上の必要」は30歳代、40歳代、「上司とのつきあい」は20歳代、30歳代、「友人・同僚とのつきあい」は20歳代、「家での食事・団らん」は30歳代、40歳代、「外での食事・団らん」は30歳代、40歳代で最も高く、ライフサイクルの影響を色濃く反映していると考えられた。

過去1年間の飲酒頻度は、男性では「ほとんど毎日」の者が34.4%と最も多く、「週3~6回」の者も含めると、51.2%にのぼった。女性では「1年間に数回」の者が33.4%と最も多かった。

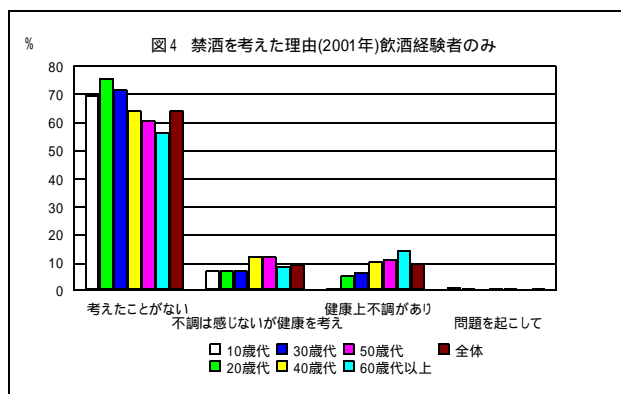
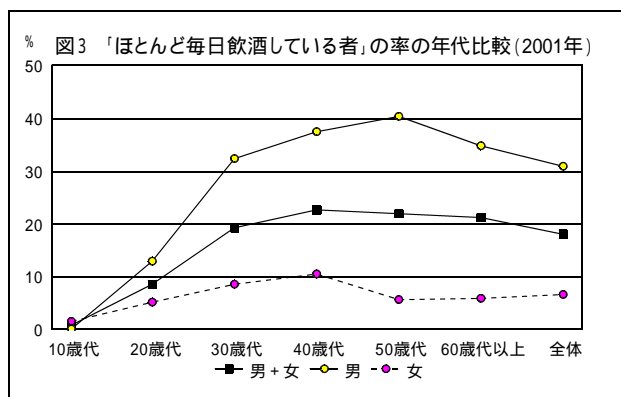


図3は、「この1年間で、ほとんど毎日飲酒している者」の割合を年代比較で示している。男女共に年代が進むにつれて増加し、男性では50歳代、女性では40歳代でピークを迎え（それぞれ40.3%、10.6%）その後、低下することが示されている。

生涯飲酒経験者での禁酒に対する考え・実態は表14に示した。禁酒中の者も含めて禁酒を考えたことのある者は、男性で29.2%（480人）、女性で12.5%（212人）であった。

禁酒を考えた理由としては、男性では「健康上の不調を感じたから」の者が50.2%と最も多く、女性では「健康上の不調は感じないが可能性が心配になったから」が45.3%と最も多かった。図4は、理由の年代別比較である。40歳代、50歳代で健康上の心配が増え、実際の不調も40歳代から増加することがわかる。

2. 喫煙習慣について

これまでに1回でも喫煙したことのある者の割合（喫煙生涯経験率）を表16に示した。男性で86.5%、女性で45.1%、全体では64.8%であった。図5は喫煙生涯経験率を年代別に示している。男性では19歳代を除けば、世代に関わらず90%と高率であるが、女性では40歳代以降の世代と50歳代以上の世代とで違いがある可能性が示唆された。

喫煙生涯経験者について、初めて喫煙した時の年齢を表17に示した。男女ともに「18-19歳」で始めた者が最も多かった。

また、喫煙生涯経験者について、「それなりに喫煙するようになった時期」を表18に示した。ここでも「それなりに」という設問の曖昧さは飲酒の場合と同じであるが、飲酒の場合ほどは混乱が見られなかった。喫煙の場合、吸うと言うことは「それなりに吸う」レベルに発展しやすいことを示唆している可能性がある。

喫煙1年経験率（この1年間で1回でも喫煙したことのある者の割合）を表19に示した。男性で54.7%、女性で19.1%、全体で36.0%であった。図6は喫煙1年経験率を年代別に示したものである。男女ともに20歳代で最も高く、以後、年代とともに低下していた。

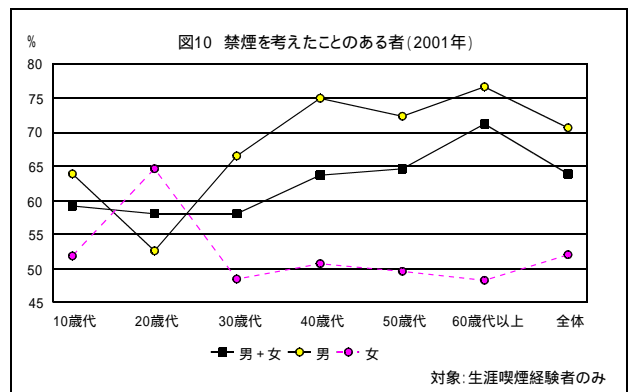
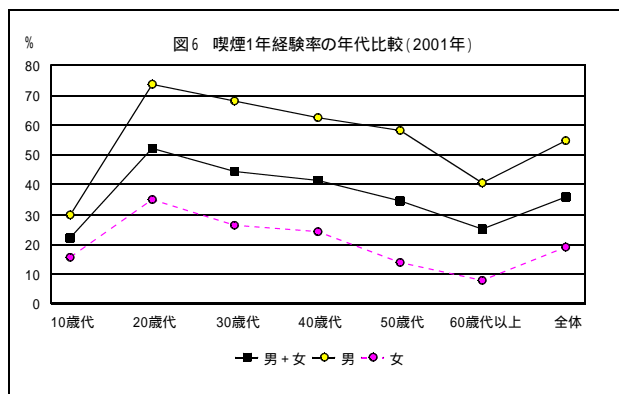
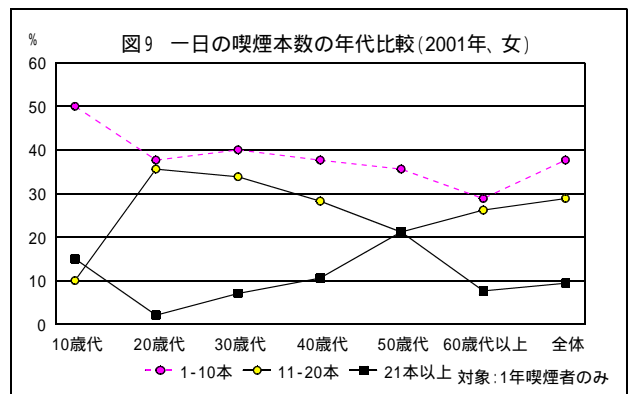
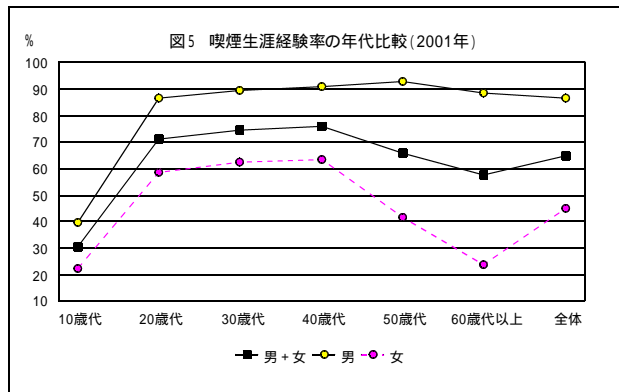
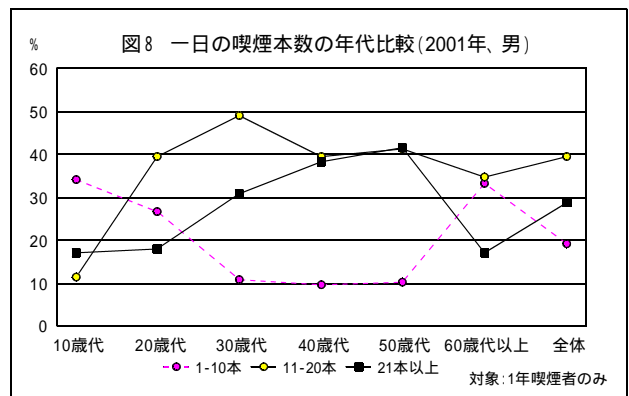
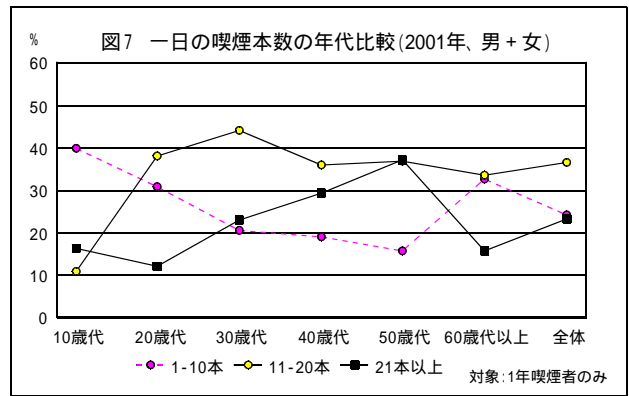
喫煙1年経験者に関して、過去1年間の喫煙頻度を表20に示した。「ほとんど毎日」の者が男性では87.3%、女性で76.5%、全体で84.4%であり、飲

酒に比べて高率であった。

図7～図9は喫煙1年経験者の中での「ほとんど毎日」喫煙する者の本数からみた割合を示している。男女ともに20歳代から50歳代まで、一日21本以上喫煙する者の割合が年代とともに増加していた(図8、図9)。

喫煙生涯経験者に関して、禁煙を考えたことの有無と禁煙状況とを表21に示した。また、図10は、喫煙生涯経験者に関して、禁煙を考えたことのある者の割合を年代別に示した者である。男性では40歳代から急に割合が増加していたが、女性では20歳代のみが特異的に高かった。20歳代の女性では妊娠問題が絡んでいると推定できる。

喫煙生涯経験者で、禁煙を考えたことがあるか、あるいは禁煙したことがある者に関して、その禁煙理由を表22に示した。男女ともに、「健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから」を選んだ者が最も多く、次に「健康上の不調を感じたから」「他者への影響」を選んだ者が多かった。



3. 常備薬・医薬品について

1. 常備薬について

家庭の常備薬の常備状況については表23に示した。常備薬としては、風邪薬(69.1%)、胃腸薬(64.0%)、目薬(59.6%)、湿布薬(50.5%)、鎮痛薬(37.9%)、ビタミン剤(33.7%)の順に頻度が高く、その割合、順序は1999年調査¹⁵⁾の結果と同じであった(ただし、「目薬」は今年度から追加した)。

また、過去1年間で1回でも使用したことのある医薬品としては、(無回答者を含めて)風邪薬(66.6%)、目薬(50.8%)、鎮痛薬(48.5%)、胃腸薬(46.2%)、湿布薬(37.8%)の順で頻度が高かった(表24)。

2. 鎮痛薬使用について

鎮痛薬をこの1年間に1回でも使用したことのある者の割合は男性で40.9%、女性で55.5%、全体で48.5%であったが(表24)、この鎮痛薬1年使用経験率は、1999年調査¹⁵⁾では男性で35.4%、女性で52.4%、全体で44.4%であり、1997年調査⁶⁾では、それぞれ27.1%、43.5%、35.5%、1995年調査⁵⁾では、それぞれ26.8%、42.3%、34.9%であり、今回の方が全てにおいて1年経験率が高かった。これについては、質問形式が1999年調査及び今回、若干変更されたことによる可能性もあるが、後述する精神安定薬使用状況から考えると、形式変更による変化はさほどないと考えられ、鎮痛薬1年経験率は年ごとに高くなっている可能性がある。しかし、男性よりも女性での1年経験率が高いのは、毎回、同じである。

鎮痛薬のこの1年間での使用頻度は表25の通りである。使用した者の頻度は、「1年間に数回」使用した者が男性で28.1%、女性で31.5%、全体で29.9%と最も多かった。鎮痛薬の使用には、慢性疼痛に対する使用もあり、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表25の「週に3~6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では2.3%、女性では1.8%、全体では2.0%であった。この常用的使用者率は1999年調査¹⁵⁾では、男性で1.6%、女性で1.7%、全体では1.6%であり、性別に関わらず今回の方が高かった。

また、鎮痛薬の入手先(表26)としては、全体では「薬局・薬店」、「医院・病院」という順であったが、男性では「医院・病院」が最も多く、女性では「薬局・薬店」が最も多いという性差が認められた。この性差は鎮痛薬の使用理由として、女性では「生理痛」による使用の割合が男性より明らかに高いことによるものと推定できる(表27)。

鎮痛薬の使用目的(表27)としては、全体では「頭痛」、「歯痛」、「生理痛」の順であった。ただし、男性では「頭痛」、「歯痛」、「腰痛」の順であり、女性では「頭痛」、「生理痛」、「歯痛」の順であった。「遊び・快感的」での使用者は一人も認められなかった。

鎮痛薬には概して依存惹起作用があるものが多いが、その鎮痛薬の使用についての心情・実情を表28に示した。男女ともに「使う必要がないので、考えたことがない」と答えた者が最も多かったが、それ以外では、男女ともに「必要な時には心配せずに使っている」者が最も多く、次いで「心配もあるがどちらかというを使う」者が多かった(表28)。

3. 精神安定薬使用について

精神安定薬をこの1年間に1回でも使用したことのある者の割合は、男性で5.9%、女性で8.3%、全体で7.2%であったが(表24)、この精神安定薬1年使用経験率(無回答者を含めて)は、1999年調査¹⁵⁾では男性で5.7%、女性で8.5%、全体で7.2%であり、1995年調査⁵⁾では、それぞれ5.2%、6.9%、6.1%、1997年調査⁶⁾では、それぞれ4.8%、7.8%、6.4%であり、今回の結果は1999年調査の結果とほとんど同じであった。

精神安定薬のこの1年間での使用頻度は表29の通りである。使用した者の頻度は、「1年間に数回」使用した者と「ほとんど毎日」使用した者との割合が、男性では1.9%と1.9%、女性では3.3%と2.1%、全体では2.6%と2.0%と拮抗していた。

精神安定薬の使用には、高血圧及び慢性的精神疾患に対する使用もあり、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表29の「週に3~6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では2.4%、女性では2.5%、全体では2.4%であった。この常用的使用者率は1999年調査¹⁵⁾では、男性で2.3%、女性で2.8%、全体

では2.6%であり、今回とほとんど同じ結果であった。

また、精神安定薬の入手先（表30）は、「医院・病院」が全体で83.6%、「薬局・薬店」が全体で7.8%であり、1999年の結果はそれぞれ93.8%、6.6%であったことを考えると15)、今回の結果は院外処方普及が進んできたことを反映している可能性もあるが、口述するように睡眠薬では「薬局・薬店」の割合が2001年では減少しており、結果的に何とも言いえない結果であった。

精神安定薬の使用目的（表31）としては、男女共に「不眠改善」目的が最も多く、次に「不安解消」、「ストレス軽減」が続いた。「遊び・快感目的」で使用した者は認められなかった。

精神安定薬には概して依存惹起作用があるものが多いが、その精神安定薬の使用についての心情・実情を表32に示した。男女ともに「使う必要がないので、考えたことがない」と答えた者が最も多かったが、それ以外では、男女ともに「必要な時には心配せずに使っている」と「心配もあるがどちらかというを使う」と者が拮抗していた（表32）。

以上より、精神安定薬の使用が社会問題化しているとは推定できない。

4．睡眠薬使用について

睡眠薬をこの1年間に1回でも使用したことの者の割合は、男性で4.8%、女性で6.8%、全体で5.8%であったが（表24）この精神安定薬1年使用経験率（無回答者を含めて）は、1999年調査15)では男性で4.9%、女性で6.5%、全体で5.8%であり、1997年調査6)では、それぞれ4.2%、5.5%、4.9%、1995年調査5)では、それぞれ4.4%、5.0%、4.7%であった。2001年の結果は1999年の結果とはほとんど同じであった。2001年、1999年の結果と1997年、1995年の結果との違いは、1999年からの尋ね方の違いによる可能性がある。

睡眠薬のこの1年間での使用頻度は表33の通りである。使用した者の頻度は、女性と全体では「1年間に数回」使用した者と「ほとんど毎日」使用した者との割合が、それぞれ3.0%と1.0%、2.5%と1.1%と「1年間に数回」使用した者の方が多かったが、男性では1.8%と1.3%と拮抗していた。男性では1.9%と1.9%、女性では3.3%と2.1%、全体では2.6%と2.0%と拮抗していた。

睡眠薬の使用には、高血圧及び慢性的精神疾患に対する使用もあり、使用頻度のみから乱用・依存を判定することは困難であるが、表33の「週に3～6回」と「ほとんど毎日」とを常用的使用と定義した場合、男性では0.8%、女性では1.4%、全体では1.7%であった。この常用的使用者率は1999年調査15)では、男性で1.8%、女性で1.2%、全体では1.5%であり、男性で減少した可能性はあるが、全体では今回とほとんど同じ結果であった。

また、精神安定薬の入手先（表34）は、「医院・病院」が全体で92.8%、「薬局・薬店」が全体で2.9%であり、1999年の結果はそれぞれ89.9%、5.3%であったことを考えると、今回の結果は1999年よりも「薬局・薬店」の割合が減少していた。

睡眠薬の使用目的（表35）としては、男女共に「不眠改善」目的が最も多く、次に「不安解消」、「ストレス軽減」が続いた。「遊び・快感目的」で使用した者は認められなかった。

睡眠薬には多かれ少なかれ依存惹起作用があるが、その睡眠薬の使用についての心情・実情を表36に示した。男女ともに「使う必要がないので、考えたことがない」と答えた者が最も多かったが、それ以外では、男女ともに「必要な時には心配せずに使っている」と「心配もあるがどちらかというを使う」と者が拮抗していた（表36）。

以上より、睡眠薬の使用が社会問題化しているとは推定できない。

4．違法性薬物について

1．違法性薬物について

違法性薬物の名前をどの程度聞いたことがあるか（周知度）を、表37に示した。

有機溶剤に関しては、「シンナー」という呼称は年代に関わりなく80%以上の者が周知しているが、「有機溶剤」というと、年代に関係なく約20%前後の者しか周知していなかった（図11）。また、「トルエン」に関しては、20歳代以降の者では約50%前後からそれ以上の者が周知していたにも関わらず、トルエンを主流とする「シンナー遊び」の最頻年代である15～19歳では約30%の者しか周知していなかった。しかし、1999年調査15)では、その数字は17.2%であり、それに比べれば周知率が上がったことになる。しかし、薬物乱用防止教育のなお一層の徹底が望まれる（図11）。

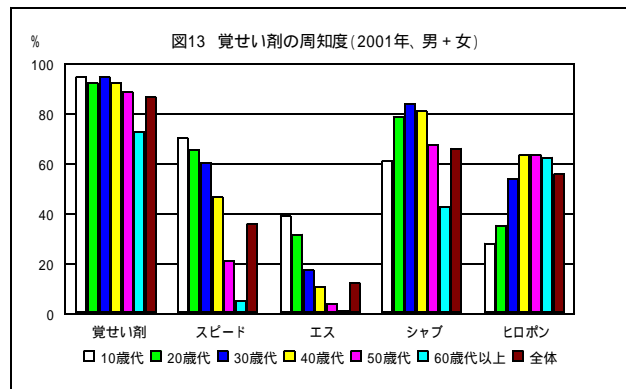
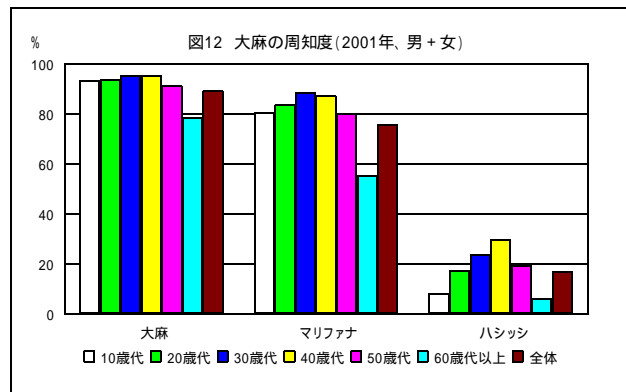
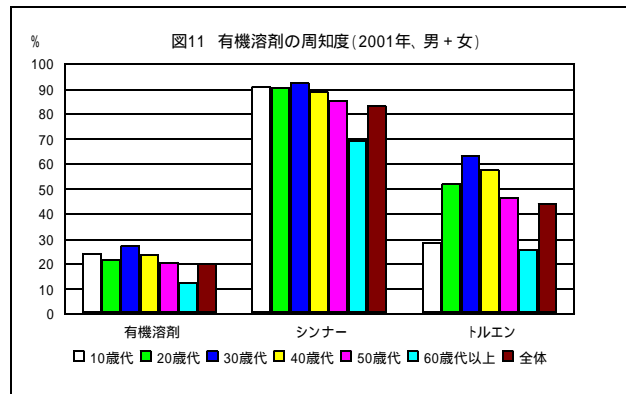
大麻に関しては、「大麻」という用語は男女共に約90%前後の者に知られているが、「マリファナ」は男女共に約75%に減少し、「ハシッシ」(大麻樹脂)に至っては、男性で22.1%、女性で12.5%、全体で17.1%の者しか周知していなかった(表37)。しかし、1999年調査15)では、それぞれ18.7%、9.6%、13.9%であったから、それでも周知度は上昇していることになる。また年代別には(図12)「ハシッシ」は40歳代をピークにして、その前後での周知度が低かった。

覚せい剤については、「覚せい剤」自体は男女共に86~87%の者が周知していたが、「スピード」となると、全体で35.9%に低下し、「エス」では、さらに12.4%に低下していた(表37)。しかし、年代別に見てみると(図13)「スピード」「エス」では、10歳代に最も高く周知されており、その割合は年代の増加とともに減少していた。同時に、その逆が「ヒロポン」「シャブ」であり、特に「ヒロポン」で年代差が著明であった(図13)。第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つに、「シャブ」と言われた覚せい剤を「スピード」「エス」と称して、若者がファッションブル感覚で使用するという面があるが、以上の結果は、その傾向を強く示唆する者と解釈できる。

依存性薬物の乱用の繰り返しは、薬物依存を生み出すが、そのことを知っているかどうかについての結果を表38に示した。男女ともに約94%の者が「知っている」と答えた。1999年調査15)では、全体で91.1%であり、上昇傾向が伺われた。

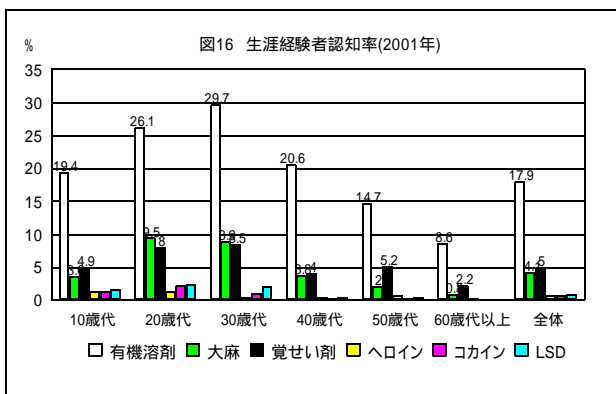
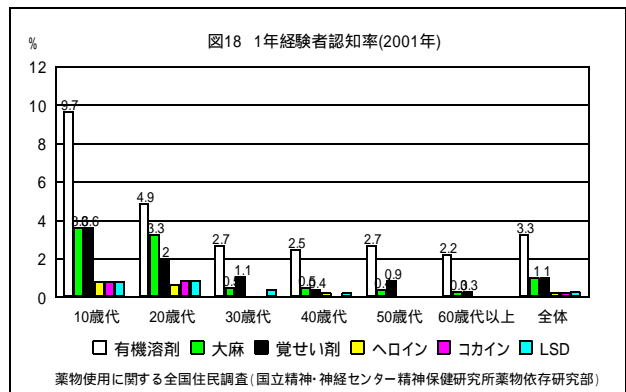
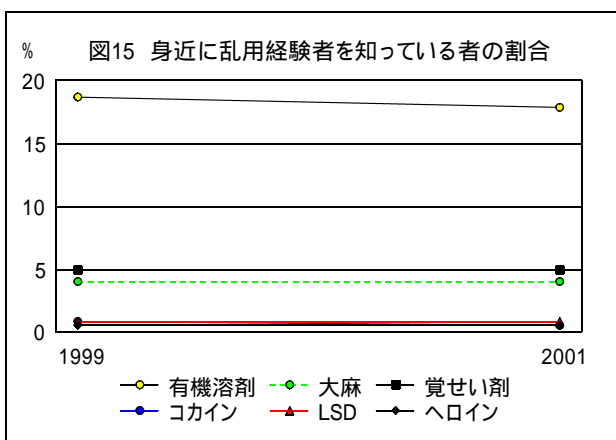
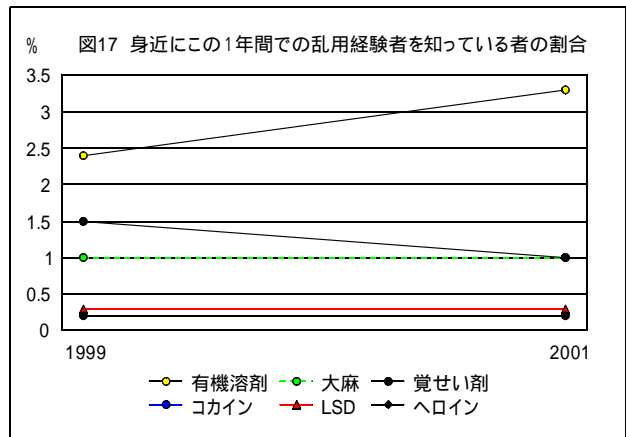
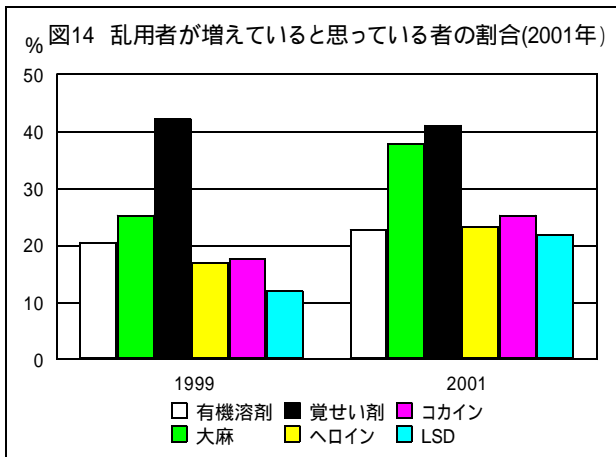
2. 違法性薬物の乱用拡大傾向について

有機溶剤、大麻、覚せい剤、ヘロイン、コカイン、LSD乱用者の増減傾向についての印象を調べた(表43、表56、表72、表86、表99、表112)。いずれの薬物においても「わからない」と答えた者が最も多いが、次に「以前より増えている」を選んだ者が多かった。図14は「以前より増えている」を選んだ者の割合を薬物別に示している。「有機溶剤」「覚せい剤」ではさほど変化はないが、「大麻」で著しく増加し、「ヘロイン」「コカイン」「LSD」でも増加していた。実際はどうなのかは誰にも本当のところはわからないのであるが、それを探ろうというのが本調査研究の目的でもある。ただし、この種の印象は、各種マスメディアによる影響も受けやすいのは確かであろう。



3. 違法性薬物乱用者の認知率

これまでに違法性薬物を乱用したことがある人を身近に知っているかどうかを表44、表58、表74、表87、表100、表113示した(生涯経験者認知率)。その内、「知っている」と答えた者の割合を図15に示した。1999年調査15)の結果は、1995年調査5)、1997年調査6)の結果と大きく異なっており、その原因として、1999年調査の設問では、「身近な人で」や「あなたの周囲で」という修飾語を付けなかったための可能性がある。1999年調査では論じたが、今回、「身近にいた」「身近にいる」という修飾語を付けたにもかかわらず、結果は1999



年とほとんど同じであった(図15)。図15のように、有機溶剤乱用者の割合が最も高かったことは、後述するように、わが国の薬物乱用状況を反映している。

生涯経験者認知率を年代別に表45、表59、表75、表88、表101、表114に示した。これらの結果をまとめたものが図16である。生涯経験者認知率はいずれの薬物でも30歳代、20歳代で高いが、コカイン、LSDは率としては低いながらも、20歳代で高

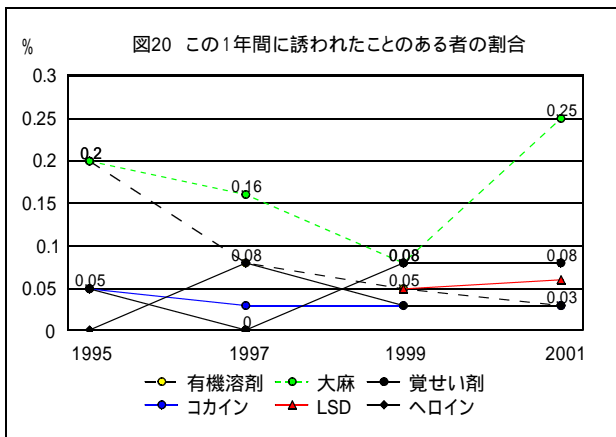
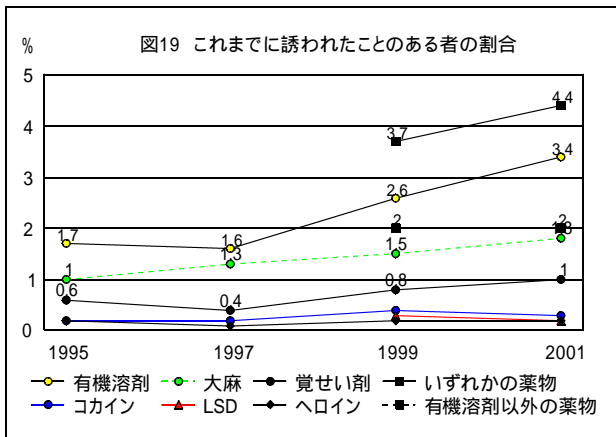
いことが目立った。

また、生涯経験者を知っている者は何人の生涯経験者を知っているかを尋ねた結果を表46、表61、表76、表89、表102、表115に示した。有機溶剤では平均5.02人、大麻で5.05人、覚せい剤で3.41人、ヘロインで4.12人、コカインで4.10人、LSDで2.89人であった。

この1年間で身近に違法性薬物を乱用したことがある人を知っているかどうかを表47、表62、表77、表90、表103、表116に示した(1年経験者認知率)。その内、「知っている」と答えた者の割合を図17に示した。1999年調査(15)の結果と比較して、有機溶剤で増加し、覚せい剤で減少していた。

1年経験者認知率を年代別に表48、表63、表78、表91、表104、表117に示した。これらの結果をまとめたものが図18である。生涯経験者認知率はいずれの薬物でも10歳代、20歳代で高かった。

また、1年経験者を知っている者は何人の1年経験者を知っているかを尋ねた結果を表49、表65、表79、表92、表105、表118に示した。有機溶剤では平均3.77人、大麻で3.53人、覚せい剤で2.70人、ヘロインで3.33人、コカインで2.27人、LSDで3.5



6人であった。

4. 違法性薬物乱用へ誘われた経験

これまでに違法薬物の乱用に誘われたことがあるかないかの結果を、表50、表66、表80、表93、表106、表119に示した(生涯被誘惑経験率)。表136、表137、図19は、その年次推移を示している。有機溶剤で著しい増加傾向が認められ、大麻、覚せい剤では緩やかな増加傾向が認められた。生涯被誘惑経験率は、薬物乱用の実態を評価する際に、生涯乱用経験率とともに重要なデータである。図19に見る生涯被誘惑経験率は、有機溶剤、大麻、覚せい剤の順で高く、この順番は後述するように、生涯乱用経験率と同じである。年代別では、いずれの薬物でも25歳-29歳で最も高く、有機溶剤で10.5%(表52)、大麻で5.4%(表68)、覚せい剤で0.8%(表85)、ヘロインで1.2%(表95)、コカインで1.2%(表108)、LSDで1.6%(表121)であった。

また1年被誘惑経験率(この1年間で乱用に誘われたことのある者の率)は図20に示した。しかし、値自体が小さく、0.15%以下はすべて統計誤差内

表136 これまでに違法性薬物の乱用に誘われたことのある者の割合(生涯被誘惑経験率)

	1995年	1997年	1999年	2001年
「ソナー遊び」	1.7	1.6	2.6	3.4
大麻	1.0	1.3	1.5	1.8
覚せい剤	0.6	0.4	0.8	1.0
ヘロイン	0.2	0.1	0.2	0.2
コカイン	0.2	0.2	0.4	0.3
LSD			0.3*	0.2
上記のいずれか			3.7	4.4
有機溶剤以外のいずれか			2.0	2.0

表137 これまでに違法性薬物の乱用に誘われたことのある者の人数(生涯被誘惑経験者数)

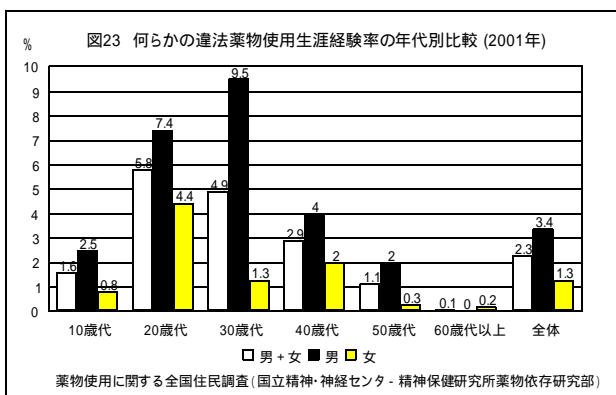
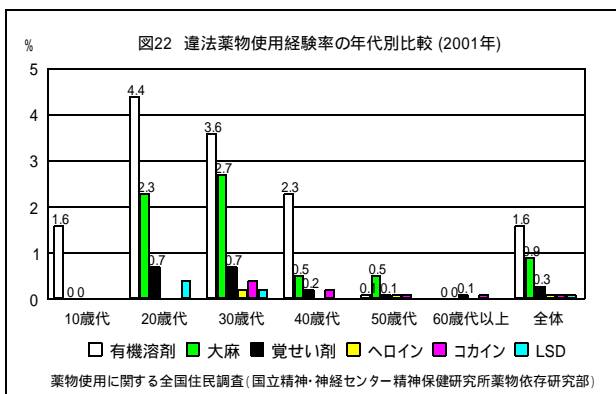
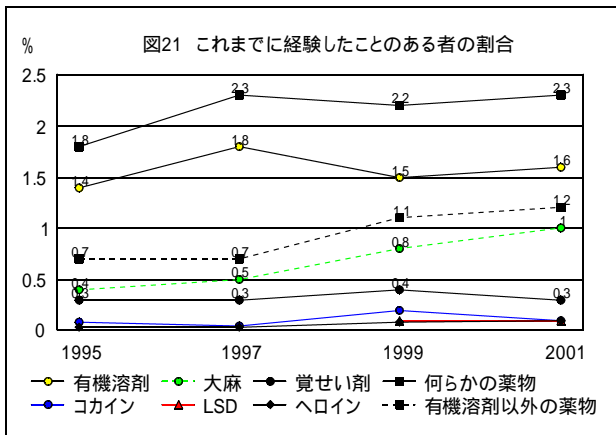
	1999年	2001年
「ソナー遊び」	277万 ± 54万	366万 ± 64万
大麻	160 ± 42万	194万 ± 47万
覚せい剤	85万 ± 30万	108万 ± 35万
ヘロイン	21万 ± 15万	22万 ± 16万
コカイン	43万 ± 21万	32万 ± 19万
LSD	32万 ± 18万	22万 ± 16万
上記のいずれか	394万 ± 64万	473万 ± 72万
有機溶剤以外のいずれか	213万 ± 49万	215万 ± 49万

であった。

この種の違法薬物に関する調査では、知られたいくないという心理が働きがちであり、結果の信憑性が問題になる(後述する乱用の経験では特にそうである)が、重要なのは同じ方法論(=同じバイアス、と仮定して)による結果の推移である。その意味では、バイアスを考えると、乱用経験率よりは被誘惑率の方が信憑性は高いと考えられる。また、1年間での率よりは、これまでの生涯被誘惑率の方が信憑性は高いと推定できる。

5. 違法性薬物乱用経験

違法性薬物のこれまでの乱用経験についての結果を、表53、表69、表83、表96、表109、表122に示した(生涯経験率)。図21、表138、表139はその年次推移を示している。大麻での増加が目立ち、有機溶剤も緩やかに増加していたが、覚せい剤では1999年に比べて、減少していた。図21に見る生涯経験率は、有機溶剤、大麻、覚せい剤の順で高



く、この順番は前述したように、生涯被誘惑経験率（図19）と同じである。したがって、わが国で乱用されている違法薬物は、この順番に多いことがわかる。年代別では、有機溶剤では25歳-29歳で最も高く（5.4%：表55）大麻と覚せい剤では25歳-29歳、30歳-34歳、35歳-39歳が拮抗していたが、大麻では30歳-34歳が3.3%（表71）と最も高く、覚せい剤では25歳-29歳が0.8%（表85）と最も高かった。

図22と図23は、薬物の生涯使用経験率を年代別に示したものである。大麻及び覚せい剤の生涯経

表138 これまでに違法性薬物の乱用を経験したことのある者の割合（生涯経験率）

	1995年	1997年	1999年	2001年
「ツナ-遊び」	1.4	1.8	1.5	1.6
大麻	0.4	0.5	0.8	1.0
覚せい剤	0.3	0.3	0.4	0.3
ヘロイン	0.03*	0.03*	0.08*	0.06*
コカイン	0.08*	0.05*	0.2	0.1*
LSD			0.1*	0.1*
上記のいずれか	1.8	2.3	2.2	2.3
有機溶剤以外のいずれか	0.7	0.7	1.1	1.2

*：統計誤差内

表139 これまでに違法性薬物の乱用を経験したことのある者の人数（生涯経験者数）

	1999年	2001年
「ツナ-遊び」	160万 ± 42万	172万 ± 44万
大麻	85万 ± 30万	108万 ± 35万
覚せい剤	43万 ± 21万	32万 ± 19万
ヘロイン	統計誤差内	統計誤差内
コカイン	21万 ± 15万	統計誤差内
LSD	統計誤差内	統計誤差内
上記のいずれか	234万 ± 50万	247万 ± 53万
有機溶剤以外のいずれか	117万 ± 35万	129万 ± 38万

験率は20歳代、30歳代では、それぞれ大麻で2.3%と2.7%、覚せい剤で0.7%と0.7%と高かった。また、いずれかの薬物の生涯経験率という見方をすると、20歳代では5.8%、30歳代では4.9%と高く、特に男性に限れば、20歳代で7.4%、30歳代で9.5%にもなった。このように、生涯経験率は15歳以上の国民全体で見たときには、何らかの薬物の生涯経験率は2.3%に過ぎなかったが、年代別に見るとこれだけ違いが出るのである。

また1年経験率（この1年間で乱用したことがある者の率）は図24、表140に示した。しかし、値自体が小さく、すべて統計誤差内であった。

生涯経験率と1年経験率の信憑性の問題は、前述した誘惑率と同様である。重要なのはトレンドを見ることである。

以上より、覚せい剤の乱用は幸い頭打ち状態のようであるが、大麻の乱用が確実に広がっている可能性が示唆される。ただし、大麻の乱用は、覚

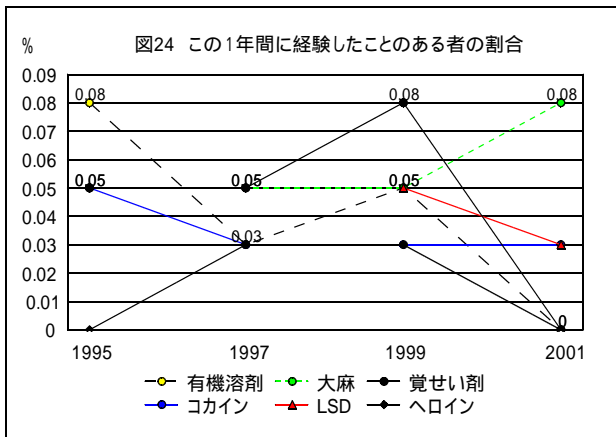


表140 この1年間で違法性薬物の乱用を経験した率（1年経験率） *：統計誤差内

	1995年	1997年	1999年	2001年
「ソナー遊び」	0.08*	0.03*	0.05*	0
大麻	0.05*	0.05*	0.05*	0.08*
覚せい剤	0.05*	0.05*	0.08*	0
ヘロイン	- *	0.03*	0.03*	0
コカイン	0.05*	0.03*	0.03*	0.03*
LSD			0.05*	0.03*
いずれか		0.05*	0.2	0.1

せい剤や麻薬へのゲート・ウェーとなりやすいとされており14)、同時に、大麻乱用者は有機溶剤・覚せい剤乱用者に比べて検挙されにくく8)、精神障害も比較的起こしにくく、乱用・依存の広がり度を捕捉しにくいという特徴があり1)、今後の動向が危惧される。

6. 薬物乱用が健康に及ぼす害知識について

有機溶剤乱用が健康に及ぼす害について、知識周知度に関する結果を表39～42に示した。これまで述べてきたように、有機溶剤乱用は、乱用経験者数の上ではわが国最大の問題でありながら、覚せい剤ほどには社会的に関心を集めない感がある。しかし、第2次覚せい剤乱用期の調査によれば、覚せい剤乱用・依存者の少なくとも1/3は、有機溶剤乱用から覚せい剤乱用に進んでおり、有機溶剤乱用の防止が結果的に覚せい剤乱用防止の有力対策になると考えられる。そのため、当研究者らは全国の中学生における薬物乱用状況を把握するための調査9)11)17)で、有機溶剤乱用による健康への害を教える形で調査している。成人を中心とする本調査にも同様の質問を織り込むことに

よって、社会での有機溶剤乱用への注意を喚起したいと考えている。

有機溶剤の乱用は急性中毒死を招くことがあるが、その周知度は82.7%（1999年調査15）では70.7%。以下かつこ内は1999年調査の結果）であった（表39）。2000年（1998年）の全国中学生調査17）では63.6%（67.6%）であった。

有機溶剤の乱用は幻覚・妄想を主とする精神病を惹起する可能性があるが、その周知度は85.5%（77.1%）であった（表40）。2000年（1998年）の全国中学生調査では74.2%（74.1%）であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しにより、一旦、精神病状態を経験した者には、その後、フラッシュバックが起きる可能性があることの周知度は、63.9%（44.6%）であった（表41）。2000年（1998年）の全国中学生調査では52.5%（46.9%）であった。

有機溶剤の乱用の繰り返しは、無動機症候群を惹起する可能性があるが、その周知度は65.8%（62.6%）であった（表42）。2000年（1998年）の全国中学生調査では45.4%（49.0%）であった。

以上のように、中学生での知識の周知度は、どういう訳か減少しているが、成人を中心と今回の調査では周知度は増加していた。

大麻の乱用は精神病状態・フラッシュバック現象・無動機症候群を引き起こすことがあることの周知率は68.9%（69.8%）であった（表57）。

覚せい剤乱用の繰り返しは、精神病を引き起こしやすく、フラッシュバックがあることの周知率は73.3%（67.0%）であった（表73）。

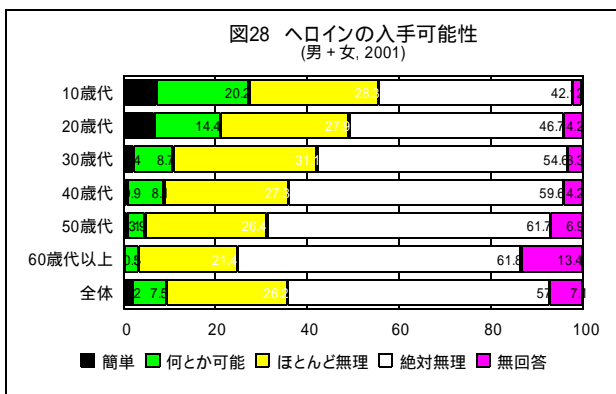
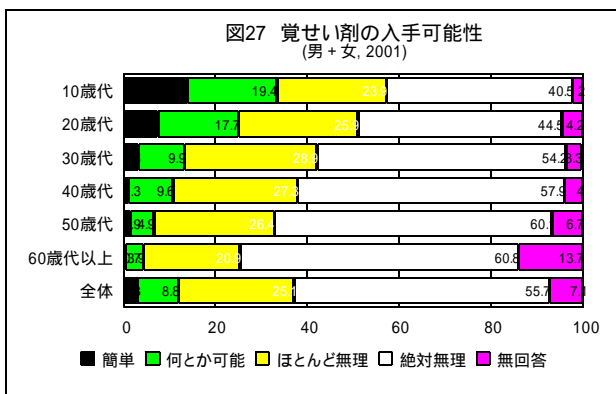
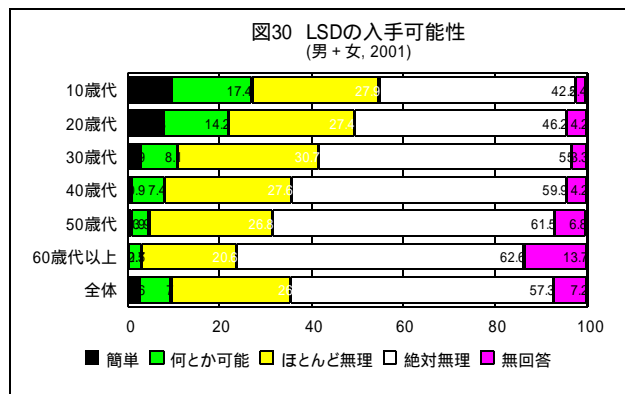
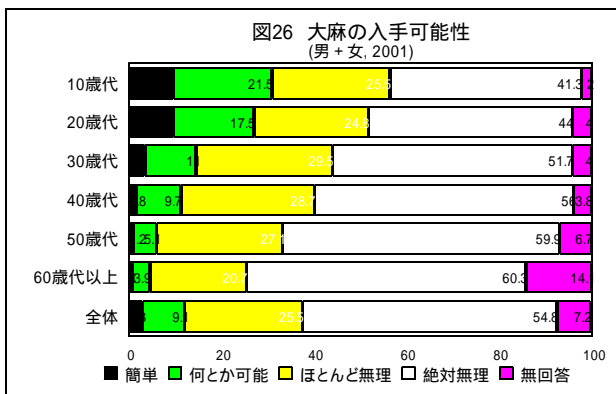
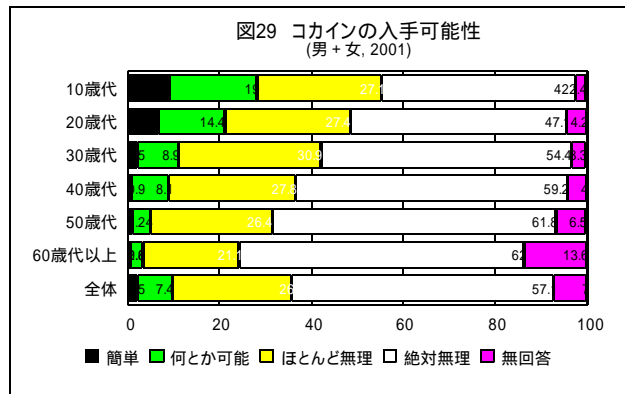
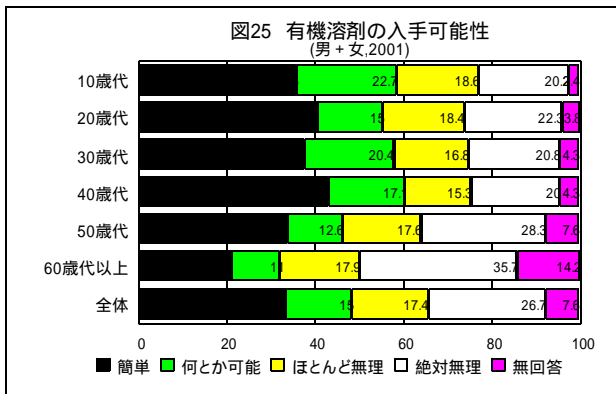
大麻使用による健康への害についての周知度は今後上げていく必要がある。

また、マジック・マッシュルームが毒キノコであることを知っていた者の割合は25.3%に過ぎなかった。呼称の重要性を示唆していると考えられた。

7. 違法性薬物の入手可能性について

違法性薬物の入手可能性についての結果は表125～表130に示した。その結果を薬物別、年代別に示したものが図25～図30である。

「簡単に手に入る」+「少々苦労するが、なんとか手に入る」を入手可能群とし、「ほとんど不可能」+「絶対不可能」を入手不可能群すると、有機溶剤のみが入手可能群（48.3%）が入手不可能群（44.1%）を上回っていた。

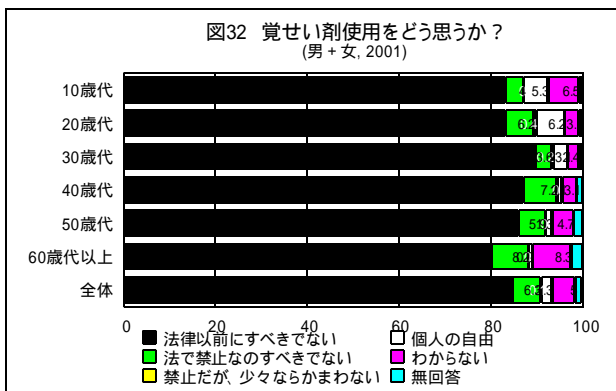
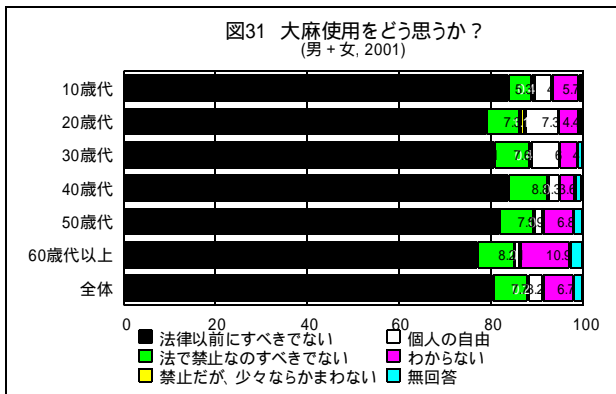


これを薬物別、年代別に見てみると(図25～図30) 有機溶剤では10歳代、20歳代、30歳代、40歳代で入手可能群は50%を越えていた。その他の違法薬物では年代が若いほど入手可能群が多いことが明らかであった。これらのことは、第3次覚せい剤乱用期における多様な乱用薬物の入手可能性の高まりを示唆するものであり、憂慮される結果である。

8. 法の遵守性について

本研究者は、わが国の薬物乱用・依存状況が多くの先進諸国に比べて良好な背景には、国民の遵法精神の高さがあると推定している。覚せい剤は使用自体が法により規制されており、その使用について如何なる意識を持っているかを調査した(表131、表132)。「法律で云々言う以前に、そもそも、すべきではないと思う」を選んだ者が、大麻では80.5%、覚せい剤では84.7%もいたことは、上記推論を裏付けている。

しかし、これを年代別に見ると(図31、図32)「そもそも法律で決める必要はなく、個人の判断だと思ふ」を選んだ者は、大麻でも覚せい剤でも、20歳代を中心に30歳代ないしは10歳代で多かつ



た。このような認識が増加すれば、わが国の薬物乱用・依存状況は好ましくない方向に進展することは明らかであり、薬物乱用・依存問題は「個人の自由」ではすまない問題であることの認識を徹底する必要がある。

E. 結論

わが国の飲酒・喫煙・医薬品をも含めた薬物乱用・依存状況を把握するために、全国の15歳以上の住民に対して、戸別訪問留置法による「薬物使用に関する全国住民調査」を実施した。

対象は、層化二段無作為抽出法（調査値点数：350）を用い、5,000人を抽出した。調査期間は2001年9月20日～10月5日である。

回収数及び有効回答数は、ともに3,575（71.5%）であった。

【飲酒】

飲酒生涯経験率（これまでに1回でも飲酒したことのある者の率）は、男性で96.8%、女性で90.8%、全体で93.7%であった。

飲酒生涯経験者の初飲年齢が20歳前の者が、男性では77.3%、女性では59.4%、全体で68.1%であった。

「ほとんど毎日飲酒している」者の割合は、男性では50歳代、女性では40歳代で最高となり（男性：40.3%、女性：10.6%）、その後、低下していた。

その他、飲酒の機会、禁酒経験等、わが国の飲酒はライフ・サイクルと深く結びついており、飲酒問題を論じる際には、飲んだことがあるかないかを基準にしても、さほど意味がなく、機会、頻度、量等の質的要因を考慮する必要があることが示唆された。

【喫煙】

喫煙の生涯経験率は、男性で86.5%、女性で45.1%、全体で64.8%であった。1999年調査¹⁵⁾の結果は、1995年⁵⁾、1997年⁶⁾調査の結果に比べて、男性での喫煙者の減少傾向と女性での横這い傾向を示唆していたが、どういう訳か今回の結果は、男女ともにこれまでにない高い結果となった。

初めての喫煙年齢が19歳以前であった者の割合は、男子では75.7%、女子では56.9%であり、全体では69.4%であった。

この1年間に喫煙経験のあった者での1日の喫煙本数は、男性では11-20/日の者が39.5%と最も多く、次に1日21本以上の者が28.7%と多かった。女性では、1-10/日の者が37.8%と最も多く、次に11-20/日の者が29.1%と多かった。

年代別では、男性では1日に21本以上吸う者の割合は、年代とともに増加し、50歳代でピークを迎え、その後は低下していた。一方、女性では20歳代で一旦低下するが、その後増加し、同じく50歳代でピークを迎え、以後低下していた。

また、禁煙を考えたことのある者の割合は、男性では20歳代が最も低く、その後年代とともに増加していたが、女性では20歳代で突出して高く、その前後では大きな変化は認められなかった。

【医薬品】

家庭の常備薬としては、風邪薬、胃腸薬、目薬、湿布薬、鎮痛薬、ビタミン剤の順に頻度が高く、1999年調査の結果と基本的に同じであった。

この1年間に1回でも使用したことのある医薬品としては、風邪薬、目薬、鎮痛薬、胃腸薬、湿布薬の順で頻度が高かった。

医薬品を常用（週3回以上）している割合は、鎮痛薬で男性2.3%、女性1.7%、全体で1.6%であり、精神安定薬では男性2.4%、女性2.5%、全体で2.4%、

睡眠薬では男性0.8%、女性1.4%、全体で1.7%であった。

鎮痛薬、精神安定薬、睡眠薬に関し、「遊び・快感目的」で使用している者は認められなかった。

以上より、医薬品の使用に関しては、それなりに適切に使用されていることが示唆された。

【違法薬物】

違法薬物の呼称の周知度は、同じ薬物でも呼称により周知度が異なることが明らかになった。「覚せい剤」の周知度は全体で86.9%と高いが、「スピード」では35.9%であり、「エス」では12.4%に低下していた。しかし、10歳代では「スピード」の周知率は70.4%、「エス」では39.3%と各年代の中では最も高く、年代により呼称の周知度も変化することが明らかになった。特に、この覚せい剤の呼称は、第3次覚せい剤乱用期の特徴の一つである、若者によるファッション感覚での使用を反映していると推定された。

違法性薬物乱用の生涯被誘惑率（これまでに1回でも誘われたことのある率）は、有機溶剤（3.4%）、大麻（1.8%）、覚せい剤（1.0%）、コカイン（0.3%）、LSD（0.2%）、ヘロイン（0.2%）の順で高かった。

この生涯被誘惑率を年代別に見ると、いずれの薬物でも25-29歳で最も高く、有機溶剤で10.5%、大麻で5.4%、覚せい剤で0.8%、ヘロインで1.2%、コカインで1.2%、LSDで1.6%であった。

違法薬物の生涯経験率（これまでに1回でも乱用したことのある者の率）は、有機溶剤（1.6%）、大麻（1.0%）、覚せい剤（0.3%）、コカイン（0.1%）、LSD（0.1%）、ヘロイン（0.06%）であった。また、これらのうちのいずれかの薬物の生涯経験率は2.3%（1999年：2.2%）で、有機溶剤を除いたいずれかの薬物の生涯経験率は1.2%（1999年：1.1%）と、いずれも過去最高であった。また、年代別では、いずれかの薬物の生涯経験率は、20歳代では5.8%、30歳代では4.9%と高く、特に男性に限れば、20歳代で7.4%、30歳代で9.5%にものぼった。

大麻の生涯経験率は1995年に本調査が始まって以来着実に増加している。この大麻乱用者は有機溶剤・覚せい剤乱用者に比べて検挙されにくく8)、精神障害も比較上起こしにくく、乱用・依存の広がり度を捕捉しにくいという特徴があり1)、現実の大麻乱用の広がり度は予想以上の可能性

がある。また、大麻はゲイト・ウェイ・ドラッグとなりやすい性質があり14)、今後のわが国の薬物乱用状況に影響しかねない問題である。覚せい剤のみに目を奪われることなく、今後、この大麻乱用の広がりを監視していく必要がある。

生涯経験率を年代で見ると、有機溶剤は25-29歳で5.4%と最も高く、大麻と覚せい剤は25-29歳、30-34歳、35-39歳で拮抗していたが、覚せい剤は25-29歳で0.8%と最も高く、大麻は30-34歳で3.3%と最も高かった。

違法性薬物の入手可能性については、有機溶剤のみが入手可能群（「簡単に手に入る」＋「少々苦労するが、なんとか手に入る」）（48.3%）が入手不可能群（「ほとんど不可能」＋「絶対不可能」）（44.1%）を上回っていた。

ただし、年代別に見ると、有機溶剤に関しては10歳代～40歳代のいずれの年代においても入手可能群が50%を越えていたが、その他の違法薬物では、若い年代ほど入手可能群の割合が多いことが明らかであった。これは第3次覚せい剤乱用期における多様な乱用薬物の入手可能性の増加を示唆するものであり、注意が必要である。

遵法精神では、その使用について、「法律で云々言う以前に、そもそも、すべきではない」と答えた者が大麻では80.5%、覚せい剤では84.7%いたことは、薬物乱用に関する国民の順法精神の高さを反映するものであった。

しかし、「そもそも法律で決める必要はなく、個人の判断だと思う」を選択した者は、20歳代を中心に、30歳代ないしは10歳代が多かった。このような認識が増加すれば、わが国の薬物乱用・依存状況は好ましくない方向に進展することは明らかであり、薬物乱用・依存問題は「個人の自由」ではすまない問題であることの認識を徹底する必要がある。

以上のように、2001年のわが国での違法薬物乱用状況は、多くの先進諸国に比べれば極めて良好ということになる。しかし、大麻の生涯経験率が着実に増加しており、また、青年層での各種薬物の入手可能性は高まっており、決して楽観できる状況とは言えない。薬物乱用状況の現状を維持し、できれば廃絶を目指すためにも、気の抜けない状況にあると推定できる。

F. 研究発表

1. 論文発表:

- (1) 和田 清: 薬物乱用・依存の疫学. 保健の科学 43:107-112, 2001.
- (2) 和田 清: 薬物使用の実態 - 欧米との差異 - . Infection Control 10: 794-795, 2001.
- (3) 和田 清: わが国における薬物乱用の実態調査. 精神医学 43: 503-505, 2001.

2. 学会発表

- (1) Wada, K.: A Brief History and the Current Situation of Methamphetamine Abuse in Japan. XII World Congress of Psychiatry, Yokohama, August 24-29, 2002. (予定)

謝辞

本調査研究にご回答をいただいた、多くの方々
に、心よりお礼を述べさせていただきます。

引用文献

- 1) 尾崎 茂、和田 清、福井 進: 全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査. 平成10年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究(主任研究者: 和田清) 研究報告書. pp.85-116, 1999.
- 2) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣: 薬物依存の世帯調査. 平成4年度厚生科学研究費補助金(麻薬等総合対策研究事業)「薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究(主任研究者: 福井 進)」平成4年度研究報告書、pp.9-23, 1993.
- 3) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣: 薬物依存の世帯調査. 平成5年度厚生科学研究費補助金(麻薬等総合対策研究事業)「薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究(主任研究者: 福井 進)」平成5年度研究報告書、pp.5-26, 1994.
- 4) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣: 薬物依存の世帯調査. 平成6年度厚生科学研究費補助金(麻薬等総合対策研究事業)「薬物依存の社会的、精神医学的特徴に関する研究(主任研究者: 福井 進)」平成6年度研究報告書、pp.5-34, 1995.
- 5) 福井 進、和田 清、伊豫雅臣、浦田重治郎、尾崎 茂: 薬物乱用・依存の世帯調査. 平成7年度厚生科学研究費補助金(麻薬等総合研究事業)「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究(主任研究者: 寺元 弘)」平成7年度研究報告書第1分冊、pp.5-35, 1996.
- 6) 福井 進、和田 清、菊池周一、尾崎 茂、浦田重治郎: 薬物乱用・依存の世帯調査. 平成9年度厚生科学研究費補助金(麻薬等総合研究事業)「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究(主任研究者: 寺元 弘)」平成9年度研究報告書第1分冊、pp.7-48, 1998.
- 7) 和田 清、福井 進: 覚せい剤精神病の臨床症状 -- 覚せい剤使用年数との関係 --. アルコ - ル研究と薬物依存 25:143-158, 1990.
- 8) Wada, K.; Cocaine Abuse in Japan. Lpn. J. Alcohol & Drug Dependence 29: 83-91, 1994.
- 9) 和田 清、勝野眞吾、尾崎米厚、中野良吾: 中学生における「シンナー遊び」・喫煙・飲酒についての調査研究. 平成8年度厚生科学研究費補助金(麻薬等総合対策研究事業) 研究報告書「薬物依存・中毒者の疫学調査及び精神医療サービスに関する研究班」(主任研究者: 寺元 弘) 第1分冊薬物乱用・依存の多面的疫学調査研究(2). pp.21-60. 1996.
- 10) Wada, K., Price, R.K., Fukui, S.: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of Alcohol Use and Drinking Situations among Japanese Junior High School Students in Japan. Journal of Studies on Alcohol 59: 381-386, 1998.
- 11) 和田 清、中野良吾、尾崎米厚、勝野眞吾: 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査. 平成10年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究(主任研究者: 和田 清) 研究報告書. pp.19-83, 1999.
- 12) 和田 清: 薬物依存の最近の傾向と対策. 日本医事新報 第3920号: 25-32, 1999.
- 13) 和田 清: 中学生における飲酒 - 飲酒文化の反映 -. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 34

:36-48, 1999.

- 14) 和田 清: "Gateway Drug "概念について. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 34: 95-106, 1999.
- 15) 和田 清、菊池安希子、尾崎 茂、菊池周一: 薬物使用に関する全国住民調査. 平成11年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究(主任研究者: 和田 清) 研究報告書. pp.17-70, 2000.3.
- 16) Wada K.: Lifetime Prevalence of Alcohol Drinking, Cigarette Smoking, and Solvent Inhalation among Junior High School Students in Japan: Tradition and Urbanization. Jpn. J. Alcohol & Drug Dependence 36 (2): 124-141, 2001.
- 17) 和田 清、菊池安希子、尾崎米厚、勝野眞吾: 薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査. 平成12年度厚生科学研究費補助金(医薬安全総合研究事業)「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究(主任研究者: 和田 清) 研究報告書. pp.15-76, 2001.

表5 対象の性・年齢・学歴(%)

		男		女		全体	
年齢	15-19歳	118	(6.9)	129	(6.9)	247	(6.9)
	20-24歳	82	(4.8)	112	(6.0)	194	(5.4)
	25-29歳	120	(7.1)	138	(7.4)	258	(7.2)
	30-34歳	124	(7.3)	150	(8.0)	274	(7.7)
	35-39歳	119	(7.0)	160	(8.5)	279	(7.8)
	40-44歳	119	(7.0)	145	(7.7)	265	(7.4)
	45-49歳	131	(7.7)	158	(8.4)	289	(8.1)
	50-59歳	350	(20.6)	399	(21.3)	749	(21.0)
	60歳以上	534	(31.4)	481	(25.7)	1016	(28.4)
	無回答	2	(.1)	2	(.1)	4	(.1)
学歴	小学校(尋常小学校も含む)	36	(2.1)	37	(2.0)	73	(2.0)
	中学校(尋常高等小学校も含む)	312	(18.4)	281	(15.0)	593	(16.6)
	専門学校(中卒後)	47	(2.8)	68	(3.6)	115	(3.2)
	専門学校(高校中退後,ないし高卒後)	110	(6.5)	123	(6.6)	233	(6.5)
	高等学校(旧制中学校・高女も含む)	740	(43.6)	894	(47.7)	1635	(45.7)
	短大・大学以上(旧制高等学校も含む)	426	(25.1)	435	(23.2)	862	(24.1)
	その他	5	(.3)	6	(.3)	11	(.3)
	無回答	23	(1.4)	30	(1.6)	53	(1.5)
合計		1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表6 対象の職業・身分

		男		女		全体	
	中学生	10	(.6)	9	(.5)	19	(.5)
	高校生	81	(4.8)	90	(4.8)	171	(4.8)
	予備校生	3	(.2)	2	(.1)	5	(.1)
	専門学校、各種学校生徒	10	(.6)	12	(.6)	22	(.6)
	短大生、大学生、大学院生	39	(2.3)	34	(1.8)	73	(2.0)
	農林漁業自営者	89	(5.2)	45	(2.4)	135	(3.8)
	商店主	57	(3.4)	43	(2.3)	100	(2.8)
	工場主	34	(2.0)	15	(.8)	49	(1.4)
	土木建築業種	61	(3.6)	10	(.5)	71	(2.0)
	医療関係業種	5	(.3)	10	(.5)	15	(.4)
	サービス業事業主	45	(2.6)	43	(2.3)	88	(2.5)
	その他の事業主	30	(1.8)	13	(.7)	43	(1.2)
	販売従業者	118	(6.9)	133	(7.1)	251	(7.0)
	保安従業者	37	(2.2)	4	(.2)	41	(1.1)
	運輸従業者	75	(4.4)	4	(.2)	79	(2.2)
	通信従事者	5	(.3)	3	(.2)	8	(.2)
	サービス業従事者	23	(1.4)	84	(4.5)	107	(3.0)
	技能職従事者	15	(.9)	33	(1.8)	48	(1.3)
	土木建築業従事者	105	(6.2)	2	(.1)	107	(3.0)
	工場労働者、工業作業員	155	(9.1)	79	(4.2)	234	(6.5)
	その他の労務従事者	26	(1.5)	27	(1.4)	53	(1.5)
	専務従事者	126	(7.4)	190	(10.1)	316	(8.8)
	管理的職業	76	(4.5)	7	(.4)	83	(2.3)
	医療職従事者	13	(.8)	56	(3.0)	69	(1.9)
	その他の専門、技術職従事者	113	(6.7)	66	(3.5)	179	(5.0)
	専業主婦			662	(35.3)	662	(18.5)
	無職	330	(19.4)	181	(9.7)	511	(14.3)
	その他	4	(.2)	9	(.5)	13	(.4)
	無回答	14	(.8)	8	(.4)	23	(.6)
合計		1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表7 これまでの飲酒経験の有無（生涯飲酒経験率）（％）

		男		女		全体	
飲酒経験	なし	49	(2.9)	166	(8.9)	215	(6.0)
	あり	1645	(96.8)	1702	(90.8)	3349	(93.7)
	無回答	5	(.3)	6	(.3)	11	(.3)
合計		1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表8 これまでに飲酒した機会（生涯飲酒経験者のみ）（％）

	男		女		全体	
冠婚葬祭	1203	(73.1)	1210	(71.1)	2414	(72.1)
仕事・商売上の必要	860	(52.3)	443	(26.0)	1303	(38.9)
上司とつきあい	747	(45.4)	390	(22.9)	1137	(34.0)
友人・同僚と	1293	(78.6)	1193	(70.1)	2487	(74.3)
その他つきあい	652	(39.6)	340	(20.0)	993	(29.7)
家の食事・団らん	1227	(74.6)	1163	(68.3)	2392	(71.4)
外の食事・団らん	911	(55.4)	833	(48.9)	1744	(52.1)
仕事で嫌なこと	327	(19.9)	151	(8.9)	478	(14.3)
家で面白くない事	226	(13.7)	131	(7.7)	357	(10.7)
寝る前	506	(30.8)	385	(22.6)	892	(26.6)
その他	52	(3.2)	35	(2.1)	87	(2.6)
飲酒機会ありだが機会不明	18	(1.1)	18	(1.1)	36	(1.1)
合計	1645	(100.0)	1702	(100.0)	3349	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表9 初めての飲酒経験年齢（初飲年齢）（飲酒経験者のみ）（％）〔累積％〕

	男		女		全体	
小学校以前	85	(5.2)[5.2]	77	(4.5)[4.5]	162	(4.8)[4.8]
小学校時代	237	(14.4)[19.6]	216	(12.7)[17.2]	453	(13.5)[18.3]
中学校時代	255	(15.5)[35.1]	146	(8.6)[25.8]	401	(12.0)[30.3]
中卒後～17歳	236	(14.3)[49.4]	167	(9.8)[35.6]	403	(12.0)[42.3]
18-19歳	459	(27.9)[77.3]	405	(23.8)[59.4]	864	(25.8)[68.1]
20歳以降	346	(21.0)[98.4]	648	(38.1)[97.5]	996	(29.7)[97.9]
無回答	27	(1.6)[100]	43	(2.5)[100]	70	(2.1)[100]
合計	1645	(100.0)	1702	(100.0)	3349	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表10 それなりに飲酒するようになった時期（飲酒経験者のみ）（％）〔累積％〕

	男		女		全体	
小学校以前	1	(.1)[.1]	3	(.2)[.2]	4	(.1)[.1]
小学校時代	6	(.4)[.5]	5	(.3)[.5]	11	(.3)[.4]
中学校時代	42	(2.6)[3.1]	25	(1.5)[2.0]	67	(2.0)[2.4]
中卒後～17才	124	(7.5)[10.6]	76	(4.5)[6.5]	200	(6.0)[8.4]
18-19才	510	(31.0)[41.6]	349	(20.5)[27.0]	859	(25.6)[34.0]
20才以降	908	(55.2)[96.7]	1150	(67.6)[94.5]	2059	(61.5)[95.6]
無回答	54	(3.3)[100]	94	(5.5)[100]	149	(4.4)[100]
合計	1645	(100.0)	1702	(100.0)	3349	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表11 過去1年での飲酒経験（飲酒1年経験率）（％）

	男	女	全体
過去1年飲酒経験 なし	164 (9.7)	308 (16.4)	472 (13.2)
あり	1523 (89.6)	1546 (82.5)	3071 (85.9)
無回答	12 (.7)	20 (1.1)	32 (.9)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表12 過去1年に飲酒した機会（過去1年飲酒経験者のみ）（％）

	男	女	全体
（冠婚葬祭）	918 (60.3)	783 (50.6)	1702 (55.4)
（仕事・商売上の必要）	662 (43.5)	240 (15.5)	902 (29.4)
（上司とつきあい）	534 (35.1)	186 (12.0)	720 (23.4)
（友人・同僚と）	1127 (74.0)	925 (59.8)	2053 (66.9)
（その他つきあい）	521 (34.2)	232 (15.0)	754 (24.6)
（家の食事・団らん）	1138 (74.7)	1047 (67.7)	2187 (71.2)
（外の食事・団らん）	800 (52.5)	683 (44.2)	1483 (48.3)
（仕事で嫌なこと）	225 (14.8)	88 (5.7)	313 (10.2)
（家で面白くない事）	163 (10.7)	88 (5.7)	251 (8.2)
（寝る前）	437 (28.7)	304 (19.7)	741 (24.1)
（その他）	33 (2.2)	20 (1.3)	53 (1.7)
（飲酒機会ありだが機会不明）	2 (.1)	4 (.3)	6 (.2)
合計	1523 (100.0)	1546 (100.0)	3071 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表13 過去1年での飲酒頻度（過去1年飲酒経験者のみ）（％）

	男	女	全体
1年間に数回（年5回以内）	215 (14.1)	516 (33.4)	732 (23.8)
2ヶ月に1回（年間約6-11回）	100 (6.6)	195 (12.6)	295 (9.6)
月に1-2回（年間約12-24回）	132 (8.7)	194 (12.5)	326 (10.6)
月に数回（年間約25-51回）	126 (8.3)	163 (10.5)	289 (9.4)
週1-2回程度	162 (10.6)	188 (12.2)	350 (11.4)
週3-6回程度	256 (16.8)	140 (9.1)	397 (12.9)
ほとんど毎日	524 (34.4)	126 (8.2)	650 (21.2)
飲んだが頻度不明	3 (.2)	13 (.8)	16 (.5)
無回答	5 (.3)	11 (.7)	16 (.5)
合計	1523 (100.0)	1546 (100.0)	3071 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表14 禁酒に対する考え・実態（生涯飲酒経験者のみ）（％）

	男	女	全体
禁酒は考えたことない	1098 (66.7)	1360 (79.9)	2458 (73.4)
禁酒を考えたことはあるが実行したことはない	261 (15.9)	112 (6.6)	373 (11.1)
禁酒を試みたが現在禁酒に至っていない	124 (7.5)	40 (2.4)	164 (4.9)
禁酒中（初めての禁酒。1年未満。）	23 (1.4)	14 (.8)	38 (1.1)
禁酒中（再挑戦の禁酒。1年未満。）	8 (.5)	5 (.3)	13 (.4)
禁酒中（1年以上）	64 (3.9)	41 (2.4)	105 (3.1)
無回答	67 (4.1)	130 (7.6)	198 (5.9)
合計	1645 (100.0)	1702 (100.0)	3349 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表15 禁酒理由(生涯飲酒経験あり、かつ、禁酒を考えたことのある人)(%)

	男	女	全体
健康上の不調は感じないが可能性が心配になったから	182 (41.7)	86 (45.3)	269 (42.9)
健康上の不調を感じたから	219 (50.2)	69 (36.3)	288 (45.9)
問題は起こしていないが自分の飲酒にその可能性を感じたから	22 (5.0)	6 (3.2)	28 (4.5)
飲酒で問題を起こしたから	12 (2.8)	5 (2.6)	17 (2.7)
その他	33 (7.6)	37 (19.5)	70 (11.2)
合計	436 (100.0)	190 (100.0)	627 (100.0)

全体の中には、性別不明者1名を含む

表16 これまでの喫煙経験(生涯喫煙経験)(%)

喫煙経験	男	女	全体
なし	225 (13.2)	1002 (53.5)	1227 (34.3)
あり	1469 (86.5)	845 (45.1)	2315 (64.8)
無回答	5 (.3)	27 (1.4)	33 (.9)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表17 初めての喫煙時期(生涯喫煙経験者のみ)(%)、[累積%]

	男	女	全体
小学校以前	15 (1.0)[.1]	8 (.9)[.9]	23 (1.0)[1.0]
小学校時代	106 (7.2)[7.3]	41 (4.9)[5.8]	147 (6.3)[7.3]
中学校時代	282 (19.2)[26.5]	89 (10.5)[16.3]	371 (16.0)[23.3]
中卒後~17才	262 (17.8)[44.3]	99 (11.7)[28.0]	361 (15.6)[38.9]
18-19才	462 (31.4)[75.7]	244 (28.9)[56.9]	706 (30.5)[69.4]
20才以降	332 (22.6)[98.3]	348 (41.2)[98.1]	681 (29.4)[98.9]
無回答	10 (.7)[100]	16 (1.9)[100]	26 (1.1)[100]
合計	1469 (100.0)	845 (100.0)	2315 (100.0)

全体の中には、性別不明者1名を含む

表18 それなりに喫煙するようになった時期(喫煙経験者のみ)(%)、[累積%]

	男	女	全体
小学校以前		1 (.1)[.1]	1 (.0)[.0]
小学校時代	9 (.6)[.6]	3 (.4)[.5]	12 (.5)[.5]
中学校時代	86 (5.9)[6.5]	28 (3.3)[3.8]	114 (4.9)[5.4]
中卒後~17才	176 (12.0)[18.5]	51 (6.0)[9.8]	227 (9.8)[15.2]
18-19才	488 (33.2)[51.7]	154 (18.2)[28.0]	642 (27.7)[42.9]
20才以降	613 (41.7)[93.4]	407 (48.2)[76.2]	1020 (44.1)[87.1]
無回答	97 (6.6)[100]	201 (23.8)[100]	299 (12.9)[100]
合計	1469 (100.0)	845 (100.0)	2315 (100.0)

全体の中には、性別不明者1名を含む

表19 過去1年間での喫煙経験(%)

	男	女	全体
なし	744 (43.9)	1429 (76.3)	2173 (60.9)
あり	927 (54.7)	357 (19.1)	1285 (36.0)
無回答	23 (1.4)	87 (4.6)	111 (3.1)
合計	1694 (100.0)	1873 (100.0)	3569 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表20 過去1年の喫煙頻度（過去1年喫煙経験者のみ）（%）

	男		女		全体	
1年間に数回（年間5回以内）	48	(5.2)	49	(13.7)	97	(7.5)
2ヶ月に1回程度（年6-11回）	9	(1.0)	5	(1.4)	14	(1.1)
月に1-2回程度（年12-24回）	11	(1.2)	4	(1.1)	15	(1.2)
月に数回（年25-51回）	12	(1.3)	5	(1.4)	17	(1.3)
週に1-2回程度	13	(1.4)	7	(2.0)	20	(1.6)
週に3-6回程度	16	(1.7)	11	(3.1)	27	(2.1)
ほとんど毎日（1日1-10本）	178	(19.2)	135	(37.8)	314	(24.4)
ほとんど毎日（1日11-20本）	366	(39.5)	104	(29.1)	470	(36.6)
ほとんど毎日（1日21本以上）	266	(28.7)	34	(9.5)	300	(23.3)
ほとんど毎日（パイプたばこ）	8	(.9)	3	(.8)	11	(.9)
合計	927	(100.0)	357	(100.0)	1285	(100.0)

全体の中には、性別不明者1名を含む

表21 禁煙に対する考え方（生涯喫煙経験者のみ）（%）

	男		女		全体	
禁煙を考えたことはない	381	(26.0)	329	(38.9)	710	(30.7)
禁煙を考えたことはあるが実行したことはない	283	(19.3)	106	(12.5)	389	(16.8)
禁煙を試みたが現在禁煙に至っていない	278	(18.9)	131	(15.5)	409	(17.7)
禁煙中（初めての禁煙。1年未満。）	27	(1.8)	13	(1.5)	40	(1.7)
禁煙中（再挑戦の禁煙。1年未満。）	29	(2.0)	15	(1.8)	44	(1.9)
禁煙中（1年以上）	421	(28.7)	175	(20.7)	596	(25.8)
無回答	49	(3.3)	76	(9.0)	126	(5.4)
合計	1468	(100.0)	845	(100.0)	2314	(100.0)

全体の中には、性別不明者1名を含む

表22 禁煙理由（喫煙経験者で、禁煙考えたことある人のみ）（%）

	男		女		全体	
健康上不調は感じないが可能性心配になった	387	(37.3)	156	(35.5)	543	(36.7)
健康上の不調	344	(33.1)	96	(21.8)	440	(29.8)
喫煙者が白い目で見られるようになった	30	(2.9)	23	(5.2)	53	(3.6)
人から禁煙を勧められた	73	(7.0)	38	(8.6)	111	(7.5)
家族や他者の健康への影響を考えて	249	(24.0)	125	(28.4)	374	(25.3)
その他	130	(12.5)	87	(19.8)	217	(14.7)
無回答	31	(3.0)	8	(1.8)	39	(2.6)
合計	1038	(100.0)	440	(100.0)	1478	(100.0)

表23 家庭の常備薬（複数回答）（%）

	男		女		全体	
とくになし	171	(10.1)	148	(7.9)	320	(9.0)
風邪薬	1144	(67.3)	1326	(70.8)	2471	(69.1)
胃腸薬	1074	(63.2)	1212	(64.7)	2287	(64.0)
ビタミン剤	539	(31.7)	666	(35.5)	1205	(33.7)
高血圧薬	217	(12.8)	232	(12.4)	449	(12.6)
糖尿病薬	71	(4.2)	58	(3.1)	129	(3.6)
精神安定薬	70	(4.1)	96	(5.1)	166	(4.6)
湿布薬	784	(46.1)	1022	(54.5)	1806	(50.5)
強精強肝薬	24	(1.4)	17	(.9)	41	(1.1)
睡眠薬	64	(3.8)	85	(4.5)	149	(4.2)
鎮痛薬	509	(30.0)	846	(45.1)	1356	(37.9)
抗生物質	116	(6.8)	151	(8.1)	267	(7.5)
便秘薬	256	(15.1)	422	(22.5)	678	(19.0)
目薬	970	(57.1)	1159	(61.8)	2130	(59.6)
鼻炎薬	280	(16.5)	405	(21.6)	685	(19.2)
セットの置き薬	571	(33.6)	576	(30.7)	1148	(32.1)
その他	34	(2.0)	48	(2.6)	82	(2.3)
無回答	16	(.9)	13	(.7)	29	(.8)
合計	1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表24 過去1年間に一回でも使用したことがある医薬品（複数回答）（％）

	男		女		全体	
	度数	列 %	度数	列 %	度数	列 %
とくになし	128	(7.5)	115	(6.1)	243	(6.8)
風邪薬	1146	(67.5)	1236	(66.0)	2382	(66.6)
胃腸薬	823	(48.4)	830	(44.3)	1653	(46.2)
ビタミン剤	486	(28.6)	623	(33.2)	1109	(31.0)
高血圧薬	210	(12.4)	200	(10.7)	411	(11.5)
糖尿病薬	71	(4.2)	48	(2.6)	119	(3.3)
精神安定薬	100	(5.9)	156	(8.3)	256	(7.2)
湿布薬	594	(35.0)	757	(40.4)	1352	(37.8)
強精強肝薬	28	(1.6)	10	(.5)	38	(1.1)
睡眠薬	82	(4.8)	127	(6.8)	209	(5.8)
鎮痛薬	695	(40.9)	1040	(55.5)	1735	(48.5)
抗生物質	171	(10.1)	266	(14.2)	437	(12.2)
便秘薬	131	(7.7)	289	(15.4)	420	(11.7)
目薬	814	(47.9)	1001	(53.4)	1815	(50.8)
鼻炎薬	245	(14.4)	302	(16.1)	547	(15.3)
セットの置き薬	200	(11.8)	190	(10.1)	390	(10.9)
その他	42	(2.5)	45	(2.4)	87	(2.4)
無回答	14	(.8)	11	(.6)	25	(.7)
合計	1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表25 過去1年間の鎮痛薬使用頻度（％）

	男		女		全体	
	度数	列 %	度数	列 %	度数	列 %
一度も飲んでいない	977	(57.5)	797	(42.5)	1776	(49.7)
1年間に数回（年5回以内）	477	(28.1)	591	(31.5)	1068	(29.9)
2ヶ月に1回（年間約6-11回）	69	(4.1)	115	(6.1)	184	(5.1)
月に1-2回（年間約12-24回）	44	(2.6)	175	(9.3)	219	(6.1)
月に数回（年間約25-51回）	23	(1.4)	65	(3.5)	88	(2.5)
週1-2回程度	10	(.6)	28	(1.5)	38	(1.1)
週3-6回程度	19	(1.1)	11	(.6)	30	(.8)
ほとんど毎日	20	(1.2)	22	(1.2)	42	(1.2)
飲んだが頻度不明	29	(1.7)	31	(1.7)	60	(1.7)
無回答	31	(1.8)	39	(2.1)	70	(2.0)
合計	1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表26 鎮痛薬の入手先（鎮痛薬を過去1年間に使用した人のみ）（複数回答）（％）

	男		女		全体	
	度数	列 %	度数	列 %	度数	列 %
入手していない	29	(4.2)	24	(2.3)	53	(3.1)
医院・病院	353	(50.8)	439	(42.2)	792	(45.6)
薬局・薬店	306	(44.0)	604	(58.1)	910	(52.4)
家族・常備薬	126	(18.1)	184	(17.7)	310	(17.9)
友人・知人	7	(1.0)	20	(1.9)	27	(1.6)
愛人・恋人	1	(.1)	1	(.1)	2	(.1)
その他	9	(1.3)	11	(1.1)	20	(1.2)
無回答	5	(.7)	5	(.5)	10	(.6)
合計	695	(100.0)	1040	(100.0)	1735	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表27 鎮痛薬の使用理由（鎮痛薬を過去1年間使用した人のみ）（複数回答）（％）

	男	女	全体
頭痛	384 (55.3)	713 (68.6)	1097 (63.2)
歯痛	209 (30.1)	194 (18.7)	403 (23.2)
腰痛	92 (13.2)	98 (9.4)	190 (11.0)
生理痛	3 (.4)	315 (30.3)	318 (18.3)
胃痛	83 (11.9)	84 (8.1)	167 (9.6)
肩こり	44 (6.3)	118 (11.3)	162 (9.3)
その他の痛み	62 (8.9)	68 (6.5)	130 (7.5)
遊び・快感目的	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	26 (3.7)	29 (2.8)	55 (3.2)
無回答	42 (6.0)	21 (2.0)	63 (3.6)
合計	695 (100.0)	1040 (100.0)	1735 (100.0)

表28 鎮痛薬使用の実情・心情（％）

	男	女	全体
必要がないので考えたことがない	929 (54.7)	719 (38.4)	1650 (46.2)
必要なときは心配せずに使っている	437 (25.7)	539 (28.8)	976 (27.3)
心配もあるがどちらかと言えば使う	216 (12.7)	426 (22.7)	642 (18.0)
心配だからどちらかというと思わない	56 (3.3)	127 (6.8)	183 (5.1)
心配だからとにかく使わない	10 (.6)	20 (1.1)	30 (.8)
無回答	51 (3.0)	43 (2.3)	94 (2.6)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表29 この1年間での精神安定薬（抗不安薬）の使用頻度（％）

	男	女	全体
一度も飲んでいない	1574 (92.6)	1687 (90.0)	3263 (91.3)
1年間に数回（年5回以内）	32 (1.9)	61 (3.3)	93 (2.6)
2ヶ月に1回（年間約6-11回）	5 (.3)	13 (.7)	18 (.5)
月に1-2回（年間約12-24回）	6 (.4)	10 (.5)	16 (.4)
月に数回（年間約25-51回）	8 (.5)	10 (.5)	18 (.5)
週1-2回程度	4 (.2)	16 (.9)	20 (.6)
週3-6回程度	7 (.4)	6 (.3)	13 (.4)
ほとんど毎日	33 (1.9)	40 (2.1)	73 (2.0)
飲んだが頻度不明	2 (.1)	2 (.1)	4 (.1)
無回答	28 (1.6)	29 (1.5)	57 (1.6)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表30 精神安定薬の入手先（過去1年間に精神安定薬を使った人）（複数回答）（％）

	男	女	全体
入手していない	4 (4.0)	6 (3.8)	10 (3.9)
医院・病院	82 (82.0)	132 (84.6)	214 (83.6)
薬局・薬店	11 (11.0)	9 (5.8)	20 (7.8)
家族・常備薬	3 (3.0)	8 (5.1)	11 (4.3)
友人・知人	3 (3.0)	1 (.6)	4 (1.6)
愛人・恋人	1 (1.0)	0 (0)	1 (.4)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)
無回答	3 (3.0)	4 (2.6)	7 (2.7)
合計	100 (100.0)	156 (100.0)	256 (100.0)

表31 精神安定薬の使用理由（過去1年間に精神安定薬を使った人）（複数回答）（％）

	男	女	全体
不眠改善	59 (59.0)	80 (51.3)	139 (54.3)
不安解消	26 (26.0)	37 (23.7)	63 (24.6)
ストレス軽減	17 (17.0)	25 (16.0)	42 (16.4)
高血圧の治療	9 (9.0)	18 (11.5)	27 (10.5)
遊び・快感目的	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	10 (10.0)	20 (12.8)	30 (11.7)
無回答	9 (9.0)	14 (9.0)	23 (9.0)
合計	100 (100.0)	156 (100.0)	256 (100.0)

表32 精神安定薬使用の実情・心情（％）

	男	女	全体
必要がないので考えたことがない	1472 (86.6)	1574 (84.0)	3048 (85.3)
必要なときは心配せずに使っている	82 (4.8)	85 (4.5)	167 (4.7)
心配もあるがどちらかと言えば使う	63 (3.7)	100 (5.3)	163 (4.6)
心配だからどちらかというと思わない	22 (1.3)	36 (1.9)	58 (1.6)
心配だからとにかく使わない	13 (.8)	24 (1.3)	37 (1.0)
無回答	47 (2.8)	55 (2.9)	102 (2.9)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表33 1年間での睡眠薬の使用頻度（％）

	男	女	全体
一度も飲んでいない	1592 (93.7)	1726 (92.1)	3320 (92.9)
1年間に数回（年5回以内）	31 (1.8)	57 (3.0)	88 (2.5)
2ヶ月に1回（年間約6-11回）	5 (.3)	13 (.7)	18 (.5)
月に1-2回（年間約12-24回）	5 (.3)	12 (.6)	17 (.5)
月に数回（年間約25-51回）	4 (.2)	6 (.3)	10 (.3)
週1-2回程度	3 (.2)	11 (.6)	14 (.4)
週3-6回程度	11 (.6)	8 (.4)	19 (.5)
ほとんど毎日	22 (1.3)	19 (1.0)	41 (1.1)
飲んだが頻度不明		1 (.1)	1 (.0)
無回答	26 (1.5)	21 (1.1)	47 (1.3)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表34 睡眠薬の入手先（過去1年に睡眠薬を使用した人）（複数回答）（％）

	男	女	全体
入手していない	0 (0)	0 (0)	0 (0)
医院・病院	78 (95.1)	116 (91.3)	194 (92.8)
薬局・薬店	4 (4.9)	2 (1.6)	6 (2.9)
家族・常備薬	0 (0)	4 (3.1)	4 (1.9)
友人・知人	3 (3.7)	3 (2.4)	6 (2.9)
愛人・恋人	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	4 (4.9)	2 (1.6)	6 (2.9)
無回答	0 (0)	3 (2.4)	3 (1.4)
合計	82 (100.0)	127 (100.0)	209 (100.0)

表35 睡眠薬の使用理由（過去1年に睡眠薬を使用した人）（複数回答）（％）

	男	女	全体
不眠改善	68 (82.9)	112 (88.2)	180 (86.1)
不安解消	11 (13.4)	7 (5.5)	18 (8.6)
ストレス軽減	8 (9.8)	6 (4.7)	14 (6.7)
高血圧の治療	6 (7.3)	7 (5.5)	13 (6.2)
遊び・快感目的	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	9 (11.0)	10 (7.9)	19 (9.1)
無回答	1 (1.2)	3 (2.4)	4 (1.9)
合計	82 (100.0)	127 (100.0)	209 (100.0)

表36 睡眠薬使用の実情・心情（％）

	男	女	全体
必要がないので考えたこともない	1491 (87.8)	1569 (83.7)	3062 (85.7)
必要なときは心配せずに使っている	70 (4.1)	80 (4.3)	150 (4.2)
心配もあるがどちらかと言えば使う	61 (3.6)	89 (4.7)	150 (4.2)
心配だからどちらかというとならない	19 (1.1)	42 (2.2)	61 (1.7)
心配だからとにかく使わない	14 (.8)	39 (2.1)	53 (1.5)
無回答	44 (2.6)	55 (2.9)	99 (2.8)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表37 聞いたことのある薬物名（複数回答）（％）

	男	女	全体
有機溶剤	465 (27.4)	260 (13.9)	726 (20.3)
シンナー	1430 (84.2)	1551 (82.8)	2982 (83.4)
トルエン	897 (52.8)	688 (36.7)	1585 (44.3)
大麻	1542 (90.8)	1662 (88.7)	3205 (89.7)
マリファナ	1307 (76.9)	1411 (75.3)	2719 (76.1)
ハシッシ	376 (22.1)	235 (12.5)	612 (17.1)
覚せい剤	1488 (87.6)	1616 (86.2)	3105 (86.9)
ヒロポン	1069 (62.9)	933 (49.8)	2003 (56.0)
シャブ	1194 (70.3)	1180 (63.0)	2374 (66.4)
スピード	639 (37.6)	646 (34.5)	1285 (35.9)
エス	234 (13.8)	210 (11.2)	445 (12.4)
麻薬	1452 (85.5)	1582 (84.4)	3035 (84.9)
モルヒネ	1372 (80.8)	1508 (80.5)	2881 (80.6)
ヘロイン	1315 (77.4)	1294 (69.1)	2610 (73.0)
コカイン	1423 (83.8)	1509 (80.5)	2933 (82.0)
クラック	392 (23.1)	178 (9.5)	570 (15.9)
LSD	926 (54.5)	829 (44.2)	1755 (49.1)
アシッド	103 (6.1)	62 (3.3)	165 (4.6)
MDMA	62 (3.6)	27 (1.4)	89 (2.5)
エクスタシー	357 (21.0)	293 (15.6)	650 (18.2)
マジック・マッシュルーム	473 (27.8)	493 (26.3)	966 (27.0)
全て知らない	70 (4.1)	69 (3.7)	139 (3.9)
無回答	42 (2.5)	58 (3.1)	101 (2.8)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

左端のカッコは同じものであることを意味している。

全体の中には、性別不明者2名を含む

表38 薬物乱用を繰り返すと依存状態になることを知っているか？（％）

	男	女	全体
知っている	1602 (94.3)	1764 (94.1)	3368 (94.2)
知らない	77 (4.5)	92 (4.9)	169 (4.7)
無回答	20 (1.2)	18 (1.0)	38 (1.1)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表39 「シンナー遊び」で死亡すること（急性中毒死）があることを知っているか？（％）

	男	女	全体
知っている	1426 (83.9)	1530 (81.6)	2958 (82.7)
知らない	254 (14.9)	322 (17.2)	576 (16.1)
無回答	19 (1.1)	22 (1.2)	41 (1.1)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表40 「シンナー遊び」で幻視・幻聴・妄想などの精神病状態になることがあることを知っているか？（％）

	男	女	全体
知っている	1466 (86.3)	1590 (84.8)	3058 (85.5)
知らない	204 (12.0)	243 (13.0)	447 (12.5)
無回答	29 (1.7)	41 (2.2)	70 (2.0)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表41 「シンナー遊び」でフラッシュバック現象があることを知っているか？（％）

	男	女	全体
知っている	1130 (66.5)	1153 (61.5)	2284 (63.9)
知らない	533 (31.4)	674 (36.0)	1208 (33.8)
無回答	36 (2.1)	47 (2.5)	83 (2.3)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表42 「シンナー遊び」で無動機症候群になることがあることを知っているか？（％）

	男	女	全体
知っている	1146 (67.5)	1205 (64.3)	2353 (65.8)
知らない	521 (30.7)	626 (33.4)	1147 (32.1)
無回答	32 (1.9)	43 (2.3)	75 (2.1)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表43 「シンナー遊び」をする人数の印象（％）

	男	女	全体
以前より増えている	358 (21.1)	455 (24.3)	814 (22.8)
変わらない	182 (10.7)	179 (9.6)	361 (10.1)
以前より減っている	169 (9.9)	108 (5.8)	277 (7.7)
わからない	932 (54.9)	1057 (56.4)	1990 (55.7)
無回答	58 (3.4)	75 (4.0)	133 (3.7)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表44 身近な人で「シンナー遊び」をこれまでに行ったことのある人を知っているか？(%)

	男	女	全体
知らない	1322 (77.8)	1541 (82.2)	2865 (80.1)
知っている	353 (20.8)	288 (15.4)	641 (17.9)
無回答	24 (1.4)	45 (2.4)	69 (1.9)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表45 身近な人で「シンナー遊び」をこれまでに行ったことのある人を知っているか？

	シンナー遊びを行ったことのある人を知っている			(年齢群別)(%)	
				合計	
	知らない	知っている	無回答		
15-19歳	198 (6.9)	48 (7.5)	1 (1.4)	247	(6.9)
20-24歳	145 (5.1)	46 (7.2)	3 (4.3)	194	(5.4)
25-29歳	183 (6.4)	72 (11.2)	3 (4.3)	258	(7.2)
30-34歳	192 (6.7)	82 (12.8)		274	(7.7)
35-39歳	193 (6.7)	82 (12.8)	4 (5.8)	279	(7.8)
40-44歳	203 (7.1)	57 (8.9)	5 (7.2)	265	(7.4)
45-49歳	228 (8.0)	57 (8.9)	4 (5.8)	289	(8.1)
50-59歳	625 (21.8)	110 (17.2)	14 (20.3)	749	(21.0)
60歳以上	894 (31.2)	87 (13.6)	35 (50.7)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)			4	(.1)
合計	2865 (100.0)	641 (100.0)	69 (100.0)	3575	(100.0)

表46 身近な人で、「シンナー遊び」をこれまでに行ったことのある人を何人知っているか？
 (「シンナー遊び」をこれまでに行ったことのある人を知っている者のみ)(%)

	男	女	全体
1人	65 (18.4)	76 (26.4)	141 (22.0)
2人	56 (15.9)	53 (18.4)	109 (17.0)
3人	65 (18.4)	42 (14.6)	107 (16.7)
4人	17 (4.8)	14 (4.9)	31 (4.8)
5人	42 (11.9)	30 (10.4)	72 (11.2)
6人	10 (2.8)	11 (3.8)	21 (3.3)
7人	4 (1.1)	6 (2.1)	10 (1.6)
8人	9 (2.5)	1 (.3)	10 (1.6)
9人	1 (.3)		1 (.2)
10人	31 (8.8)	25 (8.7)	56 (8.7)
13人		1 (.3)	1 (.2)
15人	5 (1.4)	2 (.7)	7 (1.1)
16人	1 (.3)		1 (.2)
20人	12 (3.4)	3 (1.0)	15 (2.3)
30人	7 (2.0)	2 (.7)	9 (1.4)
50人	1 (.3)	3 (1.0)	4 (.6)
80人		1 (.3)	1 (.2)
無回答	27 (7.6)	18 (6.3)	45 (7.0)
合計	353 (100.0)	288 (100.0)	641 (100.0)
平均±SD	5.28±6.18	4.71±7.81	5.02±6.97
	n=326	n=270	n=596

表47 身近な人で、この1年間に「シンナー遊び」を行ったことのある人を知っているか？(%)

	男	女	全体
知らない	1606 (94.5)	1776 (94.8)	3384 (94.7)
知っている	66 (3.9)	51 (2.7)	117 (3.3)
無回答	27 (1.6)	47 (2.5)	74 (2.1)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表48 身近な人で、この1年間に「シンナー遊び」を行ったことのある人を知っているか？

		この1年間にシンナー遊びを行ったことのある人を知っている			(年齢群別)(%)	
		知らない	知っている	無回答	度数	列%
年齢						
15-19歳		221 (6.5)	24 (20.5)	2 (2.7)	247	(6.9)
20-24歳		177 (5.2)	15 (12.8)	2 (2.7)	194	(5.4)
25-29歳		250 (7.4)	7 (6.0)	1 (1.4)	258	(7.2)
30-34歳		266 (7.9)	6 (5.1)	2 (2.7)	274	(7.7)
35-39歳		265 (7.8)	9 (7.7)	5 (6.8)	279	(7.8)
40-44歳		254 (7.5)	7 (6.0)	4 (5.4)	265	(7.4)
45-49歳		278 (8.2)	7 (6.0)	4 (5.4)	289	(8.1)
50-59歳		713 (21.1)	20 (17.1)	16 (21.6)	749	(21.0)
60歳以上		956 (28.3)	22 (18.8)	38 (51.4)	1016	(28.4)
無回答		4 (.1)			4	(.1)
合計		3384 (100.0)	117 (100.0)	74 (100.0)	3575	(100.0)

表49 身近な人で、この1年間に「シンナー遊び」を行ったことのある人を何人知っているか？

		(過去1年使用者を知っている人のみ)(%)		
		男	女	全体
1人		16 (24.2)	18 (35.3)	34 (29.1)
2人		17 (25.8)	11 (21.6)	28 (23.9)
3人		9 (13.6)	2 (3.9)	11 (9.4)
4人		3 (4.5)	5 (9.8)	8 (6.8)
5人		7 (10.6)	8 (15.7)	15 (12.8)
6人			1 (2.0)	1 (.9)
8人		2 (3.0)	1 (2.0)	3 (2.6)
10人		4 (6.1)	2 (3.9)	6 (5.1)
15人		1 (1.5)		1 (.9)
20人		1 (1.5)		1 (.9)
30人		2 (3.0)		2 (1.7)
無回答		4 (6.1)	3 (5.9)	7 (6.0)
合計		66 (100.0)	51 (100.0)	117 (100.0)
平均±SD		4.44±5.90	2.92±2.31	3.77±4.73
		n=62	n=48	n=110

表50 これまでに「シンナー遊び」に誘われたことがあるか？(生涯被誘惑経験)(%)

	男	女	全体
ない	1594 (93.8)	1795 (95.8)	3391 (94.9)
1年より前にのみあった	78 (4.6)	41 (2.2)	119 (3.3)
1年より前にも、この1年間にもあった			
この1年間にのみあった		1 (.1)	1 (.0)
無回答	27 (1.6)	37 (2.0)	64 (1.8)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表51 「シンナー遊び」被誘惑経験(年齢群別)(%)

年齢	誘われた経験			無回答	合計
	誘われた経験はない	1年より前にのみ誘われた	この1年間にのみ誘われた		
15-19歳	233 (6.9)	12 (10.1)	1 (100.0)	1 (1.6)	247 (6.9)
20-24歳	179 (5.3)	13 (10.9)		2 (3.1)	194 (5.4)
25-29歳	230 (6.8)	27 (22.7)		1 (1.6)	258 (7.2)
30-34歳	253 (7.5)	20 (16.8)		1 (1.6)	274 (7.7)
35-39歳	253 (7.5)	21 (17.6)		5 (7.8)	279 (7.8)
40-44歳	248 (7.3)	14 (11.8)		3 (4.7)	265 (7.4)
45-49歳	277 (8.2)	8 (6.7)		4 (6.3)	289 (8.1)
50-59歳	728 (21.5)	4 (3.4)		17 (26.6)	749 (21.0)
60歳以上	986 (29.1)			30 (46.9)	1016 (28.4)
無回答	4 (.1)				4 (.1)
合計	3391 (100.0)	119 (100.0)	1 (100.0)	64 (100.0)	3575 (100.0)

表52 「シンナー遊び」被誘惑経験（年齢群別）（％）

年齢群	誘われた経験		1年より前に		この1年間に		無回答	合計		
	はない	は	のみ誘われた	のみ誘われた	のみ誘われた	のみ誘われた				
15-19歳	233	(94.3)	12	(4.9)	1	(.4)	1	(.4)	247	(100.0)
20-24歳	179	(92.3)	13	(6.7)			2	(1.0)	194	(100.0)
25-29歳	230	(89.1)	27	(10.5)			1	(.4)	258	(100.0)
30-34歳	253	(92.3)	20	(7.3)			1	(.4)	274	(100.0)
35-39歳	253	(90.7)	21	(7.5)			5	(1.8)	279	(100.0)
40-44歳	248	(93.6)	14	(5.3)			3	(1.1)	265	(100.0)
45-49歳	277	(95.8)	8	(2.8)			4	(1.4)	289	(100.0)
50-59歳	728	(97.2)	4	(.5)			17	(2.3)	749	(100.0)
60歳以上	986	(97.0)					30	(3.0)	1016	(100.0)
無回答	4	(100.0)							4	(100.0)
合計	3391	(94.9)	119	(3.3)	1	(.0)	64	(1.8)	3575	(100.0)

表53 これまでに「シンナー遊び」を1回でも行ったことのある経験（生涯経験）（％）

	男		女		全体	
	数	％	数	％	数	％
行ったことはない	1638	(96.4)	1818	(97.0)	3458	(96.7)
この1年間より前にのみあった	39	(2.3)	19	(1.0)	58	(1.6)
1年より前にも、この1年間にもあった						
この1年間にのみあった						
無回答	22	(1.3)	37	(2.0)	59	(1.7)
合計	1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表54 これまでに「シンナー遊び」を1回でも行ったことのある経験（年齢群別）（％）

年齢群	行ったことはない		この1年間より前にのみあった		この1年間にのみあった		無回答	合計		
	数	％	数	％	数	％				
15-19歳	242	(7.0)	4	(6.9)			1	(1.7)	247	(6.9)
20-24歳	186	(5.4)	6	(10.3)			2	(3.4)	194	(5.4)
25-29歳	242	(7.0)	14	(24.1)			2	(3.4)	258	(7.2)
30-34歳	266	(7.7)	8	(13.8)					274	(7.7)
35-39歳	264	(7.6)	12	(20.7)			3	(5.1)	279	(7.8)
40-44歳	253	(7.3)	9	(15.5)			3	(5.1)	265	(7.4)
45-49歳	279	(8.1)	4	(6.9)			6	(10.2)	289	(8.1)
50-59歳	732	(21.2)	1	(1.7)			16	(27.1)	749	(21.0)
60歳以上	990	(28.6)					26	(44.1)	1016	(28.4)
無回答	4	(.1)							4	(.1)
合計	3458	(100.0)	58	(100.0)			59	(100.0)	3575	(100.0)

表55 これまでに「シンナー遊び」を1回でも行ったことのある経験（年齢群別）（％）

年齢群	行ったことはない		この1年間より前にのみあった		この1年間にのみあった		無回答	合計		
	数	％	数	％	数	％				
15-19歳	242	(98.0)	4	(1.6)			1	(.4)	247	(100.0)
20-24歳	186	(95.9)	6	(3.1)			2	(1.0)	194	(100.0)
25-29歳	242	(93.8)	14	(5.4)			2	(.8)	258	(100.0)
30-34歳	266	(97.1)	8	(2.9)					274	(100.0)
35-39歳	264	(94.6)	12	(4.3)			3	(1.1)	279	(100.0)
40-44歳	253	(95.5)	9	(3.4)			3	(1.1)	265	(100.0)
45-49歳	279	(96.5)	4	(1.4)			6	(2.1)	289	(100.0)
50-59歳	732	(97.7)	1	(.1)			16	(2.1)	749	(100.0)
60歳以上	990	(97.4)					26	(2.6)	1016	(100.0)
無回答	4	(100.0)							4	(100.0)
合計	3458	(96.7)	58	(1.6)			59	(1.7)	3575	(100.0)

表56 大麻を吸っている人の人数の印象 (%)

	男	女	全体
以前より増えている	583 (34.3)	773 (41.2)	1357 (38.0)
変わらない	109 (6.4)	81 (4.3)	190 (5.3)
以前より減っている	21 (1.2)	6 (.3)	27 (.8)
わからない	956 (56.3)	972 (51.9)	1929 (54.0)
無回答	30 (1.8)	42 (2.2)	72 (2.0)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表57 大麻の吸引により精神病状態・フラッシュ・バック・無動機症候群になることがあることを知っているか? (%)

	男	女	全体
知っている	1171 (68.9)	1290 (68.8)	2462 (68.9)
知らない	501 (29.5)	537 (28.7)	1039 (29.1)
無回答	27 (1.6)	47 (2.5)	74 (2.1)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表58 大麻をこれまでに吸ったことのある人を知っているか? (%)

	男	女	全体
知らない	1591 (93.6)	1774 (94.7)	3367 (94.2)
知っている	79 (4.6)	66 (3.5)	145 (4.1)
無回答	29 (1.7)	34 (1.8)	63 (1.8)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表59 大麻をこれまでに吸ったことのある人を知っているか(年齢群別)(%)

年齢群	大麻を吸ったことのある人			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	列 %
15-19歳	237 (7.0)	9 (6.2)	1 (1.6)	247	(6.9)
20-24歳	173 (5.1)	19 (13.1)	2 (3.2)	194	(5.4)
25-29歳	231 (6.9)	24 (16.6)	3 (4.8)	258	(7.2)
30-34歳	248 (7.4)	25 (17.2)	1 (1.6)	274	(7.7)
35-39歳	249 (7.4)	24 (16.6)	6 (9.5)	279	(7.8)
40-44歳	243 (7.2)	18 (12.4)	4 (6.3)	265	(7.4)
45-49歳	282 (8.4)	3 (2.1)	4 (6.3)	289	(8.1)
50-59歳	717 (21.3)	15 (10.3)	17 (27.0)	749	(21.0)
60歳以上	983 (29.2)	8 (5.5)	25 (39.7)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)			4	(.1)
合計	3367 (100.0)	145 (100.0)	63 (100.0)	3575	(100.0)

表60 大麻をこれまでに吸ったことのある人を知っているか(年齢群別)(%)

年齢群	大麻を吸ったことのある人			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	行 %
15-19歳	237 (96.0)	9 (3.6)	1 (.4)	247	(100.0)
20-24歳	173 (89.2)	19 (9.8)	2 (1.0)	194	(100.0)
25-29歳	231 (89.5)	24 (9.3)	3 (1.2)	258	(100.0)
30-34歳	248 (90.5)	25 (9.1)	1 (.4)	274	(100.0)
35-39歳	249 (89.2)	24 (8.6)	6 (2.2)	279	(100.0)
40-44歳	243 (91.7)	18 (6.8)	4 (1.5)	265	(100.0)
45-49歳	282 (97.6)	3 (1.0)	4 (1.4)	289	(100.0)
50-59歳	717 (95.7)	15 (2.0)	17 (2.3)	749	(100.0)
60歳以上	983 (96.8)	8 (.8)	25 (2.5)	1016	(100.0)
無回答	4 (100.0)			4	(100.0)
合計	3367 (94.2)	145 (4.1)	63 (1.8)	3575	(100.0)

表61 大麻をこれまでに吸ったことのある人を何人知っているか？(%)

人数	男	女	全体
1	16 (20.3)	22 (33.3)	38 (26.2)
2	14 (17.7)	9 (13.6)	23 (15.9)
3	14 (17.7)	12 (18.2)	26 (17.9)
4	2 (2.5)	1 (1.5)	3 (2.1)
5	8 (10.1)	5 (7.6)	13 (9.0)
6	3 (3.8)	2 (3.0)	5 (3.4)
7	1 (1.3)		1 (.7)
8	1 (1.3)	1 (1.5)	2 (1.4)
10	5 (6.3)	8 (12.1)	13 (9.0)
15	2 (2.5)	1 (1.5)	3 (2.1)
20	3 (3.8)	1 (1.5)	4 (2.8)
30	1 (1.3)		1 (.7)
50	1 (1.3)	1 (1.5)	2 (1.4)
999	8 (10.1)	3 (4.5)	11 (7.6)
合計	79 (100.0)	66 (100.0)	145 (100.0)
平均±SD	5.45±7.62 n=71	4.60±6.99 n=63	5.05±7.33 n=134

表62 大麻をこの1年間に吸った人を知っているか？(%)

	男	女	全体
知らない	1653 (97.3)	1815 (96.9)	3470 (97.1)
知っている	15 (.9)	21 (1.1)	36 (1.0)
無回答	31 (1.8)	38 (2.0)	69 (1.9)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表63 大麻をこの1年間に吸った人を知っているか？(年齢群別)(%)

年齢群	この1年間に大麻を吸った人			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	列 %
15-19歳	237 (6.8)	9 (25.0)	1 (1.4)	247	(6.9)
20-24歳	181 (5.2)	11 (30.6)	2 (2.9)	194	(5.4)
25-29歳	251 (7.2)	4 (11.1)	3 (4.3)	258	(7.2)
30-34歳	270 (7.8)	3 (8.3)	1 (1.4)	274	(7.7)
35-39歳	273 (7.9)		6 (8.7)	279	(7.8)
40-44歳	260 (7.5)	1 (2.8)	4 (5.8)	265	(7.4)
45-49歳	283 (8.2)	2 (5.6)	4 (5.8)	289	(8.1)
50-59歳	729 (21.0)	3 (8.3)	17 (24.6)	749	(21.0)
60歳以上	982 (28.3)	3 (8.3)	31 (44.9)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)			4	(.1)
合計	3470 (100.0)	36 (100.0)	69 (100.0)	3575	(100.0)

表64 大麻をこの1年間に吸った人を知っているか？(年齢群別)(%)

年齢群	この1年間に大麻を吸った人			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	行 %
15-19歳	237 (96.0)	9 (3.6)	1 (.4)	247	(100.0)
20-24歳	181 (93.3)	11 (5.7)	2 (1.0)	194	(100.0)
25-29歳	251 (97.3)	4 (1.6)	3 (1.2)	258	(100.0)
30-34歳	270 (98.5)	3 (1.1)	1 (.4)	274	(100.0)
35-39歳	273 (97.8)		6 (2.2)	279	(100.0)
40-44歳	260 (98.1)	1 (.4)	4 (1.5)	265	(100.0)
45-49歳	283 (97.9)	2 (.7)	4 (1.4)	289	(100.0)
50-59歳	729 (97.3)	3 (.4)	17 (2.3)	749	(100.0)
60歳以上	982 (96.7)	3 (.3)	31 (3.1)	1016	(100.0)
無回答	4 (100.0)			4	(100.0)
合計	3470 (97.1)	36 (1.0)	69 (1.9)	3575	(100.0)

表65 大麻をこの1年間に使用した人を何人知っているか？(%)

	男	女	全体
1人	1 (6.7)	12 (57.1)	13 (36.1)
2人	2 (13.3)		2 (5.6)
3人	1 (6.7)	3 (14.3)	4 (11.1)
4人	2 (13.3)		2 (5.6)
5人	2 (13.3)	2 (9.5)	4 (11.1)
6人		1 (4.8)	1 (2.8)
8人		1 (4.8)	1 (2.8)
10人	2 (13.3)		2 (5.6)
15人	1 (6.7)		1 (2.8)
無回答	4 (26.7)	2 (9.5)	6 (16.7)
合計	15 (100.0)	21 (100.0)	36 (100.0)
平均±SD	5.55±4.32 n=11	2.37±2.14 n=19	3.53±3.42 n=30

表66 これまでに大麻使用に誘われた経験(生涯被誘惑経験)(%)

	男	女	全体
なし	1628 (95.8)	1825 (97.4)	3455 (96.6)
1年より前にのみあった	40 (2.4)	15 (.8)	55 (1.5)
1年より前にも、この1年にもあった	2 (.1)		2 (.1)
この1年間にのみあった	3 (.2)	4 (.2)	7 (.2)
無回答	26 (1.5)	30 (1.6)	56 (1.6)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表67 大麻の生涯被誘惑経験(年齢群別)(%)

	大麻使用経験					合計	
	経験なし	この1年より前にのみあった	1年より前にも、この1年にもあった	この1年にもあり	無回答		
15-19歳	240 (6.9)	1 (1.8)		4 (57.1)	2 (3.6)	247	(6.9)
20-24歳	183 (5.3)	5 (9.1)	2 (100.0)	2 (100.0)	2 (3.6)	194	(5.4)
25-29歳	241 (7.0)	14 (25.5)			3 (5.4)	258	(7.2)
30-34歳	260 (7.5)	12 (21.8)		1 (14.3)	1 (1.8)	274	(7.7)
35-39歳	264 (7.6)	11 (20.0)			4 (7.1)	279	(7.8)
40-44歳	256 (7.4)	6 (10.9)			3 (5.4)	265	(7.4)
45-49歳	285 (8.2)				4 (7.1)	289	(8.1)
50-59歳	730 (21.1)	6 (10.9)			13 (23.2)	749	(21.0)
60歳以上	992 (28.7)				24 (42.9)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)					4	(.1)
合計	3455 (100.0)	55 (100.0)	2 (100.0)	7 (100.0)	56 (100.0)	3575	(100.0)

表68 大麻の生涯被誘惑経験(年齢群別)(%)

	大麻使用経験					合計	
	経験なし	この1年より前にのみあった	1年より前にも、この1年にもあった	この1年にもあり	無回答		
15-19歳	240 (97.2)	1 (.4)		4 (1.6)	2 (.8)	247	(100.0)
20-24歳	183 (94.3)	5 (2.6)	2 (1.0)	2 (1.0)	2 (1.0)	194	(100.0)
25-29歳	241 (93.4)	14 (5.4)			3 (1.2)	258	(100.0)
30-34歳	260 (94.9)	12 (4.4)		1 (.4)	1 (.4)	274	(100.0)
35-39歳	264 (94.6)	11 (3.9)			4 (1.4)	279	(100.0)
40-44歳	256 (96.6)	6 (2.3)			3 (1.1)	265	(100.0)
45-49歳	285 (98.6)				4 (1.4)	289	(100.0)
50-59歳	730 (97.5)	6 (.8)			13 (1.7)	749	(100.0)
60歳以上	992 (97.6)				24 (2.4)	1016	(100.0)
無回答	4 (100.0)					4	(100.0)
合計	3455 (96.6)	55 (1.5)	2 (.1)	7 (.2)	56 (1.6)	3575	(100.0)

表69 これまでに大麻を使用した経験（大麻生涯経験率）（％）

	男		女		全体	
経験なし	1645	(96.8)	1835	(97.9)	3482	(97.4)
この1年より前にのみあり	22	(1.3)	9	(.5)	31	(.9)
1年より前にも、この1年にもあり	1	(.1)			1	(.0)
この1年にのみあり	2	(.1)			2	(.0)
無回答	29	(1.7)	30	(1.6)	59	(1.7)
合計	1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表70 これまでの大麻の使用経験（年齢群別）（％）

	大麻使用経験					合計			
	経験なし	この1年より前にのみあった	1年より前にも、この1年にもあった	この1年にのみあり	無回答				
15-19歳	246	(7.1)			1	(1.7)	247	(6.9)	
20-24歳	188	(5.4)	2	(6.5)	1	(100.0)	1	(50.0)	
25-29歳	248	(7.1)	7	(22.6)			2	(3.4)	
30-34歳	263	(7.6)	8	(25.8)			3	(5.1)	
35-39歳	268	(7.7)	7	(22.6)			2	(3.4)	
40-44歳	259	(7.4)	3	(9.7)			4	(6.8)	
45-49歳	284	(8.2)					3	(5.1)	
50-59歳	731	(21.0)	4	(12.9)			5	(8.5)	
60歳以上	991	(28.5)					14	(23.7)	
無回答	4	(.1)					25	(42.4)	
合計	3482	(100.0)	31	(100.0)	1	(100.0)	2	(100.0)	
							59	(100.0)	
								3575	(100.0)

表71 これまでの大麻の使用経験（年齢群別）（％）

	大麻使用経験					合計			
	経験なし	この1年より前にのみあった	1年より前にも、この1年にもあった	この1年にのみあり	無回答				
15-19歳	246	(99.6)			1	(.4)	247	(100.0)	
20-24歳	188	(96.9)	2	(1.0)	1	(.5)	1	(.5)	
25-29歳	248	(96.1)	7	(2.7)			2	(1.0)	
30-34歳	263	(96.0)	8	(2.9)			3	(1.2)	
35-39歳	268	(96.1)	7	(2.5)			2	(.7)	
40-44歳	259	(97.7)	3	(1.1)			1	(.4)	
45-49歳	284	(98.3)					2	(.7)	
50-59歳	731	(97.6)	4	(.5)			4	(1.4)	
60歳以上	991	(97.5)					3	(1.1)	
無回答	4	(100.0)					5	(1.7)	
合計	3482	(97.4)	31	(.9)	1	(.0)	2	(.1)	
							59	(1.7)	
								3575	(100.0)

表72 覚せい剤を使っている人の人数の印象（％）

	男		女		全体	
以前より増えている	646	(38.0)	824	(44.0)	1471	(41.1)
変わらない	99	(5.8)	77	(4.1)	176	(4.9)
以前より減っている	26	(1.5)	3	(.2)	29	(.8)
わからない	895	(52.7)	926	(49.4)	1822	(51.0)
無回答	33	(1.9)	44	(2.3)	77	(2.2)
合計	1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表73 覚せい剤使用により精神病状態になりやすく、フラッシュバック現象があることを知っているか？(%)

	男	女	全体
知っている	1263 (74.3)	1357 (72.4)	2621 (73.3)
知らない	396 (23.3)	457 (24.4)	854 (23.9)
無回答	40 (2.4)	60 (3.2)	100 (2.8)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表74 身近な人で、覚せい剤をこれまでに使用したことを知っているか？(%)

	男	女	全体
知らない	1565 (92.1)	1754 (93.6)	3321 (92.9)
知っている	100 (5.9)	78 (4.2)	178 (5.0)
無回答	34 (2.0)	42 (2.2)	76 (2.1)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表75 身近な人で、覚せい剤をこれまでに使用したことを知っているか？(年齢群別)(%)

年齢群	覚せい剤を使用した人			度数	列 %
	知らない	知っている	無回答		
15-19歳	234 (7.0)	12 (6.7)	1 (1.3)	247	(6.9)
20-24歳	176 (5.3)	16 (9.0)	2 (2.6)	194	(5.4)
25-29歳	235 (7.1)	20 (11.2)	3 (3.9)	258	(7.2)
30-34歳	249 (7.5)	23 (12.9)	2 (2.6)	274	(7.7)
35-39歳	250 (7.5)	24 (13.5)	5 (6.6)	279	(7.8)
40-44歳	249 (7.5)	12 (6.7)	4 (5.3)	265	(7.4)
45-49歳	274 (8.3)	10 (5.6)	5 (6.6)	289	(8.1)
50-59歳	694 (20.9)	39 (21.9)	16 (21.1)	749	(21.0)
60歳以上	956 (28.8)	22 (12.4)	38 (50.0)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)			4	(.1)
合計	3321 (100.0)	178 (100.0)	76 (100.0)	3575	(100.0)

表76 身近な人で、覚せい剤をこれまでに使用したことがある人を何人知っているか？(%)

人数	男	女	全体
1	31 (31.0)	31 (39.7)	62 (34.8)
2	20 (20.0)	13 (16.7)	33 (18.5)
3	16 (16.0)	11 (14.1)	27 (15.2)
4	6 (6.0)	5 (6.4)	11 (6.2)
5	7 (7.0)	7 (9.0)	14 (7.9)
6		3 (3.8)	3 (1.7)
7	1 (1.0)		1 (.6)
10	5 (5.0)	4 (5.1)	9 (5.1)
15	1 (1.0)		1 (.6)
20		1 (1.3)	1 (.6)
30	2 (2.0)	1 (1.3)	3 (1.7)
999	11 (11.0)	2 (2.6)	13 (7.3)
合計	100 (100.0)	78 (100.0)	178 (100.0)
平均±SD	3.48±4.79 n=89	3.33±4.32 n=76	3.41±4.57 n=165

表77 身近な人で、覚せい剤をこの1年間に使った人を知っているか？(%)

	男	女	全体
知らない	1646 (96.9)	1813 (96.7)	3461 (96.8)
知っている	21 (1.2)	15 (.8)	36 (1.0)
無回答	32 (1.9)	46 (2.5)	78 (2.2)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表78 身近な人で、覚せい剤をこの1年間に使った人を知っているか？(年齢群別)(%)

年齢群	この1年間に覚せい剤を使った人を知っている			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	列%
15-19歳	236 (6.8)	9 (25.0)	2 (2.6)	247 (6.9)	
20-24歳	186 (5.4)	5 (13.9)	3 (3.8)	194 (5.4)	
25-29歳	251 (7.3)	4 (11.1)	3 (3.8)	258 (7.2)	
30-34歳	270 (7.8)	3 (8.3)	1 (1.3)	274 (7.7)	
35-39歳	271 (7.8)	3 (8.3)	5 (6.4)	279 (7.8)	
40-44歳	260 (7.5)	1 (2.8)	4 (5.1)	265 (7.4)	
45-49歳	284 (8.2)	1 (2.8)	4 (5.1)	289 (8.1)	
50-59歳	722 (20.9)	7 (19.4)	20 (25.6)	749 (21.0)	
60歳以上	977 (28.2)	3 (8.3)	36 (46.2)	1016 (28.4)	
無回答	4 (.1)			4 (.1)	
合計	3461 (100.0)	36 (100.0)	78 (100.0)	3575 (100.0)	

表79 身近な人で、覚せい剤をこの1年間に使った人を何人知っているか？(%)

人数	男	女	全体
1	9 (42.9)	5 (33.3)	14 (38.9)
2	3 (14.3)	4 (26.7)	7 (19.4)
3	2 (9.5)	2 (13.3)	4 (11.1)
4	2 (9.5)		2 (5.6)
5	2 (9.5)	2 (13.3)	4 (11.1)
6		1 (6.7)	1 (2.8)
15	1 (4.8)		1 (2.8)
無回答	2 (9.5)	1 (6.7)	3 (8.3)
合計	21 (100.0)	15 (100.0)	36 (100.0)
平均±SD	2.84±3.27 n=19	2.50±1.70 n=14	2.70±2.69 n=33

表80 覚せい剤使用にこれまでに誘われた経験(覚せい剤生涯被誘惑経験)(%)

	男	女	全体
なし	1655 (97.4)	1823 (97.3)	3480 (97.3)
1年より前のみあった	19 (1.1)	13 (.7)	32 (.9)
1年前にも、この1年間にもあった			
この1年間にのみあった	1 (.1)	2 (.1)	3 (.1)
無回答	24 (1.4)	36 (1.9)	60 (1.7)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表81 覚せい剤使用にこれまでに誘われた経験（覚せい剤生涯被誘惑経験）（年齢群別）（％）

	覚せい剤生涯被誘惑経験				合計
	経験なし	1年間より前にのみあった	この1年間にのみあった	無回答	
15-19歳	243 (7.0)		3 (100.0)	1 (1.7)	247 (6.9)
20-24歳	188 (5.4)	4 (12.5)		2 (3.3)	194 (5.4)
25-29歳	245 (7.0)	10 (31.3)		3 (5.0)	258 (7.2)
30-34歳	269 (7.7)	4 (12.5)		1 (1.7)	274 (7.7)
35-39歳	270 (7.8)	5 (15.6)		4 (6.7)	279 (7.8)
40-44歳	258 (7.4)	4 (12.5)		3 (5.0)	265 (7.4)
45-49歳	284 (8.2)			5 (8.3)	289 (8.1)
50-59歳	731 (21.0)	3 (9.4)		15 (25.0)	749 (21.0)
60歳以上	988 (28.4)	2 (6.3)		26 (43.3)	1016 (28.4)
無回答	4 (.1)				4 (.1)
合計	3480 (100.0)	32 (100.0)	3 (100.0)	60 (100.0)	3575 (100.0)

表82 覚せい剤使用にこれまでに誘われた経験（覚せい剤生涯被誘惑経験）（年齢群別）（％）

	覚せい剤生涯被誘惑経験				合計
	経験なし	1年間より前にのみあった	この1年間にのみあった	無回答	
15-19歳	243 (98.4)		3 (1.2)	1 (.4)	247 (100.0)
20-24歳	188 (96.9)	4 (2.1)		2 (1.0)	194 (100.0)
25-29歳	245 (95.0)	10 (3.9)		3 (1.2)	258 (100.0)
30-34歳	269 (98.2)	4 (1.5)		1 (.4)	274 (100.0)
35-39歳	270 (96.8)	5 (1.8)		4 (1.4)	279 (100.0)
40-44歳	258 (97.4)	4 (1.5)		3 (1.1)	265 (100.0)
45-49歳	284 (98.3)			5 (1.7)	289 (100.0)
50-59歳	731 (97.6)	3 (.4)		15 (2.0)	749 (100.0)
60歳以上	988 (97.2)	2 (.2)		26 (2.6)	1016 (100.0)
無回答	4 (100.0)				4 (100.0)
合計	3480 (97.3)	32 (.9)	3 (.1)	60 (1.7)	3575 (100.0)

表83 覚せい剤使用のこれまでの経験（覚せい剤生涯経験）（％）

	男	女	全体
経験なし	1670 (98.3)	1833 (97.8)	3505 (98.0)
1年より前にのみあった	5 (.3)	5 (.3)	10 (.3)
1年より前にも、この1年間にもあった			
この1年間にあった			
無回答	24 (1.4)	36 (1.9)	60 (1.7)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表84 覚せい剤使用のこれまでの経験（覚せい剤生涯経験）（年齢群別）（％）

	覚せい剤生涯経験				合計
	経験なし	1年より前にのみあった	この1年間にのみあった	無回答	
15-19歳	246 (7.0)			1 (1.7)	247 (6.9)
20-24歳	191 (5.4)	1 (10.0)		2 (3.3)	194 (5.4)
25-29歳	253 (7.2)	2 (20.0)		3 (5.0)	258 (7.2)
30-34歳	269 (7.7)	2 (20.0)		3 (5.0)	274 (7.7)
35-39歳	274 (7.8)	2 (20.0)		3 (5.0)	279 (7.8)
40-44歳	261 (7.4)	1 (10.0)		3 (5.0)	265 (7.4)
45-49歳	284 (8.1)			5 (8.3)	289 (8.1)
50-59歳	735 (21.0)	1 (10.0)		13 (21.7)	749 (21.0)
60歳以上	988 (28.2)	1 (10.0)		27 (45.0)	1016 (28.4)
無回答	4 (.1)				4 (.1)
合計	3505 (100.0)	10 (100.0)		60 (100.0)	3575 (100.0)

表85 覚せい剤使用のこれまでの経験（覚せい剤生涯経験）（年齢群別）（％）

	経験なし		1年より前にのみあった		この1年間にのみあった		無回答		合計
	人数	（％）	人数	（％）	人数	（％）	人数	（％）	人数（％）
15-19歳	246	(99.6)					1	(.4)	247 (100.0)
20-24歳	191	(98.5)	1	(.5)			2	(1.0)	194 (100.0)
25-29歳	253	(98.1)	2	(.8)			3	(1.2)	258 (100.0)
30-34歳	269	(98.2)	2	(.7)			3	(1.1)	274 (100.0)
35-39歳	274	(98.2)	2	(.7)			3	(1.1)	279 (100.0)
40-44歳	261	(98.5)	1	(.4)			3	(1.1)	265 (100.0)
45-49歳	284	(98.3)					5	(1.7)	289 (100.0)
50-59歳	735	(98.1)	1	(.1)			13	(1.7)	749 (100.0)
60歳以上	988	(97.2)	1	(.1)			27	(2.7)	1016 (100.0)
無回答	4	(100.0)							4 (100.0)
合計	3505	(98.0)	10	(.3)			60	(1.7)	3575 (100.0)

表86 ヘロイン使用者の人数の印象（％）

	男	女	全体
以前より増えている	385 (22.7)	442 (23.6)	828 (23.2)
変わらない	146 (8.6)	129 (6.9)	275 (7.7)
以前より減っている	45 (2.6)	19 (1.0)	64 (1.8)
わからない	1091 (64.2)	1235 (65.9)	2327 (65.1)
無回答	32 (1.9)	49 (2.6)	81 (2.3)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表87 身近な人で、ヘロインをこれまでに使ったことのある人を知っているか？（％）

	男	女	全体
知らない	1659 (97.6)	1831 (97.7)	3492 (97.7)
知っている	13 (.8)	8 (.4)	21 (.6)
無回答	27 (1.6)	35 (1.9)	62 (1.7)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表88 身近な人で、ヘロインをこれまでに使ったことのある人を知っているか？（年齢群別）（％）

年齢群	ヘロインを使ったことのある人			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	列 %
15-19歳	244 (7.0)	3 (14.3)		247	(6.9)
20-24歳	190 (5.4)	2 (9.5)	2 (3.2)	194	(5.4)
25-29歳	250 (7.2)	4 (19.0)	4 (6.5)	258	(7.2)
30-34歳	271 (7.8)	1 (4.8)	2 (3.2)	274	(7.7)
35-39歳	273 (7.8)	2 (9.5)	4 (6.5)	279	(7.8)
40-44歳	262 (7.5)	1 (4.8)	2 (3.2)	265	(7.4)
45-49歳	285 (8.2)	1 (4.8)	3 (4.8)	289	(8.1)
50-59歳	723 (20.7)	5 (23.8)	21 (33.9)	749	(21.0)
60歳以上	990 (28.4)	2 (9.5)	24 (38.7)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)			4	(.1)
合計	3492 (100.0)	21 (100.0)	62 (100.0)	3575	(100.0)

表89 身近な人で、ヘロインをこれまでに使ったことのある人を何人知っているか？（％）

人数	男	女	全体
1	2 (15.4)	1 (12.5)	3 (14.3)
2	4 (30.8)		4 (19.0)
3		1 (12.5)	1 (4.8)
4	1 (7.7)		1 (4.8)
5	3 (23.1)	1 (12.5)	4 (19.0)
6	1 (7.7)	1 (12.5)	2 (9.5)
10		2 (25.0)	2 (9.5)
999	2 (15.4)	2 (25.0)	4 (19.0)
合計	13 (100.0)	8 (100.0)	21 (100.0)
平均 ± SD	3.18 ± 1.83 n=11	5.83 ± 3.66 n=6	4.12 ± 2.83 n=17

表90 身近な人で、ヘロインをこの1年間に使ったことのある人を知っているか？（％）

	男	女	全体
知らない	1668 (98.2)	1835 (97.9)	3505 (98.0)
知っている	3 (.2)	3 (.2)	6 (.2)
無回答	28 (1.6)	36 (1.9)	64 (1.8)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表91 身近な人で、ヘロインをこの1年間に使ったことのある人を知っているか（年齢群別）（％）

年齢群	この1年間にヘロインを使った人を知っている			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	列 %
15-19歳	245 (7.0)	2 (33.3)		247 (6.9)	
20-24歳	191 (5.4)	1 (16.7)	2 (3.1)	194 (5.4)	
25-29歳	252 (7.2)	2 (33.3)	4 (6.3)	258 (7.2)	
30-34歳	272 (7.8)		2 (3.1)	274 (7.7)	
35-39歳	275 (7.8)		4 (6.3)	279 (7.8)	
40-44歳	263 (7.5)		2 (3.1)	265 (7.4)	
45-49歳	285 (8.1)	1 (16.7)	3 (4.7)	289 (8.1)	
50-59歳	727 (20.7)		22 (34.4)	749 (21.0)	
60歳以上	991 (28.3)		25 (39.1)	1016 (28.4)	
無回答	4 (.1)			4 (.1)	
合計	3505 (100.0)	6 (100.0)	64 (100.0)	3575 (100.0)	

表92 身近な人で、ヘロインをこの1年間に使ったことのある人を何人知っているか？（％）

人数	男	女	全体
1	1 (33.3)	1 (33.3)	2 (33.3)
3	1 (33.3)		1 (16.7)
4	1 (33.3)		1 (16.7)
5		1 (33.3)	1 (16.7)
6		1 (33.3)	1 (16.7)
合計	3 (100.0)	3 (100.0)	6 (100.0)
平均 ± SD	2.67 ± 1.53 n=3	4.00 ± 2.65 n=3	3.33 ± 2.07 n=6

表93 ヘロイン被誘惑経験 (%)

	男		女		全体	
なし	1663	(97.9)	1837	(98.0)	3502	(98.0)
1年より前にのみあり	5	(.3)	1	(.1)	6	(.2)
1年より前にも、この1年間にもあり						
この1年間にのみあり			1	(.1)	1	(.0)
ヘロインに誘われた(無回答)	31	(1.8)	35	(1.9)	66	(1.8)
合計	1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表94 ヘロイン被誘惑経験(年齢群別)(%)

	なし		1年より前にのみあり		この1年間にのみあり		無回答	
15-19歳	246	(7.0)			1	(100.0)		247 (6.9)
20-24歳	192	(5.5)					2	(3.0) 194 (5.4)
25-29歳	251	(7.2)	3	(50.0)			4	(6.1) 258 (7.2)
30-34歳	271	(7.7)					3	(4.5) 274 (7.7)
35-39歳	275	(7.9)	2	(33.3)			2	(3.0) 279 (7.8)
40-44歳	263	(7.5)	1	(16.7)			1	(1.5) 265 (7.4)
45-49歳	286	(8.2)					3	(4.5) 289 (8.1)
50-59歳	726	(20.7)					23	(34.8) 749 (21.0)
60歳以上	988	(28.2)					28	(42.4) 1016 (28.4)
無回答	4	(.1)						4 (.1)
合計	3502	(100.0)	6	(100.0)	1	(100.0)	66	(100.0) 3575 (100.0)

表95 ヘロイン被誘惑経験(年齢群別)(%)

	なし		1年より前にのみあり		この1年間にのみあり		無回答	
15-19歳	246	(99.6)			1	(.4)		247 (100.0)
20-24歳	192	(99.0)					2	(1.0) 194 (100.0)
25-29歳	251	(97.3)	3	(1.2)			4	(1.6) 258 (100.0)
30-34歳	271	(98.9)					3	(1.1) 274 (100.0)
35-39歳	275	(98.6)	2	(.7)			2	(.7) 279 (100.0)
40-44歳	263	(99.2)	1	(.4)			1	(.4) 265 (100.0)
45-49歳	286	(99.0)					3	(1.0) 289 (100.0)
50-59歳	726	(96.9)					23	(3.1) 749 (100.0)
60歳以上	988	(97.2)					28	(2.8) 1016 (100.0)
無回答	4	(100.0)						4 (100.0)
合計	3502	(98.0)	6	(.2)	1	(.0)	66	(1.8) 3575 (100.0)

表96 ヘロイン使用経験(ヘロイン生涯経験)(%)

	男		女		全体	
なし	1674	(98.5)	1839	(98.1)	3515	(98.3)
1年より前にのみあり	2	(.1)			2	(.1)
1年より前にも、この1年間にもあり						
この1年間にのみあり						
ヘロイン経験(無回答)	23	(1.4)	35	(1.9)	58	(1.6)
合計	1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表97 ヘロイン使用経験（ヘロイン生涯経験）（年齢群別）（％）

	ヘロイン使用経験				合計	
	なし	1年より間前にのみあり	この1年間にのみあり	無回答		
15-19歳	247 (7.0)				247	(6.9)
20-24歳	192 (5.5)			2 (3.4)	194	(5.4)
25-29歳	254 (7.2)			4 (6.9)	258	(7.2)
30-34歳	272 (7.7)			2 (3.4)	274	(7.7)
35-39歳	275 (7.8)	1 (50.0)		3 (5.2)	279	(7.8)
40-44歳	264 (7.5)			1 (1.7)	265	(7.4)
45-49歳	286 (8.1)			3 (5.2)	289	(8.1)
50-59歳	728 (20.7)	1 (50.0)		20 (34.5)	749	(21.0)
60歳以上	993 (28.3)			23 (39.7)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)				4	(.1)
合計	3515 (100.0)	2 (100.0)		58 (100.0)	3575	(100.0)

表98 ヘロイン使用経験（ヘロイン生涯経験）（年齢群別）（％）

	ヘロイン使用経験				合計	
	なし	1年より間前にのみあり	この1年間にのみあり	無回答		
15-19歳	247 (100.0)				247	(100.0)
20-24歳	192 (99.0)			2 (1.0)	194	(100.0)
25-29歳	254 (98.4)			4 (1.6)	258	(100.0)
30-34歳	272 (99.3)			2 (.7)	274	(100.0)
35-39歳	275 (98.6)	1 (.4)		3 (1.1)	279	(100.0)
40-44歳	264 (99.6)			1 (.4)	265	(100.0)
45-49歳	286 (99.0)			3 (1.0)	289	(100.0)
50-59歳	728 (97.2)	1 (.1)		20 (2.7)	749	(100.0)
60歳以上	993 (97.7)			23 (2.3)	1016	(100.0)
無回答	4 (100.0)				4	(100.0)
合計	3515 (98.3)	2 (.1)		58 (1.6)	3575	(100.0)

表99 コカイン使用人数の印象（％）

	男	女	全体
以前より増えている	410 (24.1)	494 (26.4)	904 (25.3)
変わらない	137 (8.1)	111 (5.9)	249 (7.0)
以前より減っている	25 (1.5)	6 (.3)	31 (.9)
わからない	1089 (64.1)	1209 (64.5)	2299 (64.3)
無回答	38 (2.2)	54 (2.9)	92 (2.6)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表100 身近な人で、コカインをこれまでに使ったことのある人を知っているか？（％）

	男	女	全体
知らない	1659 (97.6)	1823 (97.3)	3484 (97.5)
知っている	13 (.8)	10 (.5)	23 (.6)
無回答	27 (1.6)	41 (2.2)	68 (1.9)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表101 身近な人で、コカインをこれまでに使ったことのある人を知っているか？（年齢群別）（％）

	コカインを使ったことのある人			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	列 %
15-19歳	243 (7.0)	3 (13.0)	1 (1.5)	247	(6.9)
20-24歳	188 (5.4)	4 (17.4)	2 (2.9)	194	(5.4)
25-29歳	248 (7.1)	6 (26.1)	4 (5.9)	258	(7.2)
30-34歳	270 (7.7)	2 (8.7)	2 (2.9)	274	(7.7)
35-39歳	270 (7.7)	4 (17.4)	5 (7.4)	279	(7.8)
40-44歳	262 (7.5)	1 (4.3)	2 (2.9)	265	(7.4)
45-49歳	286 (8.2)		3 (4.4)	289	(8.1)
50-59歳	726 (20.8)	2 (8.7)	21 (30.9)	749	(21.0)
60歳以上	987 (28.3)	1 (4.3)	28 (41.2)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)			4	(.1)
合計	3484 (100.0)	23 (100.0)	68 (100.0)	3575	(100.0)

表102 身近な人で、コカインをこれまでに使用した人を何人知っているか？（％）

人数	男	女	全体
1	2 (15.4)	1 (10.0)	3 (13.0)
2	4 (30.8)	2 (20.0)	6 (26.1)
3		1 (10.0)	1 (4.3)
4	3 (23.1)		3 (13.0)
5	1 (7.7)	2 (20.0)	3 (13.0)
7	1 (7.7)		1 (4.3)
10	1 (7.7)	2 (20.0)	3 (13.0)
999	1 (7.7)	2 (20.0)	3 (13.0)
合計	13 (100.0)	10 (100.0)	23 (100.0)
平均 ± SD	3.67 ± 2.67 n=12	4.75 ± 3.54 n=8	4.10 ± 3.01 n=20

表103 身近な人で、コカインをこの1年間に使った人を知っているか？（％）

	男	女	全体
知らない	1667 (98.1)	1833 (97.8)	3502 (98.0)
知っている	4 (.2)	2 (.1)	6 (.2)
無回答	28 (1.6)	39 (2.1)	67 (1.9)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

表104 身近な人で、コカインをこの1年間に使った人を知っているか？（％）

	この1年間にコカインを使った人を知っている			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	列 %
15-19歳	244 (7.0)	2 (33.3)	1 (1.5)	247	(6.9)
20-24歳	190 (5.4)	2 (33.3)	2 (3.0)	194	(5.4)
25-29歳	251 (7.2)	2 (33.3)	5 (7.5)	258	(7.2)
30-34歳	272 (7.8)		2 (3.0)	274	(7.7)
35-39歳	275 (7.9)		4 (6.0)	279	(7.8)
40-44歳	263 (7.5)		2 (3.0)	265	(7.4)
45-49歳	286 (8.2)		3 (4.5)	289	(8.1)
50-59歳	728 (20.8)		21 (31.3)	749	(21.0)
60歳以上	989 (28.2)		27 (40.3)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)			4	(.1)
合計	3502 (100.0)	6 (100.0)	67 (100.0)	3575	(100.0)

表105 身近な人で、コカインをこの1年間に使った人を何人知っているか？(%)

人数	男	女	全体
1		1 (50.0)	1 (16.7)
2	3 (75.0)		3 (50.0)
4	1 (25.0)		1 (16.7)
5		1 (50.0)	1 (16.7)
合計	4 (100.0)	2 (100.0)	6 (100.0)
平均±SD	2.50±1.00 n=4	3.00±2.83 n=2	2.67±1.51 n=6

表106 これまでにコカイン使用に誘われたことはあるか？(コカイン生涯被誘惑経験)(%)

	男	女	全体
なし	1673 (98.5)	1838 (98.1)	3513 (98.3)
1年より前にのみあった	4 (.2)	4 (.2)	8 (.2)
1年より前にも、この1年間にもあった			
この1年間にものみあった		1 (.1)	1 (.0)
無回答	22 (1.3)	31 (1.7)	53 (1.5)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表107 これまでにコカイン使用に誘われたことはあるか？(コカイン生涯被誘惑経験)(年齢群別)(%)

	コカイン被誘惑経験				合計
	なし	1年より前にのみあった	この1年間にもみあった	無回答	
15-19歳	246 (7.0)		1 (100.0)		247 (6.9)
20-24歳	192 (5.5)			2 (3.8)	194 (5.4)
25-29歳	250 (7.1)	3 (37.5)		5 (9.4)	258 (7.2)
30-34歳	272 (7.7)			2 (3.8)	274 (7.7)
35-39歳	274 (7.8)	2 (25.0)		3 (5.7)	279 (7.8)
40-44歳	263 (7.5)	1 (12.5)		1 (1.9)	265 (7.4)
45-49歳	286 (8.1)			3 (5.7)	289 (8.1)
50-59歳	729 (20.8)	1 (12.5)		19 (35.8)	749 (21.0)
60歳以上	997 (28.4)	1 (12.5)		18 (34.0)	1016 (28.4)
無回答	4 (.1)				4 (.1)
合計	3513 (100.0)	8 (100.0)	1 (100.0)	53 (100.0)	3575 (100.0)

表108 これまでにコカイン使用に誘われたことはあるか？(コカイン生涯被誘惑経験)(年齢群別)(%)

	コカイン被誘惑経験				合計
	なし	1年より前にのみあった	この1年間にもみあった	無回答	
15-19歳	246 (99.6)		1 (.4)		247 (100.0)
20-24歳	192 (99.0)			2 (1.0)	194 (100.0)
25-29歳	250 (96.9)	3 (1.2)		5 (1.9)	258 (100.0)
30-34歳	272 (99.3)			2 (.7)	274 (100.0)
35-39歳	274 (98.2)	2 (.7)		3 (1.1)	279 (100.0)
40-44歳	263 (99.2)	1 (.4)		1 (.4)	265 (100.0)
45-49歳	286 (99.0)			3 (1.0)	289 (100.0)
50-59歳	729 (97.3)	1 (.1)		19 (2.5)	749 (100.0)
60歳以上	997 (98.1)	1 (.1)		18 (1.8)	1016 (100.0)
無回答	4 (100.0)				4 (100.0)
合計	3513 (98.3)	8 (.2)	1 (.0)	53 (1.5)	3575 (100.0)

表109 コカイン使用経験 (%)

	男	女	全体
なし	1676 (98.6)	1839 (98.1)	3517 (98.4)
1年より前にのみあった	1 (.1)	3 (.2)	4 (.1)
1年より前にも、この1年間にもあった			
この1年間にのみあった	1 (.1)		1 (.0)
無回答	21 (1.2)	32 (1.7)	53 (1.5)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表110 コカイン使用経験 (年齢群別) (%)

	コカイン使用経験				合計	
	なし	1年より前にのみあった	この1年間にのみあった	無回答		
15-19歳	247 (7.0)				247 (6.9)	
20-24歳	191 (5.4)			3 (5.7)	194 (5.4)	
25-29歳	254 (7.2)			4 (7.5)	258 (7.2)	
30-34歳	272 (7.7)			2 (3.8)	274 (7.7)	
35-39歳	274 (7.8)	2 (50.0)		3 (5.7)	279 (7.8)	
40-44歳	263 (7.5)	1 (25.0)		1 (1.9)	265 (7.4)	
45-49歳	286 (8.1)			3 (5.7)	289 (8.1)	
50-59歳	730 (20.8)		1 (100.0)	18 (34.0)	749 (21.0)	
60歳以上	996 (28.3)	1 (25.0)		19 (35.8)	1016 (28.4)	
無回答	4 (.1)				4 (.1)	
合計	3517 (100.0)	4 (100.0)	1 (100.0)	53 (100.0)	3575 (100.0)	

表111 コカイン使用経験 (年齢群別) (%)

	コカイン使用経験				合計	
	なし	1年より前にのみあった	この1年間にのみあった	無回答		
15-19歳	247 (100.0)				247 (100.0)	
20-24歳	191 (98.5)			3 (1.5)	194 (100.0)	
25-29歳	254 (98.4)			4 (1.6)	258 (100.0)	
30-34歳	272 (99.3)			2 (.7)	274 (100.0)	
35-39歳	274 (98.2)	2 (.7)		3 (1.1)	279 (100.0)	
40-44歳	263 (99.2)	1 (.4)		1 (.4)	265 (100.0)	
45-49歳	286 (99.0)			3 (1.0)	289 (100.0)	
50-59歳	730 (97.5)		1 (.1)	18 (2.4)	749 (100.0)	
60歳以上	996 (98.0)	1 (.1)		19 (1.9)	1016 (100.0)	
無回答	4 (100.0)				4 (100.0)	
合計	3517 (98.4)	4 (.1)	1 (.0)	53 (1.5)	3575 (100.0)	

表112 LSD使用人数の印象 (%)

	男	女	全体
以前より増えている	357 (21.0)	429 (22.9)	786 (22.0)
変わらない	119 (7.0)	91 (4.9)	211 (5.9)
以前より減っている	17 (1.0)	4 (.2)	21 (.6)
わからない	1175 (69.2)	1303 (69.5)	2479 (69.3)
無回答	31 (1.8)	47 (2.5)	78 (2.2)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表113 身近な人で、LSDをこれまでに使ったことのある人を知っているか? (%)

	男	女	全体
知らない	1652 (97.2)	1819 (97.1)	3473 (97.1)
知っている	17 (1.0)	14 (.7)	31 (.9)
無回答	30 (1.8)	41 (2.2)	71 (2.0)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表114 身近な人で、LSDをこれまでに使ったことのある人を知っているか？（年齢群別）（％）

年齢群	LSDを使ったことのある人			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	列 %
15-19歳	241 (6.9)	4 (12.9)	2 (2.8)	247	(6.9)
20-24歳	188 (5.4)	4 (12.9)	2 (2.8)	194	(5.4)
25-29歳	248 (7.1)	7 (22.6)	3 (4.2)	258	(7.2)
30-34歳	267 (7.7)	5 (16.1)	2 (2.8)	274	(7.7)
35-39歳	269 (7.7)	6 (19.4)	4 (5.6)	279	(7.8)
40-44歳	261 (7.5)	1 (3.2)	3 (4.2)	265	(7.4)
45-49歳	284 (8.2)	1 (3.2)	4 (5.6)	289	(8.1)
50-59歳	725 (20.9)	3 (9.7)	21 (29.6)	749	(21.0)
60歳以上	986 (28.4)		30 (42.3)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)			4	(.1)
合計	3473 (100.0)	31 (100.0)	71 (100.0)	3575	(100.0)

表115 身近な人で、LSDをこれまでに使用した人を何人知っているか？（％）

人数	男	女	全体
1	5 (29.4)	8 (57.1)	13 (41.9)
2	6 (35.3)	1 (7.1)	7 (22.6)
3	1 (5.9)		1 (3.2)
5	2 (11.8)	2 (14.3)	4 (12.9)
6		1 (7.1)	1 (3.2)
10	1 (5.9)		1 (3.2)
15	1 (5.9)		1 (3.2)
999	1 (5.9)	2 (14.3)	3 (9.7)
合計	17 (100.0)	14 (100.0)	31 (100.0)
平均 ± SD	3.44 ± 3.86	2.17 ± 1.95	2.89 ± 3.20
	n=16	n=12	n=28

表116 身近な人で、LSDをこの1年間に使ったことのある人を知っているか？（％）

	男	女	全体
知らない	1663 (97.9)	1827 (97.5)	3492 (97.7)
知っている	4 (.2)	5 (.3)	9 (.3)
無回答	32 (1.9)	42 (2.2)	74 (2.1)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表117 身近な人で、LSDをこの1年間に使ったことのある人を知っているか（年代別）（％）

年齢群	この1年間にLSDを使ったことのある人を知っている			合計	
	知らない	知っている	無回答	度数	列 %
15-19歳	244 (7.0)	2 (22.2)	1 (1.4)	247	(6.9)
20-24歳	189 (5.4)	3 (33.3)	2 (2.7)	194	(5.4)
25-29歳	254 (7.3)	1 (11.1)	3 (4.1)	258	(7.2)
30-34歳	271 (7.8)	1 (11.1)	2 (2.7)	274	(7.7)
35-39歳	274 (7.8)	1 (11.1)	4 (5.4)	279	(7.8)
40-44歳	262 (7.5)		3 (4.1)	265	(7.4)
45-49歳	284 (8.1)	1 (11.1)	4 (5.4)	289	(8.1)
50-59歳	727 (20.8)		22 (29.7)	749	(21.0)
60歳以上	983 (28.2)		33 (44.6)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)			4	(.1)
合計	3492 (100.0)	9 (100.0)	74 (100.0)	3575	(100.0)

表118 LSDをこの1年間に使用した人を何人知っているか？(%)

人数	男	女	全体
1	2 (50.0)	3 (60.0)	5 (55.6)
5	1 (25.0)	1 (20.0)	2 (22.2)
6		1 (20.0)	1 (11.1)
11	1 (25.0)		1 (11.1)
合計	4 (100.0)	5 (100.0)	9 (100.0)
平均±SD	4.50±4.73 n=4	2.80±2.49 n=5	3.56±3.50 n=9

表119 LSD使用に誘われた経験(LSD被誘惑経験)(%)

	男	女	全体
なし	1655 (97.4)	1825 (97.4)	3482 (97.4)
1年より前にのみ	5 (.3)		5 (.1)
1年より前にも、この1年間にもあった			
この1年間にのみあった		2 (.1)	2 (.1)
無回答	39 (2.3)	47 (2.5)	86 (2.4)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表120 LSD使用に誘われた経験(LSD被誘惑経験)(年齢群別)(%)

	LSD被誘惑経験				合計	
	LSDに誘われた (ない)	LSDに誘われた (1年間前にあ った)	LSDに誘われた(1 年間にあった)	LSDに誘われた (無回答)	ケース	応答数 の列
15-19歳	245 (7.0)		2 (100.0)		247	(6.9)
20-24歳	192 (5.5)			2 (2.3)	194	(5.4)
25-29歳	250 (7.2)	4 (80.0)		4 (4.7)	258	(7.2)
30-34歳	271 (7.8)			3 (3.5)	274	(7.7)
35-39歳	273 (7.8)	1 (20.0)		5 (5.8)	279	(7.8)
40-44歳	260 (7.5)			5 (5.8)	265	(7.4)
45-49歳	284 (8.2)			5 (5.8)	289	(8.1)
50-59歳	727 (20.9)			22 (25.6)	749	(21.0)
60歳以上	976 (28.0)			40 (46.5)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)				4	(.1)
合計	3482 (100.0)	5 (100.0)	2 (100.0)	86 (100.0)	3575	(100.0)

表121 LSD使用に誘われた経験(LSD被誘惑経験)(年齢群別)(%)

	LSD被誘惑経験				合計	
	LSDに誘われた (ない)	LSDに誘われた (1年間前にあ った)	LSDに誘われた(1 年間にあった)	LSDに誘われた (無回答)	ケース	応答数 の列
15-19歳	245 (99.2)		2 (0.8)		247	(100)
20-24歳	192 (99.0)			2 (1.0)	194	(100)
25-29歳	250 (96.9)	4 (1.6)		4 (1.6)	258	(100)
30-34歳	271 (98.9)			3 (1.1)	274	(100)
35-39歳	273 (97.8)	1 (0.4)		5 (1.8)	279	(100)
40-44歳	260 (98.1)			5 (1.9)	265	(100)
45-49歳	284 (98.3)			5 (1.7)	289	(100)
50-59歳	727 (97.1)			22 (2.9)	749	(100)
60歳以上	976 (96.1)			40 (3.9)	1016	(100)
無回答	4 (100)				4	(100)
合計	3482 (97.4)	5 (0.1)	2 (0.1)	86 (2.4)	3575	(100)

表122 LSD使用経験 (%)

	男	女	全体
なし	1666 (98.1)	1835 (97.9)	3503 (98.0)
1年より前にのみあった	2 (.1)		2 (.1)
1年より前にも、この1年間にもあった			
この1年間にのみあった		1 (.1)	1 (.0)
無回答	31 (1.8)	38 (2.0)	69 (1.9)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表123 LSD使用経験 (年齢群別) (%)

	LSD使用経験				合計	
	LSD経験 (ない)	LSD経験 (1年間 前にあった)	LSD経験 (1年間 にあった)	LSD経験 (無回答)	ケース	応答数 の列
15-19歳	247 (7.1)				247	(6.9)
20-24歳	191 (5.5)		1 (100.0)	2 (2.9)	194	(5.4)
25-29歳	254 (7.3)	1 (50.0)		3 (4.3)	258	(7.2)
30-34歳	272 (7.8)			2 (2.9)	274	(7.7)
35-39歳	273 (7.8)	1 (50.0)		5 (7.2)	279	(7.8)
40-44歳	263 (7.5)			2 (2.9)	265	(7.4)
45-49歳	285 (8.1)			4 (5.8)	289	(8.1)
50-59歳	729 (20.8)			20 (29.0)	749	(21.0)
60歳以上	985 (28.1)			31 (44.9)	1016	(28.4)
無回答	4 (.1)				4	(.1)
合計	3503 (100.0)	2 (100.0)	1 (100.0)	69 (100.0)	3575	(100.0)

表124 LSD使用経験 (年齢群別) (%)

	LSD使用経験				合計	
	LSD経験 (ない)	LSD経験 (1年間 前にあった)	LSD経験 (1年間 にあった)	LSD経験 (無回答)	ケース	応答数 の列
15-19歳	247 (100.0)				247	(100.0)
20-24歳	191 (98.5)		1 (.5)	2 (1.0)	194	(100.0)
25-29歳	254 (98.4)	1 (.4)		3 (1.2)	258	(100.0)
30-34歳	272 (99.3)			2 (.7)	274	(100.0)
35-39歳	273 (97.8)	1 (.4)		5 (1.8)	279	(100.0)
40-44歳	263 (99.2)			2 (.8)	265	(100.0)
45-49歳	285 (98.6)			4 (1.4)	289	(100.0)
50-59歳	729 (97.3)			20 (2.7)	749	(100.0)
60歳以上	985 (96.9)			31 (3.1)	1016	(100.0)
無回答	4 (100.0)				4	(100.0)
合計	3503 (100.0)	2 (.1)	1 (.0)	69 (1.9)	3575	(100.0)

表125 有機溶剤の入手 (%)

	男	女	全体
簡単に手に入る	695 (40.9)	495 (26.4)	1190 (33.3)
少々苦労するが何とか手に入る	287 (16.9)	251 (13.4)	538 (15.0)
ほとんど不可能	284 (16.7)	338 (18.0)	622 (17.4)
絶対不可能	312 (18.4)	640 (34.2)	953 (26.7)
無回答	121 (7.1)	150 (8.0)	272 (7.6)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表126 大麻の入手 (%)

	男	女	全体
簡単に手に入る	72 (4.2)	46 (2.5)	118 (3.3)
少々苦勞するが何とか手に入る	173 (10.2)	151 (8.1)	325 (9.1)
ほとんど不可能	549 (32.3)	364 (19.4)	913 (25.5)
絶対不可能	779 (45.9)	1181 (63.0)	1960 (54.8)
無回答	126 (7.4)	132 (7.0)	259 (7.2)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表127 覚せい剤の入手 (%)

	男	女	全体
簡単に手に入る	70 (4.1)	48 (2.6)	118 (3.3)
少々苦勞するが何とか手に入る	172 (10.1)	140 (7.5)	313 (8.8)
ほとんど不可能	532 (31.3)	367 (19.6)	899 (25.1)
絶対不可能	804 (47.3)	1188 (63.4)	1992 (55.7)
無回答	121 (7.1)	131 (7.0)	253 (7.1)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表128 ヘロインの入手 (%)

	男	女	全体
簡単に手に入る	48 (2.8)	32 (1.7)	80 (2.2)
少々苦勞するが何とか手に入る	146 (8.6)	120 (6.4)	267 (7.5)
ほとんど不可能	554 (32.6)	382 (20.4)	936 (26.2)
絶対不可能	827 (48.7)	1212 (64.7)	2039 (57.0)
無回答	124 (7.3)	128 (6.8)	253 (7.1)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表129 コカインの入手 (%)

	男	女	全体
簡単に手に入る	55 (3.2)	32 (1.7)	88 (2.5)
少々苦勞するが何とか手に入る	144 (8.5)	120 (6.4)	264 (7.4)
ほとんど不可能	549 (32.3)	381 (20.3)	930 (26.0)
絶対不可能	831 (48.9)	1210 (64.6)	2041 (57.1)
無回答	120 (7.1)	131 (7.0)	252 (7.0)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表130 LSDの入手 (%)

	男	女	全体
簡単に手に入る	54 (3.2)	39 (2.1)	93 (2.6)
少々苦勞するが何とか手に入る	140 (8.2)	109 (5.8)	249 (7.0)
ほとんど不可能	554 (32.6)	373 (19.9)	928 (26.0)
絶対不可能	828 (48.7)	1221 (65.2)	2049 (57.3)
無回答	123 (7.2)	132 (7.0)	256 (7.2)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表131 大麻を吸うことについてどう思うか？（％）

	男	女	全体
法律以前にすべきでない	1291 (76.0)	1588 (84.7)	2879 (80.5)
法律で禁止なのですべきでない	170 (10.0)	106 (5.7)	277 (7.7)
法律で禁止だが少々なら構わない	6 (.4)	2 (.1)	8 (.2)
法律で決める必要なく、個人の自由	75 (4.4)	38 (2.0)	113 (3.2)
大麻のことを知らないから判断できない	130 (7.7)	108 (5.8)	238 (6.7)
無回答	27 (1.6)	32 (1.7)	60 (1.7)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表132 覚せい剤を使用することについてどう思うか？（％）

	男	女	全体
法律以前にすべきでない	1399 (82.3)	1628 (86.9)	3027 (84.7)
法律で禁止なのですべきでない	122 (7.2)	103 (5.5)	226 (6.3)
法律で禁止だが少々なら構わない	2 (.1)	1 (.1)	3 (.1)
法律で決める必要なく、個人の自由	56 (3.3)	27 (1.4)	83 (2.3)
覚せい剤のことを知らないから判断できない	93 (5.5)	86 (4.6)	179 (5.0)
無回答	27 (1.6)	29 (1.5)	57 (1.6)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表133 マジック・マッシュルームが毒キノコだということを知っているか？（％）

	男	女	全体
知らなかった	1212 (71.3)	1374 (73.3)	2587 (72.4)
知っていた	445 (26.2)	460 (24.5)	905 (25.3)
無回答	42 (2.5)	40 (2.1)	83 (2.3)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表134 この1年間に受診した科（％）

	男	女	全体
どこも受診していない	325 (19.1)	244 (13.0)	569 (15.9)
1年間に受診（内科）	867 (51.0)	1021 (54.5)	1889 (52.8)
1年間に受診（神経科・精神科）	23 (1.4)	23 (1.2)	46 (1.3)
1年間に受診（神経内科）	25 (1.5)	23 (1.2)	48 (1.3)
1年間に受診（外科）	193 (11.4)	147 (7.8)	340 (9.5)
1年間に受診（整形外科）	269 (15.8)	307 (16.4)	576 (16.1)
1年間に受診（皮膚科）	191 (11.2)	264 (14.1)	455 (12.7)
1年間に受診（脳神経外科）	44 (2.6)	32 (1.7)	76 (2.1)
1年間に受診（泌尿器科）	83 (4.9)	40 (2.1)	123 (3.4)
1年間に受診（産婦人科）	5 (.3)	256 (13.7)	261 (7.3)
1年間に受診（眼科）	269 (15.8)	423 (22.6)	692 (19.4)
1年間に受診（歯科）	540 (31.8)	669 (35.7)	1209 (33.8)
1年間に受診（耳鼻咽喉科）	165 (9.7)	215 (11.5)	380 (10.6)
1年間に受診（心療内科）	8 (.5)	13 (.7)	21 (.6)
1年間に受診（その他）	25 (1.5)	20 (1.1)	45 (1.3)
1年間に受診（無回答）	22 (1.3)	27 (1.4)	50 (1.4)
合計	1699 (100.0)	1874 (100.0)	3575 (100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

表135 薬物使用（医薬品も含めて）が原因で、これまでに受診したことがある科（％）

	男		女		全体	
どこも受診していない	1468	(86.4)	1636	(87.3)	3105	(86.9)
薬物で受診（内科）	101	(5.9)	103	(5.5)	204	(5.7)
薬物で受診（神経科・精神科）	5	(.3)	4	(.2)	9	(.3)
薬物で受診（神経内科）	3	(.2)	7	(.4)	10	(.3)
薬物で受診（外科）	19	(1.1)	7	(.4)	26	(.7)
薬物で受診（整形外科）	23	(1.4)	24	(1.3)	47	(1.3)
薬物で受診（皮膚科）	25	(1.5)	45	(2.4)	70	(2.0)
薬物で受診（脳神経外科）	9	(.5)	4	(.2)	13	(.4)
薬物で受診（泌尿器科）	10	(.6)	3	(.2)	13	(.4)
薬物で受診（産婦人科）	1	(.1)	10	(.5)	11	(.3)
薬物で受診（眼科）	21	(1.2)	35	(1.9)	56	(1.6)
薬物で受診（歯科）	30	(1.8)	40	(2.1)	70	(2.0)
薬物で受診（耳鼻咽喉科）	9	(.5)	19	(1.0)	28	(.8)
薬物で受診（心療内科）	3	(.2)	2	(.1)	5	(.1)
薬物で受診（その他）	6	(.4)	1	(.1)	7	(.2)
薬物で受診（無回答）	71	(4.2)	82	(4.4)	154	(4.3)
合計	1699	(100.0)	1874	(100.0)	3575	(100.0)

全体の中には、性別不明者2名を含む

薬物使用についてのアンケート調査

ご協力へのお願い

国立精神・神経センター精神保健研究所薬物依存研究部は、薬物の使用状況、乱用実態などを調査し、薬物使用および乱用に対する対策のための基礎資料作りを行っている厚生労働省の研究機関です。

このたび、全国にお住まいの15歳以上の方、5,000人に、薬物の使用実態をおたずねすることになりました。お忙しいところ、突然で恐縮ですが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

あなた様をお訪ねいたしましたのは、住民台帳より「くじ引き」と同じ統計上の理論と手法によって、無作為で調査対象を抽出させていただいた結果です。

調査のために、お訪ねしました調査員は、当研究所より委託しました、調査専門機関である社団法人新情報センターの調査員です。

お訪ねしました調査員は、あなた様の住所・氏名を存じあげた上で、お訪ねしたわけですが、後日、回収にお伺いし、調査用紙を受け取る際には、回収用封筒に入れられた調査用紙を受け取るだけですので、あなた様が記載された内容を知ることはできません。また、調査用紙回収後は、調査対象者名簿はすみやかに廃棄されます。

また、結果の分析は、当研究部にて行いますが、当研究部ではどの調査用紙がどの方のものか、特定することができません。

したがって、あなた様の個人情報が漏れることはありません。

本調査用紙には、個人が特定される項目はありません。

調査の趣旨にご理解をいただきまして、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

なお、本調査につきまして、ご意見、ご質問等がございましたら、下記の新情報センターまでお問い合わせ下さいませようお願い申し上げます。

(些少ですが調査員に粗品を持参させました。ご笑納下さい。)

ご記入に際してのお願い

- 1)ご記入は、エンピツ、または黒・青のボールペンでお願いします。
- 2)回答は、あなたの気持ち・考え・実情に最も近いものの番号を 印で囲んで下さい。
必要に応じて、() 内にご記入下さい。
- 3)その他、ご記入上おわかりにならない点などがありましたら、調査員におたずねになるか、下記の(社)新情報センターまでお問い合わせ下さい。

回収日時

____月 ____日 ____時頃に、回収にお伺いします。それまでにご記入の上、回収用封筒に入れて、調査員にお渡し下さいますようお願い申し上げます。調査員名(____)

平成13年10月

< 調査企画 >

国立精神・神経センター
精神保健研究所
薬物依存研究部

< 調査実施機関 >

社団法人 新情報センター
東京都渋谷区恵比寿1-13-6
TEL: (03)3473-8833
担当: 山本、北村

【あなたご自身について、おたずねします。】

問1 性別を教えてください。(は1つ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問2 年齢は何歳(満)ですか?()内にご記入ください。

()歳

問3 (中退も含めて)最後に出られた学校は、次のどれにあたりますか?
(は1つ)(在学中の方は、現在の学校を選んで下さい)

1. 小学校(尋常小学校も含む)	5. 高等学校(旧制中学校・高女も含む)
2. 中学校(尋常高等小学校も含む)	6. 短大・大学以上(旧制高等学校も含む)
3. 専門学校(中卒後)	7. その他
4. 専門学校(高校中退後、ないしは高卒後)	

問4 あなたは、現在、学生・専業主婦・パートタイム・アルバイト等を含めて、以下のどれに該当しますか?(は1つ)(学生で、働いている方は、学生の中から自分に該当するものを選んで下さい。)

学生
1. 中学生 2. 高校生 3. 予備校生 4. 専門学校、各種学校生徒 5. 短大生・大学生・大学院生
自営業種、家族従業員
8. 農林漁業の自営者
9. 商店主(小売業・卸売店の店主など)
10. 工場主(製造工場・自動車整備工場・印刷工場主など)
11. 土木建設業種(工務店主など)
12. 医療関係業種(病院経営、薬局・薬店主など)
13. サービス業事業主(旅館主、喫茶店主、理・美容店主、クリーニング店主、運送店主など)
14. その他の事業主(弁護士・会計士事務所経営、宗教家、プロスポーツ選手など)
勤め人
15. 販売従業者(販売店員、外交員、行商人、セールスマンなど)
16. 保安従業者(警察官、消防士・自衛官、守衛・管理人・ガードマンなど)
17. 運輸従業者(運転手、機関士・車掌など)
18. 通信従事者(電話交換手、通信士など)
19. サービス業従事者(ウエイター、ホステス、家政婦、ガイドなど)
20. 技能職従事者(理容師、美容師、調理師など)
21. 土木建築業従事者(大工、とび職、土工、左官、配管工、その他建設作業員など)
22. 工場労働者、工業作業員(洋服仕立て工、印刷工、板金工、自動車修理工、旋盤工、メッキ工など)
23. その他の労務従事者(採鉱員、荷役作業員、清掃員など)
24. 専務従事者(事務系会社員、事務系公務員、タイピスト、記者など)
25. 管理的職業(課長以上の公務員、民間会社の部長以上など)
26. 医療職従事者(医師、看護婦、薬剤師など)
27. その他の専門・技術職従事者(技術者、弁護士、教師、研究者など)
28. 専業主婦
29. 無 職
30. その他(具体的に:)

【あなたの飲酒習慣について、おたずねします。】

問5 これまでに、一回でも飲酒したことがありますか？

(ない方は「1.」を、ある方は、飲酒したところのある機会すべてに をして下さい。)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 一度も飲酒したことがない | 7. 家での食事や団らんで |
| 2. 冠婚葬祭時(正月や各種儀式も含める) | 8. 外での家族との食事や団らんで |
| 3. 仕事や商売上の必要で | 9. 仕事や職場でいやなことがあったとき |
| 4. 上司とのつきあいで | 10. 家の中でおもしろくないことがあったとき |
| 5. 友人・同僚とのつきあいで | 11. 寝る前に |
| 6. その他のつきあいで | 12. その他(具体的に:) |

この調査で言う飲酒には、梅酒など、アルコールが入ったものすべてを含みます。また、「飲む」とは、「なめる」「口をつける」も含めます。

問6 あなたが、「いたずら」を含めて、初めてアルコールを口にしたのはいつ頃ですか？(は1つ)

- | | | |
|----------------------|------------|----------|
| 1. これまでに一度も飲酒したことがない | 4. 中学校時代 | 7. 20歳以降 |
| 2. 小学校以前 | 5. 中卒後～17歳 | |
| 3. 小学校時代 | 6. 18歳～19歳 | |

問7 あなたが、それなりに飲酒をするようになったのはいつ頃からですか？(は1つ)

- | | | |
|----------------------|------------|----------|
| 1. これまでに一度も飲酒したことがない | 4. 中学校時代 | 7. 20歳以降 |
| 2. 小学校以前 | 5. 中卒後～17歳 | |
| 3. 小学校時代 | 6. 18歳～19歳 | |

問8 この一年間に、一回でも飲酒したことがありますか？

(ない方は「1.」を、ある方は、飲酒したところのある機会すべてに をして下さい。)

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 一度も飲酒したことがない | 7. 家での食事や団らんで |
| 2. 冠婚葬祭時 | 8. 外での家族との食事や団らんで |
| 3. 仕事や商売上の必要で | 9. 仕事や職場でいやなことがあったとき |
| 4. 上司とのつきあいで | 10. 家の中でおもしろくないことがあったとき |
| 5. 友人・同僚とのつきあいで | 11. 寝る前に |
| 6. その他のつきあいで | 12. その他(具体的に:) |

問9 この一年間の飲酒頻度は、以下のどれに該当しますか？(は1つ)

- | |
|----------------------------|
| 1. この1年間で、一度も飲んでいない |
| 2. この1年間で、数回飲んだ(年間5回以内) |
| 3. 2ヶ月に1回程度、飲んだ(年間約6～11回) |
| 4. 月に1～2回程度、飲んだ(年間約12～24回) |
| 5. 月に数回程度、飲んだ(年間約25～51回) |
| 6. 週に1～2回程度、飲んでいる |
| 7. 週に3～6回程度、飲んでいる |
| 8. ほとんど毎日、飲んでいる |

問10 現在のあなたは、禁酒に関してどれに該当しますか？（ は1つ）

1. そもそも、これまでに一度も飲酒したことがない
2. 禁酒を考えたことがない
3. 禁酒を考えたことはあるが、実行したことがない
4. 禁酒を試みたが、現在、禁酒に至っていない
5. 禁酒し、今も禁酒しているが、未だ1年は経っていない（初めての禁酒挑戦）
6. 禁酒し、今も禁酒しているが、未だ1年は経っていない（禁酒への再挑戦中）
7. 禁酒し、既に1年以上禁酒を続けている

問11 禁酒しようかと考えた大きな理由は何ですか？（ はいくつでもけっこうです）
（禁酒を考えたことがない方や、飲酒経験のない方は1.に をしてください。）

1. 禁酒を考えたことがない または、飲酒経験がない
2. 健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから
3. 健康上の不調を感じたから
4. 問題(対人関係、社会生活上)を起こしたことはないが、自分の飲酒にその可能性を感じたから
5. 飲酒で問題(対人関係、社会生活上)を起こしたから
6. その他(具体的に:)

【あなたの喫煙習慣について、おたずねします。】

問12 これまでに、一回でも(いたずらを含めて) 喫煙したことがありますか？（ は1つ）

- | | |
|-------|-------|
| 1. ない | 2. ある |
|-------|-------|

問13 あなたが、「いたずら」を含めて、初めてたばこを吸ったのはいつ頃ですか？（ は1つ）

- | | | |
|----------------------|------------|----------|
| 1. これまでに一度も喫煙したことがない | 4. 中学校時代 | 7. 20歳以降 |
| 2. 小学校以前 | 5. 中卒後～17歳 | |
| 3. 小学校時代 | 6. 18歳～19歳 | |

問14 あなたが、それなりに喫煙するようになったのはいつ頃からですか？（ は1つ）

- | | | |
|----------------------|------------|----------|
| 1. これまでに一度も喫煙したことがない | 4. 中学校時代 | 7. 20歳以降 |
| 2. 小学校以前 | 5. 中卒後～17歳 | |
| 3. 小学校時代 | 6. 18歳～19歳 | |

問15 この一年間の喫煙頻度は、以下のどれに該当しますか？（ は1つ）

1. この1年間で、一回も喫煙していない
2. この1年間で、数回喫煙した（年間5回以内）
3. 2ヶ月に1回程度、喫煙した（年間約6～11回）
4. 月に1～2回程度、喫煙した（年間約12～24回）
5. 月に数回程度、喫煙した（年間約25～51回）
6. 週に1～2回程度、喫煙している
7. 週に3～6回程度、喫煙している
8. ほとんど毎日、喫煙している（1日に1～10本）
9. ほとんど毎日、喫煙している（1日に11～20本）
10. ほとんど毎日、喫煙している（1日に21本以上）
11. ほとんど毎日、喫煙している（パイプたばこ）

問16 現在のあなたは、禁煙に関してどれに該当しますか？（ は1つ）

1. そもそも、これまでに一度も喫煙したことがない
2. 禁煙を考えたことがない
3. 禁煙を考えたことはあるが、実行したことがない
4. 禁煙を試みたが、現在、禁煙に至っていない
5. 禁煙し、今も禁煙しているが、未だ1年は経っていない（初めての禁煙挑戦）
6. 禁煙し、今も禁煙しているが、未だ1年は経っていない（禁煙への再挑戦中）
7. 禁煙し、既に1年以上禁煙を続けている

問17 禁煙しようかと考えた大きな理由は何ですか？（ はいくつでもけっこうです）

（禁煙を考えたことがない方や、喫煙経験のない方は1.に をしてください。）

1. 禁煙を考えたことがない または、喫煙経験がない
2. 健康上の不調を感じたことはないが、その可能性が心配になったから
3. 健康上の不調を感じたから
4. 人から禁煙を勧められたわけではないが、喫煙者は「白い目」で見られるようになってきたから
5. 人から禁煙を勧められたから
6. 家族や他者の健康への影響を考えて
7. その他(具体的に:)

【鎮痛薬、睡眠薬、精神安定薬（抗不安薬）等についておたずねします。】

問18 あなたの家庭に常備している薬に をつけて下さい。（ はいくつでもけっこうです）

- | | | | |
|----------|----------|----------|-----------------|
| 1. 特にない | 6. 糖尿病薬 | 11. 鎮痛薬 | 16. セットの置き薬 |
| 2. 風邪薬 | 7. 精神安定薬 | 12. 抗生物質 | 17. その他(具体的に:) |
| 3. 胃腸薬 | 8. 湿布薬 | 13. 便秘薬 | |
| 4. ビタミン剤 | 9. 強精強肝薬 | 14. 目薬 | |
| 5. 高血圧薬 | 10. 睡眠薬 | 15. 鼻炎薬 | |

問19 次の薬のうち、この一年間に一回でも使ったことのある薬があったら、 をつけて下さい。（ はいくつでもけっこうです）

- | | | | |
|----------|----------|----------|-----------------|
| 1. 特にない | 6. 糖尿病薬 | 11. 鎮痛薬 | 16. セットの置き薬 |
| 2. 風邪薬 | 7. 精神安定薬 | 12. 抗生物質 | 17. その他(具体的に:) |
| 3. 胃腸薬 | 8. 湿布薬 | 13. 便秘薬 | |
| 4. ビタミン剤 | 9. 強精強肝薬 | 14. 目薬 | |
| 5. 高血圧薬 | 10. 睡眠薬 | 15. 鼻炎薬 | |

問20 あなたは、この一年間で、平均すると鎮痛薬をどのくらいの頻度で使用しましたか？（ は1つ）

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. 一度も飲んでいない | 5. 月に数回程度、飲んだ（年間約25～51回） |
| 2. この1年間で、数回飲んだ（年間5回以内） | 6. 週に1～2回程度、飲んでいる |
| 3. 2ヶ月に1回程度、飲んだ（年間約6～11回） | 7. 週に3～6回程度、飲んでいる |
| 4. 月に1～2回程度、飲んだ（年間約12～24回） | 8. ほとんど毎日、飲んでいる |

問21 この一年間で、鎮痛薬は、どこから入手しましたか？（ はいくつでもけっこうです）

- | | | |
|------------|--------------|----------------|
| 1. 入手していない | 4. 家族（常備薬）から | 7. その他(具体的に:) |
| 2. 医院・病院から | 5. 友人・知人から | |
| 3. 薬局・薬店から | 6. 愛人・恋人から | |

問22 鎮痛薬の、この一年間での使用理由は、以下のどれですか？（はいくつでもけっこうです）

1. 使っていない	5. 生理痛	9. 遊び（快感）目的で
2. 頭痛	6. 胃痛	10. その他(具体的に:)
3. 歯痛	7. 肩こり	
4. 腰痛	8. その他の痛みのため	

問23 鎮痛薬の中には、依存（やめようと思っても、簡単にはやめられなくなる状態）を作り得るものもありますが、そのような鎮痛薬も含めて、鎮痛薬の使用についての、あなたの実情・心情は次のどれに該当しますか？（は1つ）

1. 使う必要がないので、考えたことがない
2. 必要な時には、心配せずに、使う
3. 必要な時には、心配もあるが、どちらかというを使う
4. 必要な時でも、心配だから、どちらかというを使わない
5. 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない

問24 あなたは、この一年間で、平均すると精神安定薬（抗不安薬）をどのくらいの頻度で使用しましたか？（は1つ）

1. 一度も飲んでいない	5. 月に数回程度、飲んだ（年間約25～51回）
2. この1年間で、数回飲んだ（年間5回以内）	6. 週に1～2回程度、飲んでいる
3. 2ヶ月に1回程度、飲んだ（年間約6～11回）	7. 週に3～6回程度、飲んでいる
4. 月に1～2回程度、飲んだ（年間約12～24回）	8. ほとんど毎日、飲んでいる

問25 この一年間に、精神安定薬（抗不安薬）は、どこから入手しましたか？
（はいくつでもけっこうです）

1. 入手していない	4. 家族（常備薬）から	7. その他(具体的に:)
2. 医院・病院から	5. 友人・知人から	
3. 薬局・薬店から	6. 愛人・恋人から	

問26 精神安定薬（抗不安薬）の、この一年間での使用理由は以下のどれですか？
（はいくつでもけっこうです）

1. 使っていない	4. ストレス軽減のため	7. その他(具体的に:)
2. 不眠改善のため	5. 高血圧の治療のため	
3. 不安解消のため	6. 遊び（快感）目的で	

問27 精神安定薬（抗不安薬）の中には、依存を作り得るものもありますが、そのような精神安定薬（抗不安薬）も含めて、精神安定薬（抗不安薬）の使用についての、あなたの実情・心情は、次のどれに該当しますか？（は1つ）

1. 使う必要がないので、考えたことがない
2. 必要な時には、心配せずに、使う
3. 必要な時には、心配もあるが、どちらかというを使う
4. 必要な時でも、心配だから、どちらかというを使わない
5. 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない

問28 あなたは、この1年間で、平均すると睡眠薬をどのくらいの頻度で使用しましたか？（ は1つ）

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. 一度も飲んでいない | 5. 月に数回程度、飲んだ（年間約25～51回） |
| 2. この1年間で、数回飲んだ（年間5回以内） | 6. 週に1～2回程度、飲んでいる |
| 3. 2ヶ月に1回程度、飲んだ（年間約6～11回） | 7. 週に3～6回程度、飲んでいる |
| 4. 月に1～2回程度、飲んだ（年間約12～24回） | 8. ほとんど毎日、飲んでいる |

問29 この一年間に、睡眠薬はどこから入手しましたか？（ はいくつでもけっこうです）

- | | | |
|------------|--------------|----------------|
| 1. 入手していない | 4. 家族（常備薬）から | 7. その他（具体的に： ） |
| 2. 医院・病院から | 5. 友人・知人から | |
| 3. 薬局・薬店から | 6. 愛人・恋人から | |

問30 睡眠薬の、この一年間での使用理由は以下のどれですか？（ はいくつでもけっこうです）

- | | | |
|------------|--------------|----------------|
| 1. 使っていない | 4. ストレス軽減のため | 7. その他（具体的に： ） |
| 2. 不眠改善のため | 5. 高血圧の治療のため | |
| 3. 不安解消のため | 6. 遊び（快感）目的で | |

問31 睡眠薬の中には、依存を作り得るものもありますが、そのような睡眠薬も含めて、睡眠薬の使用についての、あなたの実情・心情は、次のどれに該当しますか？（ は1つ）

- | |
|------------------------------|
| 1. 使う必要ないので、考えたことがない |
| 2. 必要な時には、心配せずに、使う |
| 3. 必要な時には、心配もあるが、どちらかというを使う |
| 4. 必要な時でも、心配だから、どちらかというを使わない |
| 5. 必要な時でも、心配だから、とにかく使わない |

【薬物乱用・依存についておたずねします。】

問32 以下の薬物は、すべて依存（止めようと思っても簡単には止められない状態）を作り得る薬物です。あなたが聞いたことのある薬物があったら、をつけて下さい。（ はいくつでもけっこうです）

- | | | | |
|-----------------|----------|----------|-------------|
| 1. 大麻 | 7. LSD | 12. スピード | 17. コカイン |
| 2. モルヒネ | 8. 有機溶剤 | 13. 麻薬 | 18. クラック |
| 3. マリファナ | 9. アシッド | 14. ヒロポン | 19. 覚せい剤 |
| 4. トルエン | 10. シンナー | 15. ヘロイン | 20. エクスタシー |
| 5. ハシッシ | 11. エス | 16. MDMA | 21. シャブ |
| 6. マジック・マッシュルーム | | | 22. すべて知らない |

問33 薬物乱用を繰り返すと、依存状態になることを知っていますか？（ は1つ）

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問34 「シンナ - 遊び」で死亡すること（急性中毒死）があるのを知っていますか？（ は1つ）

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問35 「シンナ - 遊び」を繰り返すと、何も無いのに物が見えたり（幻視）実際には何も聞こえないのに、声が聞こえたり（幻聴）誰も何とも思っていないのに、人が自分の事を非難していると思ひ込んだり（妄想）する状態（精神病状態）になることがあるのを知っていますか？
（ は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問36 「シンナ - 遊び」の結果、幻視、幻聴、妄想が出るようになってしまうと、それを治療して治っても、その後、疲れ・ストレス・飲酒などで、幻視、幻聴、妄想が再び出現すること（フラッシュバック）があるのを知っていますか？（ は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問37 「シンナ - 遊び」を繰り返すと、何事にも関心が持てなくなり、結果的に学校を欠席しがちになり、どんな仕事に就いても、長続きしなくなること（無動機症候群）を知っていますか？
（ は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問38 「シンナー遊び」をする人の数について、どのような印象をお持ちですか？（ は1つ）

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない

問39 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、「シンナー遊び」を一回でも行ったことのある人を、これまでに何人知っていますか？（身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2. 「いる」を選んだ場合は、（ ）内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。）

1. いない 2. いる （ ）人

問40 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間に「シンナー遊び」を一回でも行ったことのある人を、何人知っていますか？（身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2. 「いる」を選んだ場合は、（ ）内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。）

1. いない 2. いる （ ）人

問41 あなたは、これまでに、「シンナー遊び」に一回でも誘われたことがありますか？
（ はいくつでもけっこうです）

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問42 あなたは、これまでに一回でも、「シンナ - 遊び」を経験したことがありますか？
（ はいくつでもけっこうです）

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問43 あなたは、大麻を吸っている人の数について、どのような印象をお持ちですか？（ は1つ）
（マリファナ、ハシッシもすべて大麻です）

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない

問44 あなたは大麻を吸うと、上記の問35～問37と同じ精神病状態、フラッシュバック、無動機症候群になることがあるのを知っていますか？（ は1つ）

1. 知っている 2. 知らない

問45 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、大麻を一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか? (身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2. 「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない 2. いる ()人

問46 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間に大麻を一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか? (身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2. 「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない 2. いる ()人

問47 あなたは、これまでに、大麻使用に一回でも誘われたことがありますか?
(はいいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問48 あなたは、これまでに一回でも、大麻を吸ったことがありますか? (はいいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問49 あなたは、覚せい剤を使っている人の数について、どのような印象をお持ちですか? (は1つ)
(ヒロポン、シャブ、エス、スピードも覚せい剤です)

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない

問50 覚せい剤を使うと、上記の質問35と同じ精神病状態になりやすく、また質問36のようなフラッシュバックがあることを知っていますか? (は1つ)

1. 知っている 2. 知らない

問51 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、覚せい剤を一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか? (身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2. 「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない 2. いる ()人

問52 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間に覚せい剤を一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか? (身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2. 「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない 2. いる ()人

問53 あなたは、これまでに、覚せい剤使用に一回でも誘われたことがありますか?
(はいいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問54 あなたは、これまでに一回でも、覚せい剤を使用したことがありますか?
(はいいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問55 あなたは、ヘロインを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか? (は1つ)

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない

問56 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、ヘロインを一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか？(身近でなくても、実際に目撃した場合は人数にめてください。2.「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない 2. いる ()人

問57 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間にヘロインを一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか？(身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2.「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない 2. いる ()人

問58 あなたは、これまでに、ヘロイン使用に一回でも誘われたことがありますか？
(はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問59 あなたは、これまでに一回でも、ヘロインを使用したことがありますか？
(はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問60 あなたは、コカインを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか？(は1つ)
(クラックもコカインです)

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない

問61 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、コカインを一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか？(身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。(2.「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない 2. いる ()人

問62 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間にコカインを一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか？(身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2.「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない 2. いる ()人

問63 あなたは、これまでに、コカイン使用に一回でも誘われたことがありますか？
(はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問64 あなたは、これまでに一回でも、コカインを使用したことがありますか？
(はいくつでもけっこうです)

1. ない 2. この1年間より前にあった 3. この1年間にあった

問65 あなたは、LSDを使用している人の数について、どのような印象をお持ちですか？(は1つ)
(アシッドもLSDです)

1. 以前より増えている 2. 変わらない 3. 以前より減っている 4. わからない

問66 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、LSDを一回でも使ったことのある人を、これまでに何人知っていますか? (身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2. 「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない	2. いる ()人
--------	------------

問67 あなたは、自分の身近にいた、あるいは、身近にいる人の中で、この一年間にLSDを一回でも使ったことのある人を、何人知っていますか? (身近でなくても、実際に目撃した場合は人数に含めてください。2. 「いる」を選んだ場合は、()内に、その人数をお書き下さい。数人とか多数とかは書かないでください。)

1. いない	2. いる ()人
--------	------------

問68 あなたは、これまでに、LSD使用に一回でも誘われたことがありますか?
(はいくつでもけっこうです)

1. ない	2. この1年間より前にあった	3. この1年間にあった
-------	-----------------	--------------

問69 あなたは、これまでに一回でも、LSDを使ったことがありますか?
(はいくつでもけっこうです)

1. ない	2. この1年間より前にあった	3. この1年間にあった
-------	-----------------	--------------

問70 あなたが「シンナー遊び」のためにシンナーなどの有機溶剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいことですか? (は1つ)

1. 簡単に手に入る	3. ほとんど不可能だ
2. 少々苦労するが、なんとか手に入る	4. 絶対不可能だ

問71 あなたが大麻を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか? (は1つ)

1. 簡単に手に入る	3. ほとんど不可能だ
2. 少々苦労するが、なんとか手に入る	4. 絶対不可能だ

問72 あなたが覚せい剤を手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか? (は1つ)

1. 簡単に手に入る	3. ほとんど不可能だ
2. 少々苦労するが、なんとか手に入る	4. 絶対不可能だ

問73 あなたがヘロインを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか? (は1つ)

1. 簡単に手に入る	3. ほとんど不可能だ
2. 少々苦労するが、なんとか手に入る	4. 絶対不可能だ

問74 あなたがコカインを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか? (は1つ)

1. 簡単に手に入る	3. ほとんど不可能だ
2. 少々苦労するが、なんとか手に入る	4. 絶対不可能だ

問75 あなたがLSDを手に入れようとした場合、それはどの程度むずかしいですか? (は1つ)

1. 簡単に手に入る	3. ほとんど不可能だ
2. 少々苦労するが、なんとか手に入る	4. 絶対不可能だ

問76 大麻を吸うことは法律で禁止されていますが、あなたは大麻を吸うことについて、どう思いますか？（ は1つ）

- | |
|--|
| 1. 法律で云々言う以前に、そもそも、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う
4. 法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要はなく、個人の判断だと思う
5. 大麻のことを知らないから、判断できない |
|--|

問77 覚せい剤を使用することは法律で禁止されていますが、あなたは覚せい剤を使用することを、どう思いますか？（ は1つ）

- | |
|--|
| 1. 法律で云々言う以前に、そもそも、すべきではないと思う
2. 法律で禁止されているから、すべきではないと思う
3. 法律で禁止されてはいるが、少々ならかまわないと思う
4. 法律で禁止されてはいるが、そもそも法律で決める必要はなく、個人の判断だと思う
5. 覚せい剤のことを知らないから、判断できない |
|--|

問78 あなたは、マジック・マッシュルームが毒キノコであることを知っていましたか？

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 知らなかった | 2. 知っていた |
|-----------|----------|

問79 あなたが、この一年間に受診したことがある診療科に をして下さい。
（ はいくつでもけっこうです）

- | | | | |
|---------------|----------|----------|-----------------|
| 1. どこも受診していない | 5. 外科 | 9. 泌尿器科 | 13. 耳鼻咽喉科 |
| 2. 内科 | 6. 整形外科 | 10. 産婦人科 | 14. 心療内科 |
| 3. 神経科・精神科 | 7. 皮膚科 | 11. 眼科 | 15. その他(具体的に:) |
| 4. 神経内科 | 8. 脳神経外科 | 12. 歯科 | |

問80 あなたが、これまでに、何らかの薬物（医薬品も含めて）の使用が原因で受診したことがある診療科に をして下さい。

（ はいくつでもけっこうです）

- | | | | |
|---------------|----------|----------|-----------------|
| 1. どこも受診していない | 5. 外科 | 9. 泌尿器科 | 13. 耳鼻咽喉科 |
| 2. 内科 | 6. 整形外科 | 10. 産婦人科 | 14. 心療内科 |
| 3. 神経科・精神科 | 7. 皮膚科 | 11. 眼科 | 15. その他(具体的に:) |
| 4. 神経内科 | 8. 脳神経外科 | 12. 歯科 | |

ご協力ありがとうございました。

なお、この調査についての結果は、来年の7月頃に公表します。

結果をお知りになりたい方は、ハガキにあなた様の住所、氏名をご記入になり、下記の「結果請求用紙」を点線に沿って切り取り、ハガキに貼付の上、2001年11月末日までに、下記住所（点線に沿って切り取り、ハガキに添付して下さい）までご請求下さい。来年の7月頃に郵送させていただきます。（結果は、調査対象全員について、統計的にまとめられたものであり、個人について論じたものではありません。ただし、郵送の必要上、あなた様が本調査の対象の一人であったことが、当研究部にはわかりますが、当研究部では、あなた様ご自身の記載内容を特定することはできませんし、あなた様が本調査の対象の一人であったことを漏らすことは、一切ありません。）

注：下記を切り取る際は、裏面の回答が切り取られないよう、点線に沿ってお切り下さい。

結果請求用紙	結果請求先
住民調査01の	〒272-0827 千葉県市川市国府台 1-7-3
結果を	国立精神・神経センター 精神保健研究所
請求します	薬物依存研究部 住民調査 担当者 宛

第4版-2001

Nationwide General Population Survey on Drug Use in 2001, Japan

Kiyoshi Wada, M.D, Ph.D

Akiko Kikuchi, M.A

Shigeru Ozaki, M.D, Ph.D

Division of Drug Dependence Research, National Institute of Mental Health, National Center of Neurology and Psychiatry, 1-7-3 Kohnodai, Ichikawa-shi, Chiba-ken 272-0827, Japan

Note: The tables, figures, and questionnaire of this survey are available only in Japanese

The original survey report in Japanese was translated into English by Fumihiko Yokota, Tulane University School of Public Health and Tropical Medicine, with the supervision of Dr. Kiyoshi Wada.

Abstract:

A nationwide general population survey on drug use was conducted on 5,000 male and female subjects over 15 years old selected by a stratified two-stage random sampling, by visiting each subject and distributing a questionnaire. The study was designed to describe the current situation of drug use including illicit drugs, alcohol, tobacco, and medical drugs among Japanese nationals. Duration of this survey was from September 20 to October 5, 2001. The effective response rate was 71.5% (n=3,575).

Alcohol Drinking:

1. The lifetime prevalence of alcohol drinking was 96.8% for males, 90.8% for females, and 93.7% in total.
2. The proportions of those who reported “drink alcohol almost everyday” were the highest in 50’s for males and 40’s for females, then declined.
3. In terms of alcohol-related problems, the results suggest that it is not helpful to consider the status whether or not they have drunk alcohol, because alcohol drinking behaviors are strongly associated with their life cycle. Therefore, it is important to consider about the qualitative factors about opportunity, frequency, and quantity of alcohol drinking as well as its status.

Tobacco Smoking:

1. The lifetime prevalence of tobacco smoking was 86.5% for males, 45.1% for females, and 64.8% in total.

2. In terms of average number of cigarettes a day in the past 1 year, 11-20 cigarettes were the most frequent (39.5%) for males and more than 21 cigarettes were second frequent (28.7%) for males. In contrast with males, 1-10 cigarettes were the most frequent (37.8%) for females and 11-20 cigarettes were second frequent (29.1%) for females.
3. In terms of age, the number of male subjects who smoke more than 21 cigarettes increases in proportion to their age. For males, the number reaches the highest point at their age 50's and decreases afterward. For females, although the number decreases once at their age 20s, it increases to the highest point at their age 50s and decrease afterward.

Medical drugs:

1. The subjects reported cold medicine, medicine for the digestion eye drops poultices analgesics (painkillers) as standard household medicines (in order of frequency). cold medicine, eye drops analgesics (painkillers) medicine for the digestion poultices were reported as the medicine which had been used at least once during the past 1 year (in order of frequency).
2. Two point three percent of males, 1.7% of females, and 1.6% in total had used analgesics regularly (more than 3 times a week). Tranquillizers and hypnotics had also been used regularly by 2.4% for males, 2.5% for females, 2.4% in total and 0.8% for males, 1.4% for females, 1.7% in total, respectively.
3. Nobody reported the use of analgesics, tranquillizers or hypnotics for the purpose of games or pleasures.
4. The results suggest that medical drugs had been used almost properly.

Illicit drugs:

1. The percentages of those who had ever been tempted to use illegal drugs were 3.4% in volatile solvent, 1.8% in cannabis, 1.0% in methamphetamine, 0.3% in cocaine, 0.2% in LSD, and 0.2% in heroin.
2. The lifetime prevalence of illicit drug use was 1.6% in volatile solvent, 1.0% in cannabis, 0.3% in methamphetamine, 0.1% in cocaine, 0.1% in LSD, and 0.06% in heroin. Additionally, 2.3% of the subjects reported the lifetime use of one of these illicit drugs (2.2% in 1999) and 1.2% of the subjects reported the lifetime use of any illicit drugs except for volatile solvent (1.1% in 1999). Both percentages in 2001 were the highest in the past. In terms of age, 5.8% of 20's and 4.9% of 30's reported the lifetime use of any illicit drugs, and particularly for men, the percentage increased to 7.4% in 20's and 9.5% in 30's. Since this nationwide survey started in 1995, the lifetime prevalence of cannabis use has been steadily increased. This trend is a serious concern, which may impact on drug abuse situation in Japan in the future, since cannabis has been considered as a gateway drug. It is necessary to monitor carefully the extent of cannabis abuse without focusing only on

methamphetamine abuse.

3. In terms of availability of illicit drugs, the percentage of those who answered “can easily obtain” and “a little hard to obtain” (48.3%) was higher than that of those who answered “almost impossible to obtain” and “absolutely impossible” (44.1%) for solvent only. However, in different age groups, the proportion of those who answered “can easily obtain” and “a little hard to obtain” was higher as the generation became younger. This trend suggests the increasing availability of illicit drugs in the third period of methamphetamine abuse. Therefore, extra attention needs to be given.
4. **In summary, as for the situation of illicit drug abuse in 2001, Japan was extremely satisfactory compared with other developed countries. However, we should not be so optimistic about the current situation, because the percentage of lifetime prevalence of cannabis use has been steadily increasing and also the availability of various drugs has been raised among young generation. We must be more attentive to maintain our present situation of the drug abuse or hopefully eliminate drug abuse in Japan.**

A. Objectives

As a global issue, drug abuse and dependence has been a serious problem in each country.

After the World War II, the history of drug abuse in Japan has been the war against volatile solvent and particularly methamphetamine. After the first epidemic of methamphetamine abuse which occurred in the confused era after World War II, and the second epidemic of methamphetamine abuse during economic depression symbolized by oil crisis, the diversity of drugs of abuse has become remarkable since 1990's as a globalization advanced. The third epidemic of methamphetamine abuse has started since 1995 after Japanese bubble economy broke down 12).

Drug abuse and dependence problem has been changed over time in Japan. Therefore, the prevention programs need to be adjusted to the different situations in a certain era. It is necessary to conduct an epidemiological survey periodically to estimate the drug abuse and dependence situation from various perspectives. In addition, it is desirable to understand the situation of not only illicit drug abuse but also alcohol drinking, tobacco smoking, and medical drug use.

This is one of our nationwide surveys on drug use and abuse, and only survey to estimate actual situation of drug abuse and dependence in general population in Japan. This kind of general population survey was granted by a subsidy from Ministry of Health, Labor and Welfare and conducted in Ichikawa-city, Chiba-prefecture in 1992 (n=1,100) 2), in Tokyo and

Osaka area in 1993 (n=3,000) 3), and Tokyo, Osaka and Northern Kyushu-area in 1994 (n=3,300) 4). Based on the results, the first nationwide general population survey on drug use (n=5,000) was conducted in 1995 15). After that, the same kinds of surveys were conducted every two years in 1997 6) and 1999 15). The results of this survey are contributed as a primary data regarding to education, prevention, intervention of drug abuse and dependency and also the control of medical drugs including household medicines.

B. Method

Setting: Nationwide

Subject: Non-institutional 5,000 males and females over 15 years old in Japan. (n=5,000)

Sample design: Stratified two-stage random sampling (Survey spot: 350)

Consigned to Shin Joho Center Corporation

Survey content: (cf. Japanese version)

Period of Survey: September 20 ~ October 5, 2001

Sampling method: Stratified two-stage random sampling

The most important thing in this epidemiological survey is to use a correct sample method. In this survey, stratified two-stage random sampling was used to select randomly 5,000 males and females over 15 years old in targeted areas across the nation.

(1) We divided the whole country into 11 areas as an unit of prefectures.

Hokkaido area = Hokkaido

Tohoku area = Aomori, Iwate, Miyagi, Akita, Yamagata, and Fukushima prefectures

Kanto area = Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, and Kanagawa prefecture

Hokuriku area = Nigata, Toyama, Ishikawa and Fukui prefecture

Higashiyama area = Yamanashi, Nagano, and Gifu prefecture

Toukai area = Shizuoka, Aichi, and Mie

Kinki area = Shiga, Kyoto, Osaka, Hyogo, Nara, and Wakayama prefecture

Chugoku area= Tottori, Shimane, Okayama, Hiroshima, and Yamaguchi

Kita Kyusyu area = Fukuoka, Saga, Nagasaki, and Oita prefecture

Minami Kyusyu area = Kumamoto, Miyazaki, Kagoshima, and Okinawa prefecture

(2) Furthermore, we classified each area listed above into 16 clusters based on a scale of cities .

Big Cities (Tokyo wards areas, Sapporo, Sendai, Chiba, Yokohama, Kawasaki, Nagoya, Kyoto, Osaka, Kobe, Hiroshima, Kita-Kyushu, Fukuoka): total 13 stratum

Mid-Cities (population more than 100,000): total 11 stratum

Small Cities (population less than 100,000): total 11 stratum

Note: In this study, city means the area, where city system is operated at the time of April 1, 2001. Also the cities were classified based on the resident register book at the time of March 31, 1999. (Ministry of Home Affairs, Department of Administration)

(3) 5,000 subjects were proportionally distributed to 46 strata based on their population density. The spots were decided based on the rule that each spot had 11 ~ 16 samples.

(4) We used the spots, which were set up by the national census in 1995 as first sampling units. The sampling of survey spots was conducted in following way.

- When the number of spot is one in a stratum, we sampled randomly one spot using the table of random numbers.

- When the number of spot is more than 2 in a stratum, we calculated: sample space ($= \text{total number of people over 15 years old in each stratum by the national census} \div \text{a number of spots calculated in each stratum}$). Then, we selected spots randomly based on equal space sampling methods. The operation of spot sampling is the first stage of sampling.

(5) In terms of arrangement order of cities, wards, towns, and villages among each stratum, municipality cords, which were used in 1995 national census, were guided.

(6) In a sample of subjects at the spots, we calculated: sample space ($= \text{number of people over 15 years old in the spots by the national census} \div \text{a number of the spots in each stratum}$). Then, we collected subjects randomly based on equal space sampling method from resident register books. The operation of subjects sampling from the targeted spots is the second stage of sampling.

The numbers of subjects and spots in each stratum were shown in Table 1.

C. Results

1. Collection Result (Table 2-6)

Overall, 3,575 questionnaires were collected. The effective response rate was 71.5% ($n=3,575$). Table 2 and 3 show the breakdown of omitted cases. Table 4 shows the number of subjects in each area and their effective response rates. The effective response rates in this survey were considered satisfactory. The gender, age and education level of subjects were presented in Table 5 and their occupation and social status were shown in Table 6.

2. Survey Results (Table 7-135)

Survey results by gender were shown in Table 7-135. Also Figure 1-32 and Table 136-140 show the important items in survey results.

D. Discussion

1. Drinking habits

The lifetime prevalence of alcohol drinking (percentages of those who had ever drunk alcohol in their lifetime) was 96.8% for males, 90.8% for females, and 93.7% in total (Table 7). Figure 1 shows the lifetime prevalence of alcohol drinking by age. For males, more than 95% of the subjects reported the lifetime alcohol drinking regardless of age except for 10's. For females, more than 90% of the subjects reported the lifetime alcohol drinking regardless of age until 50's except for 10's. This result suggests that almost all had ever drunk alcohol in the past and it does not make sense to discuss about alcohol related problems based on whether "you had ever drunk alcohol or not". Therefore, it is necessary to discuss about qualitative factors of opportunity, frequency, and quantity regarding to alcohol drinking.

In Table 8 (the opportunity of drinking in the past), male subjects reported "drinking with friends or colleagues" (78.6%), "drinking with family members at dinner time" (74.6%), and "drinking on ceremonial occasions" (73.1%). In contrast, female subjects reported, "drinking on ceremonial occasions" (71.1%), "drinking with friends or colleagues" (70.1%), and "drinking with family members in dinner time" (68.3%).

As shown in Table 9, the age of first time drinking were the most frequent at the age of 18-19 years old for males and after 20 years old for females. The Table 10 shows "the age when they started drinking in its own way" among those who had ever drunk alcohol in the past. After 20 years old was the most frequent and 18-19 years old was second most frequent for both male and female. However, the term "in its own way" seems to be simple but unclear, therefore it made confusion for the subjects to answer correctly. For example, some subjects did not extend to the level of "drinking in its own way". Therefore, we counted these cases as "no answer". This is one of the shortcomings in this survey and need to be reformed in the future.

The past year prevalence of alcohol drinking (percentage of those who had ever drunk alcohol in the past 1 year) was 89.6% for males and 82.5% for females (Table 11).

In the Table 12 (the opportunity of drinking in the past 1 year), male subjects reported "drinking with family members at dinner time" (74.7%), "drinking with friends or colleagues" (74.0%), and "drinking on ceremonial occasions" (60.3%). In contrast, female subjects reported "drinking with family members at dinner time" (67.7%), "drinking with friends or colleagues" (59.8%), and "drinking on ceremonial occasions" (50.6%). Figure 2 shows the frequency of opportunity of drinking in the past 1 year by age. The number of those who answered "drinking on ceremonial occasions" was the most frequent at the age of 50's and the number of those who answered "as a matter of business" was the most frequent at the age of

30's and 40's. The number of those who answered "drinking with one's boss" was the most frequent at the age of 20's and 30's and the number of those who answered "drinking with friends or colleagues" was the most frequent at the age of only 20's. The number of those who answered "drinking with family members at dinner time" and "drinking outside with family members" were the most frequent at the age of 30's and 40's. The results seem to strongly reflect their life cycle.

In terms of the frequency of alcohol drinking in the past 1 year, the percentage of male subjects who answered "almost everyday" was 34.4% (the highest) and the percentage rise to 51.2% when the male subjects who answered "3 ~ 6 times a week" are included. The percentage of the female subjects who answered "several times a year" was 33.4% (the highest).

Figure 3 shows the percentage of "those who drinking almost everyday in the past 1 year" by age. The percentage increases in proportion to their age. For example, the 50's for males (40.3%) and 40's for females (10.6%) were the highest and decrease afterwards.

Table 14 shows the perception and actual status of quitting alcohol among lifetime alcohol drinking subjects. Twenty nine point two percent (n=480) of male subjects and 12.5% (n=212) of female subjects (including those who is currently quitting alcohol) answered that they had thought about quitting alcohol.

As the reasons, 50.2% of male subjects answered "because of the perception of bad health condition" and 45.3% of female subjects answered "because of anxiety about a possibility of health problem". Figure 4 shows the reasons by age, such that 40's and 50's were more anxious about their health, and actual health problems occurred more after 40's.

2. Smoking habits

As shown in the Table 16, the lifetime prevalence of tobacco smoking was 86.5% for tobacco males, 45.1 for females, and 64.8% in total. Figure 5 shows the lifetime prevalence of smoking by age. The results suggest that regardless of age, men showed high lifetime prevalence of smoking except for 10's, but women showed the possible age differences between younger than 50 years old and older than 50 years old.

The age of first time smoking experience among those who reported smoking in the past was shown in Table 17. Most men and women started smoking at the age of 18-19.

Table 18 shows the age of first time smoking in its own way among lifetime smokers. The question "in its own way" is still unclear, but the subjects were not confused as much as that of alcohol use. This indicates that the term "smoking" is more likely to reach the level of "smoking in its own way" in the case of smoking".

As shown in Table 19, the past year prevalence of smoking were 54.7% for males, 19.1% for females, and 36.0% in total. Figure 6 shows the past year prevalence of tobacco

smoking by age. The 20's were the highest for both men and women and then afterwards decreased, as ones grow older.

Table 20 shows the frequency of tobacco smoking among those who had smoked in the past 1 year. The percentages of those who answered, "smoking almost every day" were 87.3% for males, 76.5% for females, and 84.4% in total. The frequency rate of daily tobacco smoking was higher than that of daily alcohol drinking.

Figure 7 ~ 9 show the percentages of number of cigarettes among those who reported smoking almost every day. As you can see in Figure 8 and 9, the rates of those who smoked more than 21 cigarettes increase during the period of 20's and 50's for both males and females.

Table 21 shows the results of whether you had ever thought about quitting smoking or not and the condition of quitting smoking among those who reported lifetime smoking. Also, Figure 10 shows the percentage of those who answered, "had ever thought about quitting smoking" by age among those who reported lifetime smoking. Comparing with sharp increase from the age of 40's among males, females had considerable increase only in 20's. It is assumed that this trend was related to pregnant matter among women in their 20's.

Table 22 shows the reasons for quitting smoking among those who answered "had ever thought about quitting smoking" or "had quitted smoking". The number of subjects who reported "anxiety about a possibility of health problems" was the most frequent and the second most frequent reasons were "perception of bad health condition" and "bad influence to others".

3. Household medicine and medicinal supplies

1) Household medicine

Table 23 presents the household medicines the subjects stocked: In order of frequency, they were cold medicine (69.1%), medicine for the digestion (64.0%), eye drops (59.6%), poultices (50.5%), analgesics (painkillers) (37.9%), vitamin pills (33.7%). The order was the same as the result of the survey conducted in 1999, however eye drops was added to the category from this year 2001.

As medical drugs which had been used in the past 1 year, the following were reported: (including no respondents) cold medicine (66.6%), eye drops (50.8%), analgesics (painkillers) (48.5%), medicine for the digestion (46.2%) poultices (37.8%) (Table 24) in order of frequency.

2) Analgesics (painkillers)

The percentages of those who had used analgesics at least once in the past 1 year were 40.9% for males, 55.5% for females, and 48.5% in total (Table 24). The percentages in 1999 were 35.4% for males, 52.4% for females, and 44.4% in total, in 1997, 27.1%, 43.5%, 35.5%,

and in 1995, 26.8%, 42.3%, 34.9% respectively. Therefore, this year showed the highest past year prevalence of analgesics use in all: for males, females, and total. Although slight changes of questionnaire's format in 1999 and 2001 need to be taken into account as a reason of this result, considering the situation of use of tranquilizer, which will be mentioned in next section, the impact of the format's changes will be considered almost none. Therefore, there is a possibility that the past year prevalence of analgesics use was increasing every year, and every year females have higher percentage of analgesics use than males.

Table 25 shows frequency of analgesics use in the past 1 year. The percentages of those who reported "had used several times in the past 1 year" were 28.1% for males, 31.5% for females, and 29.9% in total.

It is difficult to diagnoses a status of abuse or dependence simply from the point of frequency of use, because the analgesics are also used for chronic pains. If two categories "3 ~ 6 times a week" and "almost everyday" in Table 25 were defined as "regular use", then the percentages of regular users were 2.3% for males, 1.8% for females, and 2.0% in total. The rates of regular users in 1999 (1.6% for males, 1.7% for females, and 1.6% in total) were lower than those in this time (2001).

The places to obtain analgesics were listed in Table 26. In total, drugstores or pharmacies hospitals or clinics were reported in order of frequency. The gender difference was found that more males obtained analgesics in hospitals or clinics, but females obtained them from drugstores or pharmacies more frequently than males. This difference may be explained by the fact that females use analgesics for menstrual pain.

The purpose of analgesics use (Table 27) were for headache, toothache, menstrual pain (in order from higher percentage). For male subjects headache, toothache, lower back pain, and for females headache, menstrual pain, toothache were reported (in order from higher percentage). No subjects reported "to play or to feel pleasure" for the purpose of analgesic use.

In general, most analgesics have an effect of dependence. Table 28 shows the lists of subject's perception and actual condition, in terms of analgesics use. The report of "never thought about its use due to the no needs" was the greatest. Other subjects reported "use without any anxiety when it is necessary" (second greatest) and "use rather than not to use although I feel anxious"(Table 28).

3) Tranquilizers

The percentages of those who had used tranquilizers at least once in the past 1 year were 5.9% for males, 8.3% for females, and 7.2% in total (Table 24). The percentages in 1999 (including no respondents) were 5.7% for males, 8.5% for females, and 7.2% in total. Also in

1995 and 1997 were 5.2%, 6.9%, 6.1%, and 4.8%, 7.3%, 6.4% respectively. The results of this year were similar to those in 1999.

The frequency of tranquilizer use in the past year was shown in Table 29. The difference between those who used “several times in a year” (1.9% for males, 3.3% for females, and 2.6% in total) and “almost everyday” (1.9% for males, 2.1% for females, and 2.0% in total) was comparable.

It is difficult to diagnosis the status of abuse or dependence from the point of frequency of use, because tranquilizers are also used for high blood pressure and chronic mental disorders. However if the two categories “3 ~ 6 times a week” and “almost everyday” were defined as regular use, then the percentages were 2.4% for males, 2.5% for females, and 2.4% in total. The percentages in 1999 (2.3% for males, 2.8% for females, 2.6% in total) were almost same as this year 2001.

The places to obtain tranquilizers (Table 30) were “hospital or clinic” (83.6%) and “drug stores or pharmacies” (7.8%). Compared with the percentages in 1999 (93.8% and 6.6% respectively), it seems that the results reflect the spread of medical prescriptions outside the hospitals. However, since the percentage of those who obtained hypnotics at “drug stores or pharmacies”, as mentioned later, was decreased in 2001, it is difficult to form a conclusion that the spread of medical prescriptions outside the hospitals has been extended.

As purposes of tranquilizers use (Table 31), “to treat insomnia” was the most popular answer and “to relieve from anxiety” and “to reduce stress” were followed. No subjects reported “to play or to feel pleasure” for the purpose of tranquilizer use.

In general, most tranquilizers have an effect of dependence. Table 32 shows the lists of subject’s perception and actual condition, in terms of tranquilizer use. The report of “never thought about its use due to the no needs” was the greatest for both males and females. Other subjects reported “use without any anxiety when it is necessary” and “use rather than not to use although I feel anxious”(Table 32). Based on the results, it cannot be assumed that the tranquilizers abuse is becoming a social problem in Japan.

4) Hypnotics

The percentages of those who used hypnotics at least once in the past 1 year were 4.8% for males, 6.8% for females, 5.8% in total (Table 24). The percentages in 1999 (including no respondents) were 4.9% for males, 6.5% for females, and 5.8% in total. Also in 1997 and 1995 were 4.2%, 5.5%, 4.9%, and 4.4%, 5.0%, 4.7% respectively. The results of this year 2001 were similar to those in 1999. The difference between the results in 2001, 1999 and 1997, 1995 can be explained by the change of questionnaire’s formats.

The frequency of hypnotics use in the past 1 year was shown in Table 33. For

females and in total, the percentages of those who used “several times in a year” (3.0% for females and 2.5% in total) were greater than those of used “almost everyday” (1.0% for females and 1.1% in total). For male, the percentages were comparable (1.8% and 1.3% respectively).

It is difficult to diagnosis the status of abuse or dependence from the point of frequency of use, because hypnotics are used for high blood pressure and chronic mental disorders. However if the two categories “3 ~ 6 times a week” and “almost everyday” were defined as regular use, then the percentages were 0.8% for males, 1.4% for females, and 1.7% in total. The percentages in 1999 (1.8% for males, 1.2% for females, 1.5% in total) were almost same as this year 2001, except for slight decline for the male subjects.

The places to obtain hypnotics (Table 34) were “hospital or clinic (92.8%) and “drug stores or pharmacies” (2.9%). Compared with the percentages in 1999 (89.9% and 5.3% respectively), the percentage of those who obtained hypnotics at “drug stores or pharmacies” in 2001 was lower than that in 1999.

As purposes of hypnotics use (Table 35), “to treat insomnia” was the most popular answer and “to relieve from anxiety” and “to reduce stress” were followed for both male and female. No subjects reported “to play or to feel pleasure” for the purpose of hypnotics use.

Most hypnotics have an effect of dependence. Table 36 shows the lists of the subject’s perception and actual condition in terms of hypnotics use. The report of “never thought about its use due to the no needs” was the greatest for both males and females. Other subjects reported “use without any anxiety when it is necessary” and “use rather than not to use although I feel anxious” (Table 36). Based on the results, it cannot be assumed that the hypnotics abuse is becoming a social problem in Japan.

4. Illicit drugs

1) Illicit drugs

Table 37 shows the percentages of those who had heard about the name of illegal drugs.

In terms of volatile solvent, more than 80% of subjects regardless of their age reported it is well known under the name as “thinner”. However, when it was referred as volatile solvent, approximately only 20% had well known, regardless their ages (Figure 11). In terms of toluene, approximately 50% of subjects among the aged over 20 had known commonly about it. However, approximately only 30% of subjects among the aged between 15 and 19 had known about toluene, even though “thinner asobi” is most popular at their age 15 to 19. Compared with the percentage in 1999 (17.2%), the percentages of those who had well known about toluene increased. Therefore, the education about drug abuse prevention needs to be further continued thoroughly. In terms of cannabis, about 90% of subjects (both male and

female) had known about the term “cannabis”, however about hashish, it was well known to 22.1% of male subjects, 12.5% of female subjects, and 17.1% in total (Table 37). Compared with the result of the survey in 1999 (18.7% of male, 9.6% of female, and 13.9% in total), the percentage increased in 2001. By the age categories, the subjects among the aged of 40s had most well known about hashish.

In terms of methamphetamine, 86 to 87% of the subjects (both male and female) had well known about it. However when it was referred as “speed”, the percentage went down to 35.9% in total. Moreover when it was referred as “s”, it went further down to 12.4% (Table 37). By the age categories (Figure 13), “speed” and “s” were most known to teenagers and the proportion decreases as they grow older. To the contrary, “Philopon” and “shabu” showed an opposite trend, particularly “Philopon” showed a remarkable difference between the age groups (Figure 13).

Methamphetamine used to be called “shabu”. As one of the characteristics in the third epidemic of methamphetamine abuse, shabu is now called “speed” or “s” and is used by youths as fashion. The results above are strongly explained by this trend.

Table 38 shows the results of the question that “do you know repeated drug abuse causes drug dependence?” Approximately 94% of male and female subjects answered “Yes”. Compared with the result from the same survey in 1999 (91.1%), the percentage has increased.

2) Expanding trend of illicit drug abuse

Impression about the increasing trend of volatile solvent, cannabis, methamphetamine, heroin, cocaine, and LSD abuse are shown in Table 43, 56, 72, 86, 99 and 112. In every drug, a large number of subjects answered “I don’t know”. The percentage of subjects who answered “increasing than before” was the second highest. Figure 14 shows the percentage of subjects who answered, “increasing than before” by the types of drugs. Not so big changes have been found in “volatile solvent” and “methamphetamine” but “cannabis” showed a remarkable increase. “Heroin”, “cocaine” and “LSD” also showed an increase. Nobody knows which drugs are actually increasing, but the objective of this survey is to describe the actual situation of drug abuse. It is possible that the mass media can impact on impression about the increasing trend of drug abuse.

3) Recognition of illicit drug abusers

Table 44, 58, 74, 87, 100, and 113 shows the question “do you know anybody around you who had ever abused illicit drugs?” The percentage of subjects who answered “yes, I know” is shown in Figure 15. The result of survey in 1999 is quite different from that in 1995 and 1997. The reasons for this big difference was discussed in the report in 1999, such that

possibly because the modifiers such as “near you” or “around you” were omitted in the survey questionnaire 1999. This time in 2001, the questionnaire included those modifiers, but the result was almost same as that in 1999 (Figure 15). As shown in Figure 15, the highest percentages of volatile solvent abuse among the drugs reflects drug abuse situation in Japan as we mention later.

Table 45, 59, 75, 88, 101, and 114 shows the rates of recognizing lifetime drug abusers by age. The summary of these results is shown in Figure 16. The rate of recognizing lifetime drug abuse is high at the age of 30's and 20's regardless of the types of drugs. The total rates for cocaine and LSD are low but still high at the age of 20's.

Table 46, 61, 76, 89, 102, and 115 show the results of question that “how many lifetime drug abusers do you know?”, which are on average, 5.02 for volatile solvent, 5.05 for cannabis, 3.41 for methamphetamine, 4.12 for heroin, 4.10 for cocaine, and 2.89 for LSD.

Table 47, 62, 77, 90, 103, and 116 show the results of question that “do you know anybody around you who have ever abused illicit drugs in the past 1 year?” The percentages of subjects who answered “yes, I know” is shown in Figure 17. Compared with the survey results in 1999, the percentage for volatile solvent was increased and for methamphetamine was decreased.

Table 48, 63, 78, 91, 104, and 117 shows the rates of recognizing lifetime drug abusers in the past 1 year by age. The summary of these results is shown in Figure 18. The rate of recognizing lifetime drug abusers is high at the age of 10's and 20's regardless of the types of drugs.

Also, Table 49, 65, 79, 92, 105, and 118 show the results of question that “how many lifetime drug abusers in the past 1 year do you know?” which are on average, 3.77 for volatile solvent, 3.53 for cannabis, 2.70 for methamphetamine, 3.33 for heroin, 2.27 for cocaine, and 3.56 for LSD.

4) Tempted experience to illicit drug abuse

Table 50, 66, 80, 93, 106, and 119 show the results of question that “have you ever been tempted to use illicit drugs in the past?” The transition of these results is shown in Table 136, 137 and Figure 19. Remarkable increasing trend of volatile solvent and steady increasing trend of cannabis and methamphetamine were found. In order to evaluate the actual situation of drug abuse, the lifetime experience rate of “having being tempted to use illicit drugs” is an important data as well as the lifetime prevalence of illicit drug use. Order of lifetime experience rate of “having being tempted to use illicit drugs shown in Figure 19 is the same as that of the lifetime experience rate of illicit drug abuse. They were volatile solvent, cannabis, and methamphetamine in order of frequency. It will be mentioned in a later

section.

Regardless of the type of drugs, the lifetime experience rate of “having been tempted to use illicit drugs by age shows the highest at the age between 25 and 29, specifically volatile solvent: 10.5% (Table 52), cannabis: 5.4% (Table 68), methamphetamine: 0.8% (Table 85), heroin: 1.2% (Table 95), cocaine: 1.2% (Table 108), and LSD: 1.6% (Table 121).

Also, Figure 20 shows the lifetime experience rate of “having been tempted to use illicit drugs in the past 1 year”. However the rate itself is low and any rate below 0.15% were included within statistical error.

In this kind of survey on illicit drugs, the reliability need to be acknowledged, because of the bias that subjects may be afraid of reporting their illegal behaviors such as drug use. Especially for the drug abuse experience, the important thing is to use a same method and to review the trend of the results in each survey as assuming that we have a same bias. By considering this bias, it is believed that the reliability is higher in the experience rate of having been tempted to use illicit drugs than in the experience rate of drug abuse itself. Also it is expected that the reliability of lifetime experience rate of having been tempted to use illicit drugs is higher than that in the past 1 year.

5) Illicit drug abuse experience.

Table 53, 69, 83, 96, 109, and 122 show the results of lifetime prevalence of illicit drug use. The transition is shown in Figure 21, Table 138 and 139. Increasing rate of cannabis is notable. Although the rate of volatile solvent use has steady increased, the rate of methamphetamine use has decreased compared with that in 1999. As shown in Figure 21, the lifetime prevalence of illicit drug use were high in order from volatile solvent, cannabis, and methamphetamine. As we mentioned earlier, the order is the same as that in lifetime experience rate of having been tempted to use illicit drugs (Figure 19). Therefore, we can confirm that the prevalence of illicit drug use were high in this order. The lifetime prevalence of illicit drug use by age shows the highest at the age between 25 and 29 in volatile solvent: 5.4% (Table 55). The rate of cannabis and methamphetamine were similar at the age between 25-29, 30-34, and 35-39. Table 71 shows the highest rate of cannabis at the age of 30-34 (3.3%) and Table 85 shows the highest rate of methamphetamine at the age of 25-29 (0.8%).

Figure 22 and 23 show the lifetime prevalence of illicit drug use by age. The lifetime prevalence of cannabis and methamphetamine abuse were 2.3% and 2.7% at the age of 20's and 0.7% and 0.7% at the age of 30's respectively. Also, the lifetime prevalence of any drugs was 5.8% at the age of 20's and 4.9% at the age of 30's. Particularly for men, the rates were 7.4% at the age of 20's and 9.5% at the age of 30's. In summary, the lifetime prevalence of any illicit drug use in all subjects who is over 15 was only 2.3%, however when we look at the rate

by age, there were such differences.

Figure 24 and Table 140 show the past year prevalence of illicit drug use. However, the rates were too small that it showed statistical errors.

The reliability is higher in the lifetime prevalence of illicit drug use than in the past year prevalence of illicit drug use. The important thing is to monitor the trend over time.

These data suggests that the methamphetamine abuse hit its peak, but the cannabis abuse has been steadily spread out. It is believed that cannabis abuse is the gate way to methamphetamine and other illicit drug abuse 14). In the same time, cannabis abusers are less likely to be arrested than volatile solvent or methamphetamine abusers 8), and relatively less likely to have psychiatric disorders. Therefore, in terms of cannabis, it is difficult to understand the degree and extent of abuse and dependence. The future trend needs to be monitored carefully.

6) Knowledge of harmful health effects due to drug abuse

Table 39-42 show the result regarding to the knowledge of harmful health effects due to volatile solvent abuse. As we mentioned several times before, volatile solvent abuse is the biggest problem, in terms of the number of abusers. However, the problem of volatile solvent abuse does not get social attention as much as methamphetamine abuse. According to the survey during the second period of methamphetamine abuse, at least one third of methamphetamine abusers/dependent patients had an experience of volatile solvent abuse before their first methamphetamine abuse. Therefore, it is considered that the prevention of volatile solvent can strongly contribute to the prevention of methamphetamine abuse as well as solvent abuse itself. Therefore, the authors continue to teach the harmful health effects due to volatile solvent abuse, using the Nationwide Junior High School Students Survey on Drug Abuse 9) 11) 17). By adopting the same questions from the Nationwide Junior High School Students Survey on Drug Abuse, we hope that this survey, targeting adult can also give a warning not to abuse volatile solvent to the society.

Volatile solvent use sometimes causes death due to acute intoxication. However only 82.7% (2001) and 70.7% (1999) had known this fact (Table 39). In the Nationwide Junior High School Students Survey on Drug Abuse, the fact was well known to only 63.6% (2000) and 67.6% (1998).

As shown in Table 40, 85.5% (2001) and 77.1% (1999) had known the fact that repeated volatile solvent use could sometimes cause psychiatric disease such as illusions and/or delusions. In the Nationwide Junior High School Students Survey on Drug Abuse, the percentages were 74.2% (2000) and 74.1% (1998).

As shown in Table 41, 63.9% (2001) and 44.6% (1999) had known the fact that

volatile solvent abusers who had ever experienced psychiatric symptoms due to repeated solvent abuse and had recovered from these symptoms could sometimes experience “flash back” phenomenon later. In the Nationwide Junior High School Students Survey on Drug Abuse, the percentages were 52.5% (2000) and 46.9% (1998).

As shown in Table 42, 65.8% (2001) and 62.6% (1999) had known the fact that repeated volatile solvent use could cause a motivational syndrome. In the Nationwide Junior High School Students Survey on Drug Abuse, the percentages were 45.4% (2000) and 49.0% (1998).

As a summary, in some reasons, the rates of those who had known about the harmful health effects due to solvent abuse have decreased among junior high school students but increased among the adult in the survey 2001.

As shown in Table 57, 68.9% (2001) and 69.8% (1999) had known the fact that cannabis use can cause psychiatric symptoms, “flash back” phenomenon, and a motivational syndrome.

As shown in Table 73, 73.3% (2001) and 67.0% (1999) had known the fact that repeated methamphetamine use could frequently cause mental disorders, and sometimes cause, “flash back” phenomenon.

The rates of those who had known about harmful health effects due to cannabis use need to be increased in the future.

The rate of those who had known that “magic mushroom” is a poisonous mushroom was 25.3%. This implies the importance of name of drugs.

7) Availability of illicit drugs

Tables 125-130 show the results about availability of illicit drugs. The results by types of drugs and by age were shown in Figures 25-30.

The scales “can easily acquire” and “little difficult but can acquire somehow” are categorized as a group of “possible to acquire”, and the other scales “almost impossible” and “absolutely impossible” are categorized as a group of “impossible to acquire”. In only volatile solvent, a group of “possible to acquire” (48.3%) was greater than a group of “impossible to acquire” (44.1%).

In terms of the types of drugs and age (Figure 25-30), 50% and more of subjects at the age of 10’s, 20’s, 30’s, and 40’s reported “possible to acquire” volatile solvent. The results also revealed that for other drugs, younger generations are more likely to report “possible to acquire”. These results suggest that availability of various types of drugs has increased during the third period of methamphetamine abuse. This situation needs to be addressed.

8) Observance of the Law

Compared with other developed countries, Japan shows lower prevalence of drug abuse and dependence. We assume that this is because of “law-abiding” mentality among Japanese nationals. In Japan, law prohibits methamphetamine use. We investigated the perception of methamphetamine use among Japanese (Table 131 and 132). In the case of cannabis use, 80.5% of subjects selected the item that “I think we should not use at all, before talking about the law” and in the case of methamphetamine use, 84.7% of subjects selected the same item. This result supports our speculation as stated above.

However, when we look at the result by age (Figure 31 and 32), a number of subjects in 10's to 30's, especially in 20's, selected the item that “I think the law is not necessary for the judgment and the decision should be made by each individual” in both cases of cannabis and methamphetamine use. It is obvious that increasing number of those who have this kind of perception has potential to lead the situation of drug abuse to the bad direction. Therefore, it is important to increase the awareness that the drug abuse and dependence problems are beyond “the individual freedom”

E. Conclusion

To estimate the current situation of drug abuse and dependence in Japan, a nationwide general population survey on drug use was conducted.

5000 subjects who were 15 years old were selected by a stratified two-stage random sampling (survey spots: 350). Visiting each subject and distributing a questionnaire, the survey was conducted between September 20 and October 5, 2001.

The effective response rate was 71.5% (n=3575)

Alcohol Drinking

The lifetime prevalence of alcohol drinking (percentages of those who had ever drunk alcohol in the past) were 96.8% for males, 90.8% for females, and 93.7% in total.

Among the lifetime alcohol users, 77.3% of males, 59.4% of females, and 68.1% of total answered that they had drunk alcohol for the first time before the age of 20.

The proportions of those who reported “drink alcohol almost everyday” were the highest in 50's for males and 40's for females (male=40.3%, female=10.6%), then declined.

Alcohol drinking behaviors in Japan are strongly associated with their life-cycle. Therefore, the results suggest that when you discuss about the alcohol drinking problems, it is not helpful to consider the status whether or not they have drunk alcohol, but important thing is to consider about the opportunity, frequency, and quantity of alcohol use.

Tobacco Smoking

The lifetime prevalence of tobacco smoking were 86.5% for males, 45.1% for females,

64.8% in total. Compared with the survey results in 1995 and 1997, the result in 1999 showed that the lifetime prevalence for males had decreased, but the rate for female had been steady. The lifetime prevalence in total in 2001 was highest in the past.

The percentages of those who had smoked tobacco for the first time at the age before 19 years old were 75.7% for males, 56.9% for females, 69.4% in total.

In terms of average number of cigarettes a day in the past 1 year, 11-20 cigarettes were the most frequent (39.5%) for males and more than 21 cigarettes daily were second frequent (28.7%) for males. In contrast with males, 37.8% of females reported that they smoked 1-10 cigarettes on average a day in the past 1 year, and 29.1% reported 11-20 cigarettes.

In terms of age, the number of males who smoke more than 21 cigarettes increased in proportion to their age. For males, the number reached the highest point at their age 50s and decreases afterward. For females, although the number decreased once at their age 20s, it increased to the highest point at their age 50s and decreased afterward.

The percentage of those who had ever thought about quitting smoking among lifetime smokers was lowest among 20's males and then increased in proportion to their age afterwards. Comparing with males, females had considerable increase only in 20's and not so big changes were found before and after 20's.

Medical Drugs

cold medicine, medicine for the digestion, eye drops, poultices, analgesics (painkillers), vitamin pills were reported as standard household medicines in order of frequency. The order was the same as the result of the survey conducted in 1999.

As medical drugs which had been used in the past 1 year, cold medicine, eye drops, analgesics (painkillers), medicine for the digestion, poultices were reported in order of frequency. The percentages of those who had used analgesics regularly (more than 3 times a week) were 2.3% for males, 1.7% of females, and 1.6% in total. Tranquilizers and hypnotics had also been used regularly by 2.4% for males, 2.5% for females, 2.4% in total and 0.8% for males, 1.4% for females, 1.7% in total respectively.

Nobody reported the use of analgesics, tranquilizers and hypnotics for the purpose of "games" or "pleasures".

The results suggest that medical drugs had been used properly.

Illicit drugs

The survey revealed that percentages of those who had known the name of illicit drugs were different based on the street names. In terms of methamphetamine, 86.9 % of the subjects had well known about it. However when it is referred as "speed", the percentage went down to 35.9% in total. Moreover when it is referred as "s", it went further down to

12.4% (Table 37). By the age categories (Figure 13) “speed” and “s” were most known to teenagers and the proportion decreases, as they grow older. As one of the characteristics in the third epidemic of methamphetamine abuse, shabu (methamphetamine) is now called “speed” or “s” and is used by youths as a fashion. The results above are strongly explained by this trend.

The percentages of those who had ever been tempted to use illicit drugs were 3.4% in volatile solvent, 1.8% in cannabis, 1.0% in methamphetamine, 0.3% in cocaine, 0.2% in LSD and, 0.2% in heroin. The lifetime experience rate of “having been tempted to use illicit drugs” by age shows the highest at the age between 25 and 29, specifically volatile solvent: 10.5%, cannabis: 5.4%, methamphetamine: 0.8%, heroin: 1.2%, cocaine: 1.2%, and LSD: 1.6%.

The lifetime prevalence of illicit drug use was 1.6% in volatile solvent, 1.0% in cannabis, 0.3% in methamphetamine, 0.1% in cocaine, 0.1% in LSD and, 0.06% in heroin. Additionally, 2.3% reported the lifetime use of one of these illicit drugs (2.2% in 1999) and 1.2% reported the lifetime use of any illicit drugs except for volatile solvent (1.1% in 1999). Both percentages were the highest in the past. In terms of age, 5.8% of 20’s and 4.9% of 30’s reported the lifetime use of any illicit drugs, and particularly for men, the percentage increased to 7.4% in 20’s and 9.5% in 30’s.

Since this nationwide survey started in 1995, the lifetime prevalence of cannabis use has been steadily increased. Compared with solvent or methamphetamine users, cannabis users are more difficult to be arrested 8) and less likely to have psychiatric disorders. As a characteristic of cannabis users, it is difficult to understand the degree of epidemic for its abuse and dependence 1), so the possibility of epidemic for present cannabis abuse may be more than our expectation. Also, cannabis is likely to be a gateway drug 14), so cannabis abuse may impact on the situation of drug abuse in Japan in the future. It is necessary for us to monitor the extent of the cannabis abuse as well as methamphetamine abuse in the future.

In the lifetime prevalence of drug use by age, volatile solvent showed the highest at the age between 25 and 29 (5.4%). Cannabis and methamphetamine showed almost same prevalence at the age between 25 and 29, 30 and 34, and 35 and 39, however the highest prevalence was at the age between 25 and 29 (0.8%) for methamphetamine and 30 and 34 (3.3%) for cannabis.

In terms of availability of illicit drugs, the percentage of those who answered “can easily obtain” and “a little hard to obtain” (48.3%) was greater than that of those who answered “almost impossible to obtain” and “absolutely impossible” (44.1%) for solvent only. However, in different age groups, the availability of illicit drugs except for volatile solvent

was greater as the generation became younger. This trend suggests the increasing availability of illicit drugs in the third epidemic of methamphetamine abuse. Therefore, extra attention needs to be given.

In the case of cannabis use, 80.5% of subjects selected the item that “I think we should not use at all, before talking about the law” and in the case of methamphetamine use, 84.7% of subjects selected the same item. This result supports our speculation of “law-abiding” mentality among Japanese nationals.

However, if we look at the result by age (Figure 31 and 32), a number of subjects in 20's, 30's and 40's selected the item that “I think the law is not necessary for the judgment and the decision should be made by each individual” in both cases of cannabis and methamphetamine use. It is obvious that increasing number of those who have this kind of perception will lead the situation of drug abuse into the bad direction. Therefore, it is important to increase the awareness that the drug abuse and dependence problems are beyond “the individual freedom”

In summary, the situation of illicit drug abuse in 2001, Japan was extremely satisfactory compared with other developed countries. However, we should not be so optimistic about the current situation, because the percentage of lifetime prevalence of cannabis use has been steadily increasing and also the availability of various drugs has been raised among young generation. We must be more attentive to maintain our present situation of the drug abuse or hopefully eliminate drug abuse in Japan.

Acknowledgement

We would like to express our hearty gratitude to many people who participated in this survey. This survey was supported by Health Sciences Research Grants (Research on Pharmaceutical and Medical), Ministry of Health, Labor and Welfare, 2001.

References

- 1) Ozaki, S., Wada, K., Fukui, S.: Nationwide Psychiatric Hospital Survey on Drug Related Mental Disorders. [Epidemiological Study on Drug Abuse and Dependence and Study on Adequate Treatment for Patients with Toxic Psychosis] (Principal Investigator: Kiyoshi Wada) Research Report. pp. 85-116, 1999. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants by Ministry of Health and Welfare. (Research on Pharmaceutical and Medical Safety) 1998. [in Japanese]
- 2) Fukui, S., Wada, K., Iyo, M.: Household Survey on Drug Dependence. [Social and Psychiatric Study on Drug Dependence] (Principal Investigator: Susumu Fukui) 1992 Research Report. pp. 9-23, 1993. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants

- by Ministry of Health and Welfare. (Research on Countermeasure against Narcotics and other drugs) 1992. [in Japanese]
- 3) Fukui, S., Wada, K., Iyo, M.: Household Survey on Drug Dependence. [Social and Psychiatric Study on Drug Dependence] (Principal Investigator: Susumu Fukui) Research Report. pp. 5-26, 1994. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants by Ministry of Health and Welfare. (Research on Countermeasure against Narcotics and other drugs) 1993. [in Japanese]
 - 4) Fukui, S., Wada, K., Iyo, M.: Household Survey on Drug Dependence. [Social and Psychiatric Study on Drug Dependence] (Principal Investigator: Susumu Fukui) Research Report. pp. 5-34, 1995. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants by Ministry of Health and Welfare. (Research on Countermeasure against Narcotics and other drugs) 1994. [in Japanese]
 - 5) Fukui, S., Wada, K., Iyo, M., Urata, J., Ozaki, S., Household Survey on Drug Abuse and Dependence. [Epidemiological Study on People with Drug Dependence/Intoxication and Study on Psychiatric Services] (Principal Investigator: Hiroshi Teramoto). Research Report. pp. 5-35, 1996. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants by Ministry of Health and Welfare. (Research on Countermeasure against Narcotics and other drugs) 1995. [in Japanese]
 - 6) Fukui, S., Wada, K., Kikuchi, S., Ozaki, S., Urata, J., Household Survey on Drug Abuse and Dependence. [Epidemiological Study on People with Drug Dependence/Intoxication and Study on Psychiatric Services] (Principal Investigator: Hiroshi Teramoto) Research Report. pp. 7-48, 1998. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants by Ministry of Health and Welfare. (Research on Countermeasure against Narcotics and other drugs) 1997. [in Japanese]
 - 7) Wada, K., Fukui, S.: Relationship between Years of Methamphetamine Use and Symptoms of Methamphetamine Psychosis. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 25: 143-158, 1990. [in Japanese with English summary and tables]
 - 8) Wada, K.: Cocaine Abuse in Japan. Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence 29: 83-91, 1994
 - 9) Wada, K., Katsuno, S., Osaki, Y., Nakano, R.: Nationwide Survey on Solvent Use, Cigarette Smoking, and Alcohol Drinking among Junior High School Students. [Epidemiological Study on People with Drug Dependence/Intoxication and Study on Psychiatric Services] (Principal Investigator: Hiroshi Teramoto) Research Report. pp.21-60, 1997. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants by Ministry of Health and Welfare. (Research on Countermeasure against Narcotics and other drugs) 1996. [in Japanese]
 - 10) Wada, K., Price, R.K., Fukui, S.: Reflecting Adult Drinking Culture: Prevalence of Alcohol

- Use and Drinking Situation among Japanese Junior High School Students in Japan. *Journal of Studies on Alcohol* 59: 381-386, 1998.
- 11) Wada, K., Nakano, R., Osaki, Y., Katsuno, S.: Nationwide Survey on Perception and Current Situation of Drug Abuse among Junior High School Students in Japan. [Epidemiological Study on Drug Abuse and Dependence and Study on the Adequate Treatment for Patients with Toxic Psychosis] (Principal Investigator: Kiyoshi Wada) Research Report. pp. 19-83, 1999. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants by Ministry of Health and Welfare. (Research on Countermeasure against Narcotics and other drugs) 1998. [in Japanese]
 - 12) Wada, K.: Recent Trend of and Countermeasure against Drug Dependence. *Nippon Iji Shinpo*. No3920: 25-32, 1999. [in Japanese]
 - 13) Wada, K., Alcohol Drinking among Junior High School Students: -Reflecting Drinking Culture- *Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence* 34:36-48, 1999. [in Japanese with English summary and tables]
 - 14) Wada, K.: The Concept of "Gateway Drug". *Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence* 34: 95-106, 1999. [in Japanese with English summary and tables]
 - 15) Wada, K., Kikuchi, A., Ozaki, S., Kikuchi, S.: Nationwide General Population Survey on Drug Use. [Epidemiological Study on Drug Abuse and Dependence and Study on the Adequate Treatment for Patients with Toxic Psychosis] (Principal Investigator: Kiyoshi Wada) Research Report. pp. 17-70, 2000.3. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants by Ministry of Health and Welfare. (Research on Pharmaceutical and Medical Safety) 1999. [in Japanese]
 - 16) Wada, K.: Lifetime Prevalence of Alcohol Drinking, Cigarette Smoking, and Solvent Inhalation among Junior High School Students in Japan: Tradition and Urbanization. *Japanese Journal of Alcohol Studies and Drug Dependence* 36 (2): 124-141, 2001.
 - 17) Wada, K: Kikuchi, A., Osaki, Y., Katsuno, S.: Nationwide Survey on Perception and Current Situation of Drug Abuse among Junior High School Students in Japan. [Epidemiological Study on Drug Abuse and Dependence, and Study on the Adequate Treatment for Patients with Toxic Psychosis] (Principal Investigator: Kiyoshi Wada) Research Report. pp. 15-76, 2001. Research Subsidy from Health Sciences Research Grants by Ministry of Health and Welfare. (Research on Pharmaceutical and Medical Safety) 2000. [in Japanese]